

319  
393



始



野砲兵教練參考 全

3/9-393



本書ハ野砲兵教練上参考トナルヘキ個人ノ  
作業ヲ集輯セルモノナリ

大正六年十一月

大正  
7. 1. 25  
内交

# 野砲兵教練ノ參考總目次

- 一、術科教育ニ於テ
- 二、徒歩教練教育要領
- 三、馬術教育ニ就テ
- 四、單砲射擊教練教育要領
- 五、射擊間小隊長及砲車長ノ職務
- 六、中隊射擊教練教育要領
- 七、中隊運動教練ノ研究
- 八、號令及記號ニ就テ
- 九、三七式砲隊銃使用法ノ研究
- 十、野砲兵作業教育ニ就テ
- 十一、遮蔽距離ニ就テ
- 十二、方向修正ニ就テ

野砲兵教練ノ參考總目次



野砲兵教練ノ參考總目次

- 十三、破壊射撃ノ成果ヲ良好ナラシムル方法
- 十四、射撃圖ニ就テ
- 十五、遠隔觀測所ヨリスル射撃ニ就テ
- 十六、放列哨監的哨ノ勤務及演習場ノ警戒ニ就テ
- 十七、野砲兵電話通信ニ關スル研究
- 十八、野砲兵宿營地ニ於ケル馬繫場ノ設備及同業務ニ關スル研究
- 十九、行軍及宿營ニ就テ
- 二十、講評ニ就テ
- 二十一、附 錄

術科教育ニ就テ

# 術科教育ニ就テ

## 目次

緒言	一
第一、術科教育ハ意思教育ヲ主體トセサルヘカラス	二
第二、術科教育ハ個人教育ナラサルヘカラス	三
第三、教育ノ達成	七
第四、術科教授上ノ着眼	八
第五、術科教授上ノ主義	八
第六、教式ノ區分	一一
第七、教授ノ階段	一三
第八、精神ノ統一	一五
第九、教授科目ノ排列	一六
第十、教育者ノ威嚴	一六

二

第十一、術科教育ト精神教育……………一七

第十二、演習計畫……………一七

第十三、訓育……………一八

第十四、養護……………二〇

結 論……………二〇

### 術科教育ニ就テ

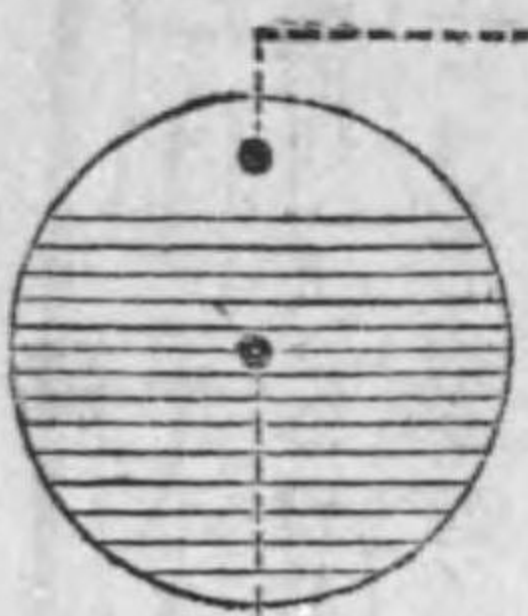
#### 緒 言

教育トハ人ノ身體及精神ヲ發達セシムル作用ニシテ軍隊教育モ亦本原則ニ漏ル、コト能ハサルヘシ然レトモ是レ總括的ノ解釋ニシテ軍隊教育ノ主義ハ他ノ諸學校教育ノ主義ト亦自ラ異ナル所ナカルヘカラス軍隊教育令綱領第一ニ曰ク「軍隊教育ノ目的ハ軍人及軍隊ヲ訓練シテ戰爭ノ任ニ當ラシムルニ在リ而シテ戰爭ノ爲緊要關クヘカラサル要素ハ堅確ナル軍人精神並ニ嚴肅ナル軍紀タリ故ニ軍隊教育ハ此要素ヲ涵養スルヲ以テ主眼トス」ト軍隊教育就中術科教育ハ單ニ練兵場ニ於テ知識ヲ修得セシメ伎倆ヲ向上スルニ止ラス内務及學科ト相俟テ兵卒ノ精神ヲ砥礪シ軍人必須ノ性格ヲ涵養スヘキヤ明ナリ抑軍人精神充溢セサル教練ハ形態上如何ニ美ナルモ戰鬥能力ハ絶無ニシテ斯ノ如キ兵卒ハ軍人ニ非スシテ軍隊職工ナリト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘシ故ニ教育者タル將校ハ常ニ茲ニ留意シ以テ教育ニ從事スルコト緊要ナリ本篇ハ軍隊教育就中術科教育ニ就テ論述スル所アラントス教育學上ニ關スル科學的用語ノ如キハ時ニ正鵠ヲ失スルナキヤヲ恐ルレトモ多少ノ參考タルヲ得ハ幸甚ナリ

### 第一 術科教育ハ意思教育ヲ主體トセサルヘカラス

人ノ精神活動ノ特質ヲ區分スルトキハ知識、感情、意思ノ三方面ニシテ知識ハ主トシテ教授ニヨリ開發シ感情意思ノ陶冶ハ主トシテ訓育ニヨルモノトス勿論知識ト稱シ感情意思ト云フモ一精神作用ノ方面ナレハ截然之ヲ區別シ能ハサルヤ明ナリ某學者ノ說ニヨレハ心ノ作用ヲ上層意識(知)ト下層意識(情意)トニ區分シ其狀恰モ一部磨カレタル玉ノ如シトセリ即上層意識ハ透明清朗ニシテ玉ノ磨カレタル部分ニ等シク下層意識ハ不透不明ナルモ實質ノ存在スルヤ明ナリ前者ハ指針ニシテ後者ハ力ナリト

上層意識(知)



下層意識(情意)

蓋下層意識即情意ノ發達セル人ハ氣力充溢シ萬事遂行セサレハ止マサルモノニシテ上層意識即知ノミ發達セル人ハ頭腦明晰ナルモノノ障礙ニ遭遇センカ忽焉トシテ志氣阻喪シ亦立ツコト能ハサルヲ常トス我典令內務書ノ綱領及軍隊教育令綱領ヲ繙クモ一トシテ下層意識ノ發達ヲ要求セサルナ

キヲ見ルモ亦偶然ナラサルヲ知ルヘシ

抑術科ハ單ニ知ルヲ以テ能事トセス困難苦痛ヲ排除シ直ニ之ヲ實行ニ現ハサルヘカラサルヲ以テ

之カ教育ニ方リテハ意思ノ鍛練即下層意識ノ涵養ヲ基礎トシ自己ノ責務ハ之ヲ遂行セサレハ止マサルノ氣力ヲ附與スルト共ニ服從ノ精神ヲ極度ニ向上シ專心之ヲ遂行スル如クナラシメサルヘカラス然レトモ彼ノ拗戻ト下層意識トハ全然其性質ヲ異ニシ氷炭相容レサルモノトス教育者深ク茲ニ留意スルコト緊要ナリ

### 第二 術科教育ハ個人教育ナラサルヘカラス

教練ノ實施ニ當リテハ常ニ身體及精神ヲ活躍セシメサルヘカラサルヲ以テ幹部兵卒共ニ遺憾ナク其個性ヲ發露スルモノナリ故ニ教育者ハ速ニ其個性ヲ觀破シ長所ヲ助成シ短所ヲ矯正シ以テ其伎倆ヲ向上スルト共ニ善良ナル個性ヲ陶冶セサルヘカラス是レ術科教育ハ個人教育ナラサルヘカラサル所以ニシテ玉石混淆ノ兵卒ニ對シ一律的教育ヲナスカ如キハ全然兵卒ヲ死物視セルモノナリトス凡教官ハ被教育者ノ性行氣質ヲ知ルニアラサレハ之ヲ善導スルコト不可能ナリ是ヲ以テ聊カ氣質ニ關シ研究スヘシ古來氣質ノ解釋種々ナリト雖モ今習慣ニヨリ之ヲ多血質、粘液質、神經質、膽汁質ノ四種トシ諸學者ノ說ヲ綜合シ試ニ一表ヲ作爲ス然レトモ人ハ各種ノ氣質ヲ併有セルヲ以テ人ニヨリ截然區別シ能ハサルヤ勿論ナリ



情	思	意	體	身	區種類	
					多	少
多方面ニ働ケトモ淺ク情ノ發作ニヨリ意思ヲ支配シ理性ノ態度ヲ缺ク	概シテ冷淡ニシテ熱情ニ乏シ	時ニ強キ場合ナキニアラサルモ概シテ弱シ	多方面ニ働ケトモ其力弱ク一事ヲ遂行シタル後他事ニ及フカ如キ忍耐努力ニ乏シ	一見頑健ナルカ如キモ胃弱キカ心臟ノ鼓動不調和ナルカ何レカノ部分ニ生理上多少ノ故障アル者多シ	多	少
					粘	液
					神	經
					膽	汁
濃厚ナリ義ト情トノ間ニ立チテ情ヲ抑ヘ義ニ就キ沈勇ノ態度ヲ示ス力アリ然レトモ往々情ニ支配セラ	深	寡	多	強	弱	
多	寡	多	強	弱	強	
多	寡	多	強	弱	強	
多	寡	多	強	弱	強	

作	動	知	區種類		
			多	少	
敏捷輕躁ニシテ沈着ヲ缺ク談話ハ之ヲヨクスルモ虛言想像等ヨリ來ルコト少カラス喜怒哀樂ヲ顔ニ表ハスヲ制止スル力ニ乏シキハ特色ナリ同情ハ婦人的ニシテ眼前ノ刺戟ニ感動スル	休息靜止ヲ理想トシ他人ノ運動スルヲ見ルモ興奮的状態ナシ寡言沈黙ヲ守ルヲ常トシ自ラ進テ奮闘努力スルノ態度ヲ取ラハ多ク意ニセサルモノトス然レトモ人ニ	散漫斷片的ニシテ各種ノ知識ヲ求ムルモ深ク研究ヲ積ムノ力ナク多方面ニ新奇ヲ漁ルモ精確ニ舊來ノ思想ヲ發展スルノ力ナシ	多	少	
			粘	液	
			神	經	
			膽	汁	
ル、コトナシトセス	一事ニ熱中シ網密ニ研究セサレハ止マズ疑惑ハ特性ニシテ正當ニ働ク時ハ健全ナル研究トナルモ誤ルトキハ憂鬱的厭世家トナル	多	寡		
多	寡	多	強	弱	
多	寡	多	強	弱	強
多	寡	多	強	弱	強
多	寡	多	強	弱	強

及	行	爲	教
コト強キモ理性的ナ ラス勤勉力行ノ精神 ニ乏シク野卑ナル優 美ニ墮落スルモノ少 カラス強キ訓戒又ハ 困窮スルトキハ自殺 等ヲ口ニスルモ臆病 ニシテ生命ヲ失スル カ如キ勇氣ナキヲ常 トス多數ノ友人ニ交 リ行動挑發的ナリ	伍シテ動作スルトキ ハ相當ノ活動ヲ演ス	アラス極メテ平靜ナ ルカ如キモ一旦意ヲ 決セハ人ノ忠言ヲモ 容レズ之ヲ決行スル ニ非常識ナル勇氣ア リ自殺ノ廣告ヲナサ スシテ私ニ自殺シ人 ノ意表ニ出ツルコト 少ナカラス	強キ戒告ヲ施シテ平 素彼ノ行動ヲ監視ス ルヲ要スル場合少ナ シトセス教育ニ當リ テハ持續精確ノ性質 ヲ養フコトニ注意ス ルヲ要ス
		ナク忠言ヲ加ヘ又自 己ノ生命ヲ賭スルモ 人ノ爲ニ盡ス底ノ俠 氣アリ然レトモ人ヲ 凌キ傲然タルヲ缺點 トス性格善ニ向ハサ レハ濟度シ難キモ翻 然其否ヲ知ラハ善ニ 移リ再ヒ惡ニ就カス	常ニ其心志ヲ振起セ シメ勤勞ヲ厭ハサル 方法ヲ講スルヲ要ス
		同情ヲ以テ慰安獎勵 的訓誨ヲナスヘシ又 快活ノ氣象協同ノ精 神ヲ養成スルヲ要ス	
		公明正大確實ナル理 性ト厚キ同情トヲ以 テ善良ナル方向ニ發 展セシムコトヲ得ヘ シ然レトモ大言壯話 シテ實行ヲ力メサル カ人ヲ使役シテ自ラ	

育	特 質	備 考
シテ自ラ勤勞ニ服セ ス倨傲ニ走ルカ如キ ハ戒メサルヘカラス	一時的ナルモ元氣ア ルト同情アルヲ美點 トス	之ヲ要スルニ四氣質各良否ノ兩方面ヲ有セルモ軍人トシテ否國民トシテ良好ナル氣質ハ 其本體ヲ善良ナル膽汁質ニ措キ神經質、粘液質ノ美點ヲ以テ之ヲ補ヘハ蓋適當ナラン
	物ニ遭フテ動セス事 ニ當リテ狼狽セス	
	研究心ニ富ム	
勤勞ニ服セス倨傲ニ 走ルカ如キハ戒メサ ルヘカラス	意思堅固ニシテ精力 ニ富ミ勇敢且義俠的 ナリ	

### 第三 教育ノ達成

教育ノ目的ヲ達成スルニハ教授、訓育、養護(身體ノ發達強健)ノ三方面ナルコト次ノ如シ而シテ該  
三者ハ共ニ密接ナル關係ヲ有シ相併行シテ發達スルニアラサレハ教育ノ目的ヲ達成シ能ハサルモノト  
ス故ニ教育者ハ常ニ該三方面ニ着意シ教練ヲ實施スルコト緊要ナリ然ラサレハ或ハ不慮ノ危害ヲ生シ  
或ハ健康ヲ傷ヒ或ハ軟弱無氣力ノ兵卒タラシムルニ至ルヘシ



#### 第四 術科教授上ノ着眼

術科教育上ノ主義已ニ前述ノ如シ故ニ本教授上ノ着眼モ亦意思ヲ主トセサルヘカラスヤ明ナリ徒ニ多クヲ教授スルモ確信ナク奮闘力行ノ意力ナキ不確實ナル教授ハ全然該目的ニ添ハサルモノトス

#### 第五 術科教授上ノ主義

教授上ノ主義甚多ク各特色ヲ有シ直チニ是非ヲ論斷シ難キモ軍隊教育ノ特色ニ鑑ミ術科教授ノ主義ニ關シ研究セントス  
 興味主義ハ所謂感情主義ニシテ自ラ樂ンテ自勵セシムルモノニシテ効果少カラスト雖モ元來感情ノ

要素ヲ含ムコト多キヲ以テ一旦風波生スルトキハ忽チ挫折シ更ニ研究努力セントスルノ意思ナキニ至ルモノトス故ニ興味主義ヲ以テ教練教授上ノ根本主義トナスノ不可ナルヤ明ナリ

努力主義ハ即意思主義ニシテ或目的ヲ有シ之ヲ實施セントシ向上スルノ主義ニシテ軍人トシテ最モ緊要ナルノミナラス勢力ヲ要スル術科教育ニ於テ該主義ヲ主體トスルコト蓋緊要ナリ即チ「吾ハ是非此件ヲ習得セサルヘカラストノ意思ヲ發動セシムルニ在リ

努力ノ結果成功ノ曙光ニ接スルヤ茲ニ興味ヲ湧出シ更ニ一步ヲ進メテ研究セントスルニ至ルヘク努力ト興味ト互ニ相助ケ循環的ニ作用スルモノニシテ努力ハ常ニ興味ノ主體トナルモノナリ

筋肉勞動主義ハ一ニ作業教授ト稱シ筋肉ヲ活動セシメテ自ラ修習セシムルノ主義ニシテ從テ意思ノ鍛鍊トモナルモノナリ該主義ニ基ク教授ハ被教育者ニ生氣ヲ與ヘ之カ修得ヲ確實ナラシメ且永續セシムルモノナリ故ニ術科教育上極メテ緊要ナルモノトス即一事ヲ説明スルトキハ直チニ之ヲ實行セシメ以テ其印象ヲ深カラシムルヲ要ス彼ノ演習後多クノ講評ヲ與ヘ直ニ教練ヲ終ルカ如キハ全然本主義ニ合セサルモノトス

經濟主義ノ教授ハ經濟的ニ教授セントスルノ主義ナリ凡ソ教育者ハ寡慾ナラサルヘカラス微弱ナル力ヲ散漫的ニ他方面ニ向クルハ徹底ノ方法ニアラス然ルニ本科教練ハ極メテ多端ニシテ輕重本末ヲ考

へ重要ナル事項ニ對シ多クノ力ヲ傾注スル如クセサレハ不知不識ノ間往々本原則ニ反スルコトアルニ至ルモノトス故ニ教育者ハ先ツ各教練科目ノ主義精神ヲ闡明シ其重點ヲ研究シ確乎タル自信ヲ有シ且教授ノ實施ニ方リテハ常ニ達スヘキ希望ヲ定メ假令單一ナル事項ト雖モ其中ノ骨子重點ヲ捕捉シ之カ徹底ヲ充分ナラシムルコト緊要ニシテ是比較的重要ナラサル事項ニ對スル時間及勞力ヲ節約シ教授ヲ經濟的ナラシムル唯一ノ手段ナリトス

該主義ヲ採用スルトキハ兵卒ヲシテ主眼ヲ失スルコトナク着眼ヲ良好ナラシムル事ヲ得ヘク又號令官及砲車長小隊長ノ職務ヲ履行スル場合ニ於テモ重要ナル事項ニ對スル注意ハ恰モ蛇カ昆蟲ヲ覘フカ如ク磁石ノ北極カ常ニ北ヲ指スカ如ク極メテ適確ナルヲ得ヘシ左ニ經濟的教授上重要ナル原則ヲ揚ケ參考ニ供セントス

- 一、不十分ナル教授ハ浪費ナリ  
不十分ナル教授ニヨリ得タル知識ハ基礎堅確ナラサルヲ以テ實施確實ナラサルノミナラス永續セサルモノトス
- 二、教授スヘキ事項ノ趣旨ヲ明瞭完全ナラシメサルハ浪費ナリ
- 三、希望ナク漫然教授スルハ浪費ナリ

操典ニ達スヘキ希望ヲ定メテ教育スヘキヲ主張セル所以亦茲ニ存スヘシ

#### 四、機會教育ハ教授上ノ經濟ナリ

機會教育ハ恰モ貯金ノ如シ操典、教範ニ機會教育ヲ獎勵セル所以亦茲ニ存スヘシ之ヲ要スルニ術科教授上ノ主義ハ術科教育上ノ主義ニ鑑ミ意思主義ヲ主體トシ筋肉勞働主義、經濟主義及興味主義等ノ特點ヲ併セ採用セハ蓋大綱ヲ失スルコトナカルヘシ

### 第六 教式ノ區分

教授上ノ形式ニヨリ之ヲ區分スルトキハ其種類甚多ク各長所ヲ有スルモ術科教育上必要ナルモノヲ舉クレハ概ネ左ノ如シ

#### 一、問答法（啓發法）

該方法ハ殆ト啓發法トモ稱スヘキモノニシテ教授上極メテ有効ナル方法ナリトス故ニ該方法ニ就テハ多少詳細ニ研究スル所アラントス  
發問ニ就テハ正當、明瞭、適切ノ三性質ヲ具備スルヲ要ス然レトモ始終發問法ニヨル時ハ時間ヲ徒費シ且何レカ主要ナル點ナルカラ察知スルコト困難ナルノミナラス注意ヲ怠リ第一、第二、第

三者ト連續的ニ答解ヲ求ムルトキハ被教育者ハ考フルノ假ナク又他ノモノハ自ラ思考スルコトナク答解者ノ答解如何ノミヲ考ヘ効果ナキニ至ルヘシ又發問スルニ當リテハ先ツ一般ニ之ヲ課シ思考セシメタル後某者ヲ指命シテ答解ヲ求ムルヲ可トス然ラサレハ指命シタル一人ノミ思考スルモ他ノモノハ其解答如何ヲ聞カントスルニ至ルヘシ以上論述セシカ如ク問答法ハ教授上極メテ有効ナルモ教育者ノ練磨ヲ要スルコト亦大ナルモノトス而シテ情的心性ヲ開發スルモノニアリテハ感動ヲ與ヘサルヘカラサルニヨリ問答法ヨリモ寧ロ講演法ニヨルヲ可トス

### 二、注入法

注入法ハ桶ニ水ヲ入ル、カ如ク某程度ニ達スルトキハ復入ル、コト能ハス被教育者ノ不消化ヲ來スニ至ル然レトモ新事項ヲ教授スルニハ比較的の多ク採用セラル注入法實施上ノ範式概ネ左ノ如シ

#### 1、指示式

實物標本等ヲ示シ教授スル方法ニシテ説明ヲ省キ兵卒ノ直感ニ訴ヘ印象ヲ深カラシムルノ利アリ

#### 2、範示式

教官模範ヲ示スモノニシテ印象ヲ深カラシメ術科教育上極メテ有效ニシテ成ル可ク該教式ニヨルヲ可トス故ニ教官ハ自ラ兵卒ノ動作ニ通曉シ好模範ヲ垂レ得ルノ伎倆ヲ修養セサルヘカラス

### 3、說明式(講演式)

指示法、範示法ト併用セラル而シテ主要ナル點ニハ特ニ語氣ヲ強メテ其注意心ヲ喚起シ重點ノ發見ニ容易ナラシムルヲ可トス

之ヲ要スルニ以上ノ如ク各特色ヲ有スヘキニヨリ諸教式ハ單獨ニ用フヘキモノニアラスシテ彼此相交ヘ長短相補ヒ教授ノ目的ヲ達成セサルヘカラス故ニ教官ハ一事ヲ教育スルニ當リテハ教育事項ニ就キ研究スルハ勿論如何ナル方法ニヨリ教授スヘキヤヲ計畫シ確乎タル腹案ヲ立ツル事緊要ナリトス同一事項ヲ教育シ其徹底ノ如何ハ教授上ノ伎倆ニ存スルコト多キヲ以テ教官タルモノ常ニ之カ練磨ヲ要スル所以ナリ

## 第七 教授ノ階段

「ヘルバルト」五段教授法ヲ創意シ教育界ニ貢獻スル所甚大ニシテ苟モ教授法ヲ研究セントスルモノハ順序上先ツ該方法ヲ研究セサルヘカラサルコト、ナレリ然レトモ現今ニ於テハ多クハ三段教授法ヲ採用セリ然レトモ其趣旨ハ「ヘルバルト」ノ說ニ基クモノナリ今順序上五段教授法ノ形式ニ關シ例ヲ擧ケテ説明スレハ左ノ如シ

例單砲教練ニ於ケル射向變換ヲ教育セントス

- 一、豫備 必要ナル舊觀念ヲ喚起ス (1) 射向附與ニ關スル舊解念ノ喚起
- 二、提示 新事項ヲ提出ス (2) 射向變換ヲ説明ス
- 三、比較 異同ヲ比較ス (3) 前二者ノ比較
- 四、總括 系統的ニ總括ス (4) 前二者ヲ充分理解セシム
- 五、應用 實地ニ應用セシム (5) 諸種ノ狀況ノ下ニ之ヲ應用セシム

五段教授法ハ以上ノ如ク判然タル區分ニヨリ凡テヲ教授セントスルモノニシテ全ク形式ニ陥ルノ弊アリ之カ爲現今ニ於テハ斯ノ如キ形式ニ基キ教授スルノ必要ナキニ議論一致シ概ネ三段教授法ヲ採用セリ其ノ要領左ノ如シ

例前述ノ場合ニ同シ

- 一、叙述 舊觀念ニ基キ新事項ヲ教授ス 前述ノ (1) (2) ニ同シ
  - 二、理解 理解セシム 前述ノ (3) (4) ニ同シ
  - 三、應用 實地ニ應用セシム 前述ノ (5) ニ同シ
- 教授上ノ階段概ネ以上ノ如シト雖是必シモ教授上ノ外形ニ現ハル、ヘキモノニアラスシテ教官ノ胸

中ニ蘊蓄シ置クヘキモノトス而シテ教授ニ當リテハ概ネ前述ノ階梯ニヨルヘキモ教官ハ其間權變ナカ  
ルヘカラス狀況ニヨリ或ハ突如的ニ或ハ全ク無階段的ニ教授スルノ適切ナルコト決シテ尠カラサルヘ  
シ然レトモ教官以上ノ原則ヲ考慮スルコトナク漫然無秩序ニ教授スルカ如キハ兵卒ノ腦裡ヲ攪拌シ進  
歩上大ナル關係アルヤ明ナリ之ヲ要スルニ克ク教ヘ克ク理解セシメ克ク實施セシムルハ教育上極メテ  
緊要ナル事項ニシテ彼ノ半解ノ儘實施セシメ無意味ニ叱咤面責スルカ如キハ深く戒メサルヘカラス今  
教授ノ階段ト教式ノ採用トヲ研究センニ最初ハ問答法ニヨリ舊觀念ヲ喚起シ後説明式、指示式、範示  
式等ニヨリ教授シ後更ニ問答法ニヨリ之カ理解ヲ確メ以テ實施セシムルノ順序トナルヘシ然レトモ是  
素ヨリ一定ノ方式ニアラス教官ノ最モ苦心ヲ要スル所ニシテ又教育者ノ趣味津津々タル所以ナリトス

### 第八 精神ノ統一

教官ハ被教育者ノ精神ヲ統一シ自我ノモノタラシメサルヘカラス教官説明中兵卒ノ他ヲ向キ或ハ講  
評中眼球ヲ動カスカ如キハ精神統一セサルノ證ナリ教官ノ説明中ハ極メテ靜肅ナラサルヘカラス然レ  
トモ靜肅ニニアリ靜中ノ靜及靜中ノ動即チ是ナリ教官ノ説明中兵卒放心セルカ如キハ靜ハ靜ナルモ是  
靜中ノ靜ニシテ兵卒ハ教官ノ掌中ヲ脱シ教授ノ不徹底トナルノミナラス軍紀上極メテ有害ナリトス兵

卒其精神ヲ活動シ一意専心教官ノ言ヲ靜聽スルハ是靜中ノ動ナリ又教練間活潑ナル運動ヲ行フモ指揮官沈着シ部隊整々ナルハ是動中ノ靜ナリ指揮統禦ノ要訣亦茲ニ存スヘク教官若クハ指揮官部下ノ精神ヲ統一シ得テ初メテ此ノ如クナルヲ得ヘシ教官タリ指揮官タルモノ豈注意セサルヘケンヤ

### 第九 教授科目ノ排列

教授科目ノ排列ハ教授上極メテ緊要ナル事項ニシテ類化作用ニ基キ其理解ヲ容易ララシムル事必要ナリ又類似事項ハ之カ比較研究ニカメ其差異ノ存スル所ヲ闡明シ以テ理解及記憶ヲ確實容易ナラシムルヲ要ス之カ爲其特長及差異ノ點ヲ明ニスルコト緊要ナリ彼ノ漫書ニ人ノ似顔ヲ畫クニ其特長ヲ遺憾ナク發揮スルヲ見ルモ蓋其理明ナルヘシ

### 第十 教育者ノ威嚴

教育者ハ常ニ温情ヲ以テ兵卒ニ接セサルヘカラサルモ亦威嚴ナカラザルヘカラス之カ爲教官ハ自ら威容ヲ端正ニシ殊ニ公務ニ當リテハ其言語ヲ莊嚴ナラシムルヲ要ス就中下士ノ威嚴ヲ保タシムルコトニ着意スルコト緊要ナリ軍紀上許スヘカラサル時ノ外之ヲ兵卒ノ面前ニ於テ叱責スルカ如キハク愼深

マサルヘカラス又一且部下ニ要求シタル事項ハ必ス之ヲ實行セシムルコト緊要ナリ蓋シ此ノ如クニシテ初メテ堅確ナル意志嚴肅ナル軍紀ヲ養成シ軍隊教育ノ目的ヲ達成スルヲ得ヘシ

### 第十一 術科教育ト精神教育

凡ソ教育ハ熱烈ナル精神力ヲ有シ自己ノ希望ヲ達セサレハ止マサルノ概ナカルヘカラス若教育者ニシテ熱誠ヲ缺カンカ假令教授ノ方法完全ナリト雖決シテ良好ナル成果ヲ收メ得サルモノトス又幹部タルト兵卒タルトニ論ナク軍人トシテ極メテ緊要ナル堅確ナル意思、果斷、堅忍、服從等ノ美德ハ術科教育ニ於テ養成セラル、コト甚大ナリ故ニ教官タル者ハ常ニ熱誠ヲ以テ從事シ且教練間部下ヲシテ軍人必須ノ性格ヲ養成スルコトニ着意スルコト緊要ナリ

### 第十二 演習計畫

術科教育上ノ主義及教授上ノ主義前述ノ如シ故ニ其計畫モ亦之ニ準據スルコト緊要ナリ又特ニ注意スヘキハ本科教練ハ技術ニ關スルコト比較的多キヲ以テ其教練往々技術的トナリ志氣ヲ振起スヘキ機會少キヲ遺憾トス然ルニ志氣振起セサル教練ハ死物ナリ故ニ演習計畫ヲナスニ方リ教授上ノ成果ヲ發

揚スルコトニカムルト共ニ如何ニセハ其志氣ヲ鼓舞シ其精神ヲ活躍シ得ヘキカニ着意スルコト緊要ナリ

### 第十三訓 育

凡ソ心ノ働キハ知情意ノ三方面ナルコト己ニ前述ノ如シ故ニ知識ヲ發達セシムル教授作用ノ外感情意思ヲ陶冶シ正ヲ喜ヒ邪ヲ厭ヒ善ヲ愛シ惡ヲ憎ムノ情ヲ養成シ且苟モ正ナランカ善ナランカ如何ナル妨害ニ遭遇スルモ必ス之ヲ斷行シ邪ナランカ惡ナランカ如何ナル誘惑アルモ之ヲ排斥スルノ鞏固ナル意思即チ下層意識ヲ陶冶セサルヘカラス是訓育ノ目的ニシテ術科教育間亦茲ニ着意スルコト緊要ナリ其方法左ノ如シ

#### 一、監視

兵卒ノ行爲ヲ監督シ之ヲ善行ニ誘導シ非行ニ對シ抑制セシムルモノニシテ兵卒ノ信用ヲ受クルトキハ單ニ傍觀スルノミニシテヨク其目的ヲ達成シ得ルモノナリ

#### 二、境遇ノ變化

孟母三遷ノ如キ是ナリ即チ兵卒ノ境遇ヲ變シ其行ヲ改善セシムルモノナリ例ヘハ粘液質ノ兵卒

ヲ膽汁質ノ兵卒ト伍シテ教練ヲ實施セシメ以テ其精神ヲ鼓舞スルカ如シ

#### 三、教訓

醫師ハ患者ノ病狀ヲ知ルニアラサレハ藥石効ナキヤ明ナリ教官ハ兵卒ノ行爲ニ關スル心理狀態ヲ知悉スルミアラサレハ其心靈ニ觸ル、如ク有効ナル教訓ヲナシ能ハサルモノトス故ニ教訓ヲナスニ當リ其個性及當時ノ心理狀態ヲ詳ニシ且ツ之カ訓誨ニ方リテハ適當ナル時機及場所ヲ擇フヲ要ス

#### 四、命令禁止

軍隊ニ於テハ絶對ナル服從ヲ要ス然ルニ兵卒中其爲スヘカラサルヲ知ルモ習慣ノ乏シキ等ノ關係ヨリ之ヲ犯スコトアリ此ノ如キ時ハ教育者ハ堅確ナル意思ヲ示シ命令禁止スルヲ要ス

#### 五、褒賞

褒賞ハ積極的ニシテ善用セハ効果極メテ大ナルヘキモ之カ濫用ヲ慎マサルヘカラス

#### 六、懲罰

懲罰ハ消極的ニシテ利益アリト雖是ト共ニ常ニ孔明涙ヲ振テ馬稷ヲ斬ル底ノ有情ナカルヘカラス抑術科ハ兵卒ノ心性ヲ訓練スルニ最モ絶好ノ機會ナレハ當ニ術科ニ關スル知識ヲ開拓スルニ止マラ



ス其心性ヲ陶冶鍛鍊シ百折不撓忠君愛國ノ軍人ヲ養成スルコトニ力メサルヘカラス

#### 第十四 養 護

術科教育ニ當リ兵卒ノ健康状態ニ關シ着意スルコト亦緊要ナリ然ルニ青年者往々熱心ノ結果着意周密ヲ缺キ不慮ノ危害ヲ生シ或ハ患者ヲ生シ却テ教育ヲ阻害スルコトナシトセス教官タルモノハ宜シク常ニ兵卒ノ内情ニ通曉シ益々健康ヲ増進シ漸ヲ以テ各種ノ天候季節ニ於テ長時間ノ激動ニ堪ヘ以テ戰鬥能力ノ充實ヲ計ラサルヘカラス之ヲ要スルニ軍隊教育ニ於ケル養護ハ常ニ積極的ニシテ消極的ニ陥ラサルコト蓋緊要ナルヘシ

#### 結 論

現下歐洲諸國ニ於テハ列國強大ナル兵員ヲ擧ケテ戰爭ヲ實行シ兵器ノ精銳ハ益々死傷ヲ大ナラシメ之カ補充日モ亦足ラサルノ状態ニ在リ之カ爲メ戰線ニ教育總監ヲ置キ日夜教育ニ從事セルモノ、如シ而シテ我國將來有事ノ日ニ於テモ亦多數ノ兵員ヲ要スルコト明ニシテ平時精練ナル軍隊ヲ養成スヘキヤ勿論有事ノ日僅少ナル時間ヲ以テ尙有爲ノ軍隊ヲ練成スルコト亦蓋緊要ナルヘシ故ニ將校及下級幹

部克ク教育法ニ精通シ其技術ヲ増進スルハ平戰共ニ尙多數ノ軍隊ヲ有スルト同一ナルヘシ抑軍人ハ實行者ニシテ學者ニナラス故ニ教育學ノ蘊奥ヲ極ムルノ必要ナキカ如シト雖將校ハ指揮官タルト共ニ教官タラサルヘカラサルヲ以テ教育學ノ大要ヲ知リ之ヲ有利ニ應用スルコト亦緊要ナルヘシ抑軍隊教育ニ在リテハ軍隊教育令アリ亦他ヲ顧ミルノ必要ナキカ如シ然レトモ教育學ノ大綱ヲ研究シ然ル後教育令ヲ繕ク時ハ蓋シ釋然タル所アルヘシ

徒步教練教育要領

步兵教練教育要領

# 徒步教練教育要領

## 目次

第一、要旨	一
第二、服裝	五
第三、徒步各個教練	六
其一、不動ノ姿勢及停止間ノ運動	六
不動ノ姿勢、 $\frac{1}{2}$ 、右(左)向、半右(左)向、後向	
其二、行進及行進間ノ運動	一三
連步、行進間ノ運動、駢步、集合、解散	
第四、徒步中隊教練	一五
第五、結論	二一

# 徒歩教練教育要領

## 第一 要 旨

- 一、徒歩教練ノ目的ハ操典ノ明示スル所ナルモ如何ニシテ此目的ヲ達成スヘキカハ大ニ研究ヲ要スヘキ問題ナリ抑々此教育ハ各期ヲ通シテ苟モ機會アレハ嚴格ニ實施スヘキモノニシテ各幹部ハ宜シク之カ捕捉ニ注意シ以テ該教練ノ完成ヲ期セサルヘカラス(操、二四、二五)
- 二、教練場ニ於テ上官ヨリ示サレタル事項ハ恰モ電氣ノ良導體ニ傳播スルカ如ク速ニ徹底セラレサルヘカラス徒歩教練ハ之カ實施容易ナルヲ以テ本教練ニ於テ善良ナル慣習ヲ養成スルヲ可トス
- 三、幹部ノ率先躬行ハ兵卒ノ模範トナリ且是ニ好感動ヲ與フルノミナラス自己ノ伎倆ヲ向上セシメ得ヘク又幹部ノ動作ニ依リ教練ノ價值ヲト知シ得ルモノナリ故ニ各人宜シク服裝態度ヲ嚴正ニシ其動作ヲ敏捷ニシ以テ兵卒ヲシテ不知不識ノ間ニ精神上ノ感化(服從、協同、謙讓、敏捷等)ヲ與フルコトニカムヘシ彼ノ手ヲ腰ニシ劍ヲ杖クカ如キハ深ク戒メサルヘカラス(操、一一)
- 四、下士ノ志操ヲ向上シ假令將校不在ノ時ニ於テモ古參下士克ク兵卒ヲ掌握シ嚴格ニ監視シ得ルノ精

神伎倆ヲ養成スルコト極メテ緊要ナリ

- 五、徒歩教練ヲ行フニ方リテハ有形教育ノ外精神教育ヲ包含スルコト緊要ナリ即チ精神的ニ活氣充溢スル如クナラシムルヲ要ス又兵卒ノ身上調査ニ基キ各人ノ體格、精神上ノ缺陷ヲモ矯正スルヲ要ス
- 六、教練ヲ行フニ方リ豫メ其目的精神ヲ兵卒ニ會得セシムルコト緊要ナリ此ノ如クスルトキハ兵卒ヲシテ興味ヲ感セシメ進歩上利益大ナルノミナラス動作ヲシテ形式ニ陥ラシムルコトナク其精神ヲ活躍セシムルヲ得又自習ヲ行ハシムルニモ正鵠ヲ失セサルモノトス(操、一二)
- 七、教官タル將校ハ教練間常ニ助教助手ノ動作ニ對シ特ニ注意ヲ拂フヲ要ス助教助手ヲ指導教育スルハ兵卒教育ヲ進歩セシムル所以ナリ就中徒歩教練ハ未熟ナル助教助手ノ教育伎倆ヲ精神的ニ向上スヘキ絶好ノ機會ナリトス
- 八、各個教練ニ於テ兵卒各個ノ能力ト體力トニ依リ教育ノ手段ヲ異ニスヘキハ操典ノ教ユル所ニシテ所謂玉石混淆ノ兵卒ニ對シ一律的ノ教育ヲナスノ不可ナルヤ明ナリ宜シク性質、職業、生活ノ狀態教育ノ程度、身體検査ノ決果等ヲ參酌シ以テ之ニ適應スル如ク教育スルコト緊要ナリ尙兵卒ヲシテ同一程度ニ進歩セシムルハ固ヨリ助教助手ノ手腕ニ存スト雖モ教官ノ特ニ監督ヲ要スル點ナリトス彼ノ輕重ナク順番ニ教育スルカ如キハ全然兵卒ヲ死物視セルモノニシテ個人教育タル趣旨ニ合セサ

ルモノトス(操一五)

- 九、各個教練ノ主義ハ兵卒個人ヲ訓練スヘキモノニシテ所謂個人教育ヲ行フニ在リ然レトモ極端ニ個人ニ行ハサル可ラサルニ非ス助教助手ノ伎倆及狀況ニ依リ數人同時ニ行フモ可ナリ要ハ中隊教練ノ準備教育ト其目的ヲ異ニセハ可ナリ(操二四)
- 十、兵卒ニ各自ノ固癖ヲ周知セシムルヲ要ス否ラサレハ兵卒實行上ノ指針ナキノミナラス之カ矯正ニ時間ヲ徒費スルモノナリ
- 十一、教練間兵卒カ一言ヲモ發セサルハ苦痛ナリ時々發問シテ答解ヲ求メ以テ其理解ノ程度ヲ確メ且軍人ノ用語ニ慣レシムルヲ可トス然ルトキハ兵卒ノ心機ヲ一轉シ得ル利益ヲモ收メ得ヘシ又兵語ヲ教育スルニ方リ特ニ困難ナル讀ミ方ヲ避ケ成ルヘク平易ナルヲ要ス例ヘハ橋梁ヲ橋、獨立家屋ヲ一軒屋ト云フカ如シ
- 十二、矯正ニ方リテハ先ツ其原因ヲ探究シ根本的ニ矯正スルコト緊要ナリ例ヘハ一動作ノ不良ハ體格ノ不良ニ依ルカ身體ノ凝固ニ依ルカ或ハ單ニ個人ノ習癖ニヨルカノ原因ヲ究ムルカ如シ
- 十三、一教育班ノ人員ハ助教助手ノ數ニ關係スト雖約ネ十人トシ之ニ一名ノ助教(下士)及助手(上等兵)ヲ附スルヲ可トセン

- 十四、兵卒個人ニ復習ヲナシムルニ方リテハ復習ノ方法及要點ヲ教示スルコト必要ナリ然ラサレハ復習其要ヲ得ス反テ固癖ヲ生スルニ至ルヘシ
- 十五、各個教練ヲ行フニ方リ教練場及隊形ノ進擇ハ諸種ノ關係ニヨリ一定シ難キモ適當ナル地區ヲ有シ靜肅ニシテ監視ニ便ナルコト緊要ナリ尙太陽ノ方向、風向及土地ノ狀態等ヲ顧慮スルヲ要ス又各班ノ隊形ハ隣兵ニ顧慮スルコトナク動作シ得ル爲一列トナシ横隊ニ在リテハ片手間隔、縦隊ニ在リテハ片手ノ距離トナスヲ可トス
- 十六、教官ノ助教助手ニ與フル任務注意等ハ極メテ細部ニ亙リ且成ルヘク前日ニ之ヲ與ヘ充分研究セシメ教練時間ニ於テハ成ルヘク死節時ヲ省クコト緊要ナリ
- 十七、助教ノ助手ニ與フル任務ハ簡單ナルモノハ高聲且簡明ニ下シ一般兵卒ニモ之ヲ周知セシムルヲ可トス而シテ此任務ハ通常助教任務中ノ一部分ナルヲ可トス
- 十八、助手ハ助教ノ補助者ナリ故ニ助手ノ動作ハ號令、位置ニ關シテモ助教ノ動作ヲ妨害セサル爲著シク拘束セラルヘキヤ勿論ニシテ助教助手ノ關係ハ精神上ニ形態上ニ明瞭ナラサルヘカラス
- 十九、各個教練ニ於テ最初ヨリ大聲ヲ以テ號令スルトキハ兵卒ノ身體ハ反テ疑固シ其發達ヲ阻害スルノミナラス死節時ヲ費スコト大ナリ故ニ最初ハ教官兵卒ノ面前ニ到ラハ不動ノ姿勢ヲ取り又ハ右向ヲ爲ス如ク約束ヲ爲シ或ハ姓ヲ呼フトキハ不動ノ姿勢ヲ取ル如ク告示シ或ハ「右ヲ向ケ」「止レ」等ノ告諭ノ下ニ動作セシメ以テ漸進的ニ教育シ進歩スルニ從ヒ明快ナル號令ヲ用フルヲ可トス

## 第一服 裝

- 一、服裝ヲ嚴正ニスヘキハ素ヨリ緊要ニシテ各人凡テ齊一ナルヲ要ス殊ニ個人ノ端正ナル服裝ハ軍人ノ威容ヲ莊嚴ニスル所以ナルコトヲ充分ニ自覺セシムヘシ之カ爲兵卒ヲシテ能ク着裝法ヲ熟知セシメ兵卒相互ニ矯正スルヲ立前トスルヲ可トス又幹部ノ間斷ナキ監視矯正ハ極メテ緊要ナリ
- 二、服裝検査ヲ行フニハ其方法種々アリト雖同一種類毎ニ全般ニ亙リ検査スルトキハ其缺點ヲ發見スルコト容易ナルモノナリ例ヘハ先ツ軍帽ノ冠リ方、次ニ銃劍ノ帶ヒ方等逐次ニ検査スルカ如シ又部位ヲ示シ助教、助手ヲシテ一部ヲ擔任セシムルモ可ナリ
- 三、服裝検査ニ於テテハ服裝ノ外被服ノ保存、適合、身體ノ清潔殊ニ顔色及眼光ニ注意スルコト肝要ナリ是兵卒ノ心理狀態ヲ看破スルニ最モ好機會ナレハナリ
- 下級幹部ヲシテ服裝検査ヲ爲サシムルニ方リテハ着眼點ヲ示シ將校ハ其良否ヲ監督スルコト緊要ナリ

### 第三 徒歩各個教練

其一 不動ノ姿勢及停止間ノ運動

(一) 不動ノ姿勢

一、不動ノ姿勢ニ關スル注意左ノ如シ

1、着眼點、本邦人ノ習慣タル下ヲ向ク癖ヲ矯正スル爲特ニ注意ヲ要ス而シテ前方ヲ直視スヘキハ操典ノ指定スル所ニシテ一點ヲ凝視スルニアラス(操二八)

2、足ノ開キ方、本邦人ノ習慣トシテ狭キニ失シ易シ故ニ教育ノ初期ニ在リテハ狭カラシヨリハ寧ろ廣カラシムル如ク注意ヲ拂フヲ可トス

3、上體傾キノ度ハ中隊全員同一ナルヲ要ス之カ爲矯正上一ノ基準ヲ設クルヲ可トス

二、不動ノ姿勢ヲ教育スルニ方リテハ徒ニ形態上ニ走ルコトナク精神的ニ教育スルコト緊要ナリ

三、一旦不動ノ姿勢ヲ教育セハ如何ナル時機ニ於テモ嚴ニ之ヲ監督シ機ヲ失セス矯正スルコト必要ナリ(内務ト教練トノ連繫)

四、眼ノ動クハ精神動搖シ活力ナキハ精神ノ弛緩ヲ表ハスモノニシテ口元締ラサルハ氣勢充實セサル

ノ證左ナリ故ニ不動ノ姿勢ニ於テハ殊ニ精神ヲ緊張シ眼ヲ動カサス且口ヲ堅ク締ムルコト極メテ緊要リナ實驗ニ依ルニ最初ノ時機ニ於テ嚴ニ之ヲ要求スルトキハ殆ント矯正シ得ルモノトス又口ヲ結フニハ奥齒ヲ輕ク嚙ミ合ス如クスルヲ可トス眼ハ充分ニ開キ且瞬ヲ屢々セサルヲ要ス

五、本邦人ハ下ヲ向ク習慣ヲ有スル關係カ不動ノ姿勢ニ於テ頭ノ前出スルモノ比較的多キカ如シ是カ爲頭ノ後方ヲ襟ニ附着セシメ後頭部ヲ上方ニ引伸ス如クスルヲ可トス而シテ此事ハ單獨歩行ノ際ニ於テモ常ニ該注意ヲ守ラシムルヲ要ス

六、不動ノ姿勢ニ於テ兵卒單ニ中指ヲ袴ノ縫目ノ處ニ當テントシ手首前出スル者多シ之カ爲特ニ兩肩及兩臂ヲ後方ニ引カシムルコトニ注意スルト共ニ袴ヲ正シク穿タシムルヲ要ス

七、不動ノ姿勢ニ於テ上體ノ微動ヲ防クニハ左ノ要領ヲ十分會得セシメ且各個教練ノ際ヨリ十分注意シテ矯正スルヲ要ス

兩足尖ニテ土ヲ攫ム如クシ拇指ニ力ヲ入レ腰ヲ後方ニ引キ呼吸ノ回数ヲ少クシ且下腹ニ稍力ヲ入ルル如クス

八、不動ノ姿勢ノ教育順序概ネ次ノ如シ

一、目的精神

徒歩教練教育要領

二、足ノ位置、兩足ノ開度及方向

三、膝及腰

四、重心ノ位置

五、肩、臂及手

六、頸及頭

七、眼

教育ノ方法ハ種々アルヘキモ最初ハ列中ニ於テ各人ニ就テ實施シ次ニ一步前出セシメテ行ハシメ最  
後ニ列中ヨリ離レテ助教ノ前ニ於テ實施セシムル如ク漸進的ニ教育スルヲ可トス

九、不動ノ姿勢ヲ保有スル爲力ノ配當概ネ左ノ如シ

一、上體ノ重心ヲ一定スル爲足ノ拇指頭ニ力ヲ入ル、コト

二、兩膝ヲ伸ス爲僅ニ力ヲ加ヘテ後方ニ壓スルコト

三、上體ヲ前方ニ傾クル爲腰ヲ後方ニ引クコト

四、兩肩狭カラサル爲僅ニ後方ニ引クコト

五、頸ヲ出サ、ル爲頂ニ僅ニ力ヲ入レ頸ヲ眞直ニスルコト

十、漠然不動ノ姿勢ノ自習ヲ命スルハ理由ナキコト、ス故ニ地上ニ線ヲ畫カシメ以テ不動ノ姿勢ノ一

部タル兩足ノ位置開度等ヲ該線ヲ基準トシテ練習セシムル等部分的ナルヲ可トス其他ノ演習ニ於ケ  
ル自習モ亦此要領ニ準スヘシ

(二) 休　　メ

一、「休メ」ニテ左足ヲ出ストキハ迅速ニ出サシムヘシ是號令ニ依リ動作スルモノニシテ未タ休憩ノ範  
圍ニアラサレハナリ又號令ニテ直ニ下ヲ向キ或ハ無意味ニ咳ヲ爲スカ如キハ戒メサルヘカラス

二、休憩中特ニ注意スヘキハ常ニ威嚴ヲ損セサルコト及全ク放心スルコトナク教官ニ注意ヲ拂フコト  
是ナリ

三、休憩中足ヲ換フルトキハ一旦正シク不動ノ姿勢ヲ取り然ル後他ノ足ヲ出スヲ要ス而シテ各個教練  
中ヨリ此注意ヲ以テ教育セサレハ中隊教練ニ際シ最初ノ休憩ニ於テ既ニ全部ノ整頓ヲ害スルニ至ル  
ヘシ之カ爲注意スヘキハ兵卒不動ノ姿勢ヲ取りタルトキ兩腿及膝ノ附着ノ感覺ヲ覺エシムルヲ可ト  
ス

(三) 右(左)向、半右(左)向

一、此動作ニ於テ最モ緊要ナルハ正シク方向ヲ變換スルニ在リ之カ爲左踵ニテ右(左)ニ向キ且腿及膝



ノ感覺ヲ變セシメサルコトニ注意シテ教育スルヲ要ス又此動作ハ地上ニ線ヲ畫シ兵卒ヲシテ自習セシムルトキハ効果大ナルモノナリ

二、此動作ハ單ニ足ノミヲ以テ行フコトナク腰ヲ以テ行フ如クスルヲ可トス

三、教育ノ初期ニ在リテハ右(左)向ヲ行ヒタル後直ニ身體動搖スルモノ多シ之カ爲此際足尖ニ僅ニ力ヲ入レ土ヲ攪ム如クスルヲ可トス

(四) 後 向

一、第一動ニテ右足ヲ引ク程度ハ必スシモ一定スル必異ナシト雖教育ノ初期ニアリテハ概ネ幾何ノ所ニ在ラシムルカヲ示スヲ可トス

二、回轉ノ際ニハ腰ヲ以テスル如クシ尙第三動ニテ右足ヲ引キ着ケタル時ハ上體動搖シ易シ故ニ此際足尖ニ力ヲ入ル、ルヲ可トス又不動ノ姿勢ニ於ケル腿及膝ノ附着感覺ニ基キ足ヲ引クトキハ兩踵ヲ一線ニ爲シ得ルモノトス

第二 行進及行進間ノ運動

(一) 速 步

一、行進ハ不動ノ姿勢ト等シク各個教練中主要ナル動作ニシテ將來中隊教練ノ基礎ヲ爲スモノナリ而

シテ之カ教育ハ頗ル困難ナルヲ以テ特ニ意ヲ用ヒ個人ニツキ綿密ニ矯正シ整齊確實ニ實施スルヲ要ス

二、速步行進ノ要領ハ上體ノ姿勢ヲ正シクシ腰ヲ以テ推進スルヲ要ス即チ上體ハ其運動ニトモナヒテ進ミ所謂上體ト下肢トノ氣合一致スルコト緊要ナリ

三、體重ハ速ニ踏ミ着ケタル足ニ移スコト必要ナリ否ラサレハ上體後方ニ反リ足ハ蹈着クル際ニ後退シ歩幅縮ミ氣勢現ハレサルモノトス

四、速步行進ノ要領ヲ會得セシムルニハ最初歩幅ヲ廣クシ速度ヲ遅クシ漸次熟達スルニ從ヒ正規ノ歩幅及速度ニ移ルヲ可トス但各個教練ニ於テハ已ニ熟達ノ域ニ進ムモ尙速度遅キノ弊ニ陥リ易シ

五、已ニ速步行進ノ要領ヲ會得スルニ至レハ身體柔軟トナリ平均運動ニ堪ユルノ證ニシテ他ノ動作モ亦進歩顯著ナルモノトス

六、速步行進ノ教育順序及方法概ネ左ノ如シ

1、自然行進

所謂自然的行進ニシテ單ニ姿勢ヲ正シクシ普通ニ行進スル方法ナリ最初ハ此行進ヲ行ヒ以テ行進ノ素地ヲ作ルモノナレトモ初ヨリ長時間之ヲ行フトキハ靴傷ヲ作り反テ進歩ヲ妨クルモノトス從

來自然行進ト稱シ速步行進準備教育ノ一階梯トシテ高ク手足ヲ動シ舞踏的ノ行進ヲナサシムルモ  
ノアリシモ是レ何等理由ナキコトニシテ身體ヲ柔軟ナラシムル目的トセハ宜ク體操ヲ採用スヘシ  
斯ノ如キ進行ヲ行フトキハ却テ固癖ヲ生シ伸フヘキ膈モ伸ヒサルニ至ルノミナラス徒ニ無益ノ疲  
勞ヲナサシメ足部ノ疾患ヲ生スルニ至ルヘシ

2、直行進

正シク直行進ヲ行フコトハ中隊教練ニ於ケル行進ノ基礎トナルモノニシテ且頗ル困難ナリ故ニ最  
初ヨリ注意ヲ拂ヒ十分之ニ慣熟セシムルヲ要ス之カ爲前方ニ目標ヲ示シ直行進ヲ行ハシムルヲ可  
トス(一々目標ヲ指示スルノ繁ヲ避ケル爲旗等ヲ植立スルヲ可トス)

速步行進ヲ教育スル爲往々馬術ヲ蹄跡上ニ於テ實施スルカ如ク方形又ハ矩形ヲ畫キ行進セシメ教  
官ハ其中央ニ在リテ之カ矯正ニ任スルモノアルモ此ノ如クスルトキハ兵卒ハ自然ニ前方ノ兵卒ニ  
重疊セントシ左右ニ偏倚シ從テ直行進ヲ爲スコト能ハス寧ロ有害ナル教育法ナリ

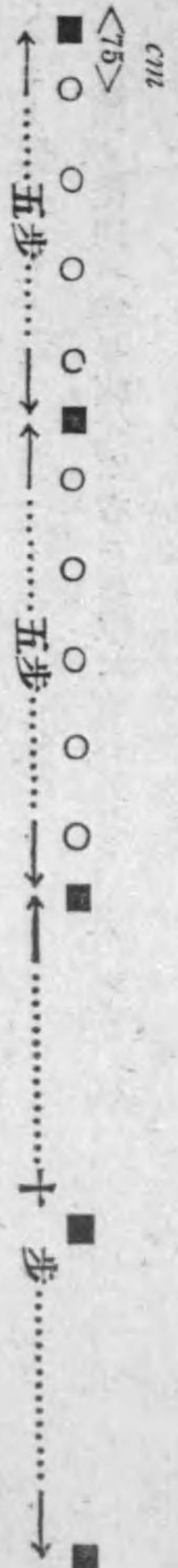
3、手ノ振り方、上體ノ保持及着眼

自然行進間ニ於テ漸次手ノ振り方、上體ノ保持及着眼ニ就テ教育ス以上ノ矯正略々終ルトキハ單  
ニ膝ヲ伸シテ行進スルコトヲ要求ス

速步行進ノ教育ハ安リニ急クヘカラス屢々體操ヲ行ヒ以テ身體ノ凝固ヲ解クヲ要ス

4、正シキ速步行進

正シキ速步行進ヲ行フニ方リテハ先ツ模範ヲ示シ其要領ヲ知ラシメ次テ助教ハ兵卒ト手ヲ組ミ一  
人宛綿密ニ教育スルヲ可トス略々歩法ヲ會得スルニ至レハ歩幅及速度ヲ齊一ナラシムル爲適宜ノ  
間隔ヲ以テ一列縱隊ノ橫隊ヲ作ラシメ(橫隊ノ先頭ハ同一線上ニ在ラシムルヲ可トス)然ル後各  
列ノ前方ニ等間隔ニ植立シアル標旗ヲ目標トシ先ツ先頭兵ヨリ發達セシメ爾後若干歩ヲ隔テ、同  
番號ノ者ヲ同時ニ發進セシム然ルトキハ各兵卒ハ自然ニ左右ノ整頓及速度一致シ不知不識ノ間ニ  
於テ速歩ヲ規正スルヲ得ヘシ此際教官ハ時計ヲ利用シ以テ其速度步數等ヲ規正スヘシ又舍前ニ左  
圖ノ如キ標杭ヲ植テ兵卒ヲシテ自習セシムルヲ可トス



(11) 行進間ノ運動

- 一、行進間ノ運動ニ於テ犯シ難キ缺點ハ上體、脚、腰及手ノ一致セサルコト及新行進方向正シカラサルコト是ナリ前者ノ爲ニハ腰ヲ以テ動作スルコトニ注意シ後者ノ爲ニハ着眼點ヲ正シク新方向ニ向クルコト緊要ナリ
- 二、行進間ノ後向ハ半身幅丈ケ右ニ變位スヘキヲ以テ注意ヲ要ス
- 三、後向ニ於テハ最初ノ第一步ヲ正規ノ如クスルコト緊要ナリ

(三) 駢 步

- 一、駢步ニ於テ脚ノ運ヒ方少シモ反動ヲ利用セス或ハ過度ニ彈力アラシムル如クスルハ共ニ永續セサルモノトス又頭ノ前出セサルコトニ注意スヘシ  
駢步ノ要領ハ脚ノ各關節ニ彈力アル如クシ其勢ヲ利用シ上下ニ反動ヲ取り先ツ足尖ヨリ足ノ全部ヲ地面ニ接着スル如ク行進スルモノトス
- 二、駢步ニ於テハ肘ヲ後方ニ引キ胸ヲ十分張り以テ肺活量ヲ大ニシ且下腹部ニ稍々力ヲ入レ腰ヲ以テ前進シ推進ノ爲重心ハ全ク腰ニ依リ保持スルヲ要ス
- 三、兩手ヲ凝ラサル如ク振動スルヲ要ス否ラサレハ兩肩前後ニ動搖スルニ至ルヘシ

(四) 集 合、解 散

一、集合、解散ハ兵卒ノ心氣ヲ一轉シ快活、活潑ノ氣象ヲ養成スルノ利アリ之カ爲屢實施スルヲ可トス但心氣一轉ノ結果瞬時精神ノ統一ヲ害スルコトアルヘキヲ以テ茲ニ留意スルヲ要ス又狹少ナル地域ニ於テ或ハ至短距離内ニ於テ集合解散ヲ行フトキハ混雜ヲ生スルノミニシテ大ナル利益ナキモノトス

第四 徒歩中隊教練

- 一、徒歩中隊教練ハ中隊ヲシテ中隊長ノ號令ニ從ヒ其意圖ノ如ク規定ノ運動ヲ實行シ團結ヲ鞏固ナラシムルヲ以テ主眼トスルハ操典ノ明示スル所ナリ而シテ是カ基礎ハ中隊全員姿勢服裝動作ノ齊一及中隊長ヲ核心トスル精神湧溢スルニ在リ
- 二、中隊教練ヲ行フニハ之カ階梯トシテ準備教育ヲ爲スヲ要ス而シテ各階梯ニ於テ練成スヘキ主目的ヲ確定シ以テ綿密ニ教育シ遂ニ完全ナル中隊ヲ練成スルコト緊要ナリ左ニ準備教育ノ一例ヲ示サン

徒歩中隊教練準備教育計畫

各個教練	數人教練	小部隊ノ教練	小隊ノ教練
服裝ノ齊一	不動ノ姿勢	整頓(一翼)	整頓(兩翼)

不動ノ姿勢ノ齊一	速歩ノ齊一	各種動作ノ齊一	伍ノ重複分解	縦隊ノ行進
速歩ノ齊一	各種動作ノ齊一	其他動作ノ齊一	押	伍
整頓ノ爲メ使用スル小足ノ動作	重疊、距離ノ保持	其他動作ノ齊一	其他動作ノ齊一	
其他動作ノ齊一	整頓	閱	兵	
直行	進	部隊ノ敬禮		
集會、解散、横隊(四人)ノ徒歩行進				

(備考) 本表各個教練欄内ノ事項ハ各個教練中茲ニ着意シテ演習スヘキモ中隊教練トノ關係ヲ

明瞭ナラシムル爲メ本表中ニ之ヲ掲クルコト、セリ

三、各個教練中ニ於テ中隊教練ヲ準備スル爲メ特ニ着眼スヘキ事項左ノ如シ

- 1、不動ノ姿勢、特ニ上體ノ傾度、着眼、足ノ方向ノ齊一
- 2、歩法、特ニ速歩ニ於テ歩長、速度、脚ノ高サ、手ノ振り方ノ齊一、直行進ノ正確
- 3、重疊、(苟モ縦隊ヲ形成スルトキハ絕對ニ重疊セシム)
- 4、整頓ノ爲メ使用スル小歩

四、小部隊ヲ以テ行フ準備教育ニ先チ數人ヲ以テ準備教育ヲ爲スヲ要ス之カ爲メ特ニ着眼スヘキ事項左ノ如シ

- 1、姿勢、動作ノ齊一
- 2、重疊、整頓、(重疊スルトキハ横隊ノ伍ト見做シ行進間ト停止間トニ論ナク正シク八十珊米ノ距離ヲ保チ重疊セシメ又數人併列スルトキハ横隊ノ一部ト見做シ整頓ヲ要求ス)
- 五、小部隊ヲ以テスル準備教育ニ於テ特ニ着眼スヘキ事項左ノ如シ
  - 1、各兵卒ノ間隔
  - 2、整頓
  - イ、整頓ヲ教育スルニハ最初一列横隊ニ於テ完全ニ整頓セシメ以テ各自ニ整頓ノ基準ヲ示ス(整頓線ハ列兵ノ胸ノ線トス)
  - ロ、已ニ整頓ノ觀念ヲ得ルニ至レハ一列横隊トナシ一人宛實施セシム(此際左足外方ニ向ヒ且後退セサルコトニ注意シ又列兵ハ整頓線ノ後方ニ止マル如ク最後ノ一步ハ小足ヲ踏ムコト必要ナリ)
  - ハ、次テ二人若クハ三人宛實施セシメ後全部同時ニ整頓セシム

ニ、一列ニ於テ實施シ得ルニ至レハ二列横隊ニ於テ特ニ後列兵ノ動作ヲ教育スル目的ヲ以テ略々前述ノ階梯ニ從ヒ教育ス

ホ、舍前ニ於テ兵舍ニ併行及斜交ノ線ヲ畫シ日々教練ノ前後等ニ於テ該線上ニ集合セシムル如クスルトキハ利益大ナルモノトス

3、以上ノ外準備教育ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

イ、嚮導ハ正シキ姿勢ヲ以テ矯正スルコト必要ナリ

ロ、嚮導ハ先ツ已ニ近キ一二兵卒ヲ規正スルコト特ニ緊要ナリ

ハ、列兵整頓線ヲ踏ミ越ユルトキハ整頓ハ全然成立セサルモノトス

ニ、二列整頓ノトキ後列兵ハ先ツ前列兵ニ重疊スルコト必要ナリ之カ爲前列兵ノ移動終ルヲ待テテ頭ヲ右(左)ニ向クルコト緊要ナリ

ホ、通常右方整頓ノミヲ行ヒ易シ之カ爲左足後退スルノ癖ヲ生スルニ至ル故ニ右方整頓ト略々同

回数左方整頓ヲ行ハシムルヲ要ス又前後列兵ハ屢々之ヲ入レ換ヘテ練習スルコト緊要ナリ

ヘ、列兵ハ嚮導ヨリ矯正ヲ受クルトキハ一般ノ整頓線ヲ考ヘテ進退シ無意味ニ動カサルヲ要ス

ト、斜方向ノ整頓モ亦屢々之ヲ實施スルヲ要ス

4、伍ノ重複分解

イ、前出スヘキ兵卒ハ足ヲ伸シタル儘大股ニテ新位置ニ就クモノトス

ロ、正シク新位置ニ就キ得ル如ク動作シ又動作後ハ動カサルモノトス

ハ、側面向ニ在リテ右(左)向ヲナシ伍ヲ解キタルトキハ嚮導ノ方ヨリ逐次ニ頭ヲ正面ニ復スルモノトス

ニ、前後列兵及奇、偶數兵ヲ屢々入換ヘテ練習セシムルコト必要ナリ

5、方向變換

イ、旋回軸ニ在ル嚮導ハ小足ヲ踏ムコトニ注意スヘシ

ロ、各列ノ内方兵ハ嚮導ノ方向變換ヲ行ヒタル地點ニ於テ正シク方向變換ヲ行フコト必要ナリ

六、小隊ヲ以テスル準備教育ニ於テ特ニ着眼スヘキ事項左ノ如シ

1、整頓

イ、兩翼ノ嚮導ヲ出シ整頓セシム而シテ兩翼ノ位置ヲ正スニ方リテハ現在ノ列兵間隔ノ廣狹ニ注意スルコト必要ナリ

ロ、嚮導ハ絶對ノ基準ナルヲ以テ姿勢ヲ變シ或ハ其位置ヲ動クカ如キハ全然不可ナリ若シ移動ス

ル必要アルトキハ整頓完了後ニ於テスヘシ

ハ、號令官ハ小隊ノ中央前ニ於テ號令ヲ下シ又「直レ」ノ號令ハ整頓略々完了セル時機ヲ見計ヒ下スヲ可トス

ニ、建築物等存在セル練兵場等ニ於テ實施スル時ハ時々之ニ斜交シテ行フヲ要ス  
 2、行 進

此場合ニ於テハ列兵ノミナラス押伍及嚮導ノ動作ニ注意シ教育スルヲ要ス

七、前述ノ如ク準備教育ニ於テハ其階梯ニ應シ科目ヲ定メ着眼ヲ異ニセサルヘカラサルモ特ニ各個教育ニ於テ實施セル事項ヲ正確ニ實行セシムルコト緊要ナリ之カ爲監視ヲ嚴密ナラシムルヲ要ス又機會ヲ捕捉シ二三年兵ト伍シテ動作セシメ以テ其姿勢動作ノ齊一ヲ計ルコト緊要ナリ、

八、前諸條ノ準備教育ヲ終リタルトキハ茲ニ始メテ完全ナル中隊ヲ編成シ中隊教練ヲ實施スルモノトス之カ爲中隊長ハ最嚴正ナル態度ヲ以テ中隊ヲ指揮シ以テ中隊教練ノ目的ヲ十分ニ達成セサルヘカラス而シテ之カ實施中其要領未タ適當ナラサルモノハ單ニ注意ヲ與ヘ反覆スルニ止ムルコトナク中隊長ハ自己ノ意圖ヲ綿密ニ小隊長ニ示シ小隊毎ニ之ヲ實施セシメ要ヲ得ルニ至ラハ更ニ中隊ニ合シ實施スルヲ可トス

### 第五 結 論

諸教練教育中徒歩教練ハ秩序的ニシテ且ツ比較的容易ナリ故ニ徒歩教練ニ於テ教育ノ要領ヲ充分研究シ且ツ是ヲ下士上等兵ニ普及シ以テ其原則ヲ他ノ單砲教練、馭法教練等ノ教育ニ應用セシムルコト緊要ナリ某海軍將校ノ說ヲ聞クニ長月日艦内生活ノ持續スルトキハ動作姿勢嚴確ヲ缺クニ至ルモ一旦上隊シ數回徒歩教練ヲ實施スルトキハ精神緊張シ軍紀嚴肅ナルニ至ルト我砲兵ノ諸教練ハ複雑ナルヲ以テ所謂機會ヲ捕ヘ軍紀教育上便利ナル本教練ヲ屢々嚴格ニ實施シ且下級幹部ノ教育伎倆ヲ向上スルコト緊要ナリ抑教育ハ其原則同一ニシテ一旦其要領ヲ會得シ趣味ヲ解スルニ至ラハ教育科目ノ如何ニ關セス正鵠ヲ失セサルモノトス抑徒歩教練ニ於テ優秀ナル助教カ他ノ教練ニ於ケル助教トシテノ不良ナルノ理アラヤ本篇ニ於テ論述セル所ハ單ニ大綱ニ止リ又徒歩教練ノ教育ト相俟テ教育スヘキ敬禮(個人ノ敬禮、閱兵、部隊ノ敬禮等)ノ動作等ニ關シ研究スヘキ事項甚タ多シト雖トモ茲ニ之ヲ省ク

馬術教育ニ就テ

馬術教育ニ就テ

目次

第一、馬術教育一般ノ要領	一
第二、調馬索	二
第三、馬上體操	三
第四、騎坐及姿勢ノ養成	七
第五、馬場	九
第六、運動及步度ノ配合	一〇
第七、諸運動施行ニ關スル注意	一二
第八、各個乗	一五
第九、障礙飛越	一六
第十、野外騎乗	一七

馬術教育ニ就テ(目次)



## 馬術教育ニ就テ

### 第一 馬術教育一般ノ要領

馬術教育ノ進歩ヲ期スルニハ兵卒ヲシテ馬術ニ對スル嗜好心ヲ喚起セシムルコト緊要ナリ之カ爲教官ハ初年兵ノ入隊當初ニ於テ速ニ馬匹ノ良性ヲ了解セシメ人馬ノ親和接近ヲ勉メ以テ先ツ愛馬心ヲ喚起セシムルヲ要ス又教育實施ニ當リテハ調教良好ニシテ從順ナル馬ヲ配當シ懇篤ナル指導ニ依リ愉快ニ教課ヲ修得シ困苦ヲ忘レ不知不識ノ間教課ニ習熟セシムルヲ要ス

人馬ノ性質體格及能力等ハ各差異アルヲ以テ之等ニ對シ齊一ノ要求ヲ爲ス迄ニハ各個ニ教育スルヲ以テ本旨トス故ニ成ルヘク教育ノ進歩ニ從ヒ各騎ヲ獨立シテ運動セシムルヲ要ス大距離ヲ以テスル蹄跡行進及各個乗ハ此ノ目的ニ合スルモノトス

教育ノ初期ニ於ケル缺課ハ頗ル其進歩ヲ阻害スルモノトス故ニ落馬ハ勿論鞍傷蹴傷等ニ就キ深ク注意シ皮膚ノ清潔被服ノ着用法等ヲ等閑視スルコトナク若シ鞍傷患者ヲ生スルトキハ早期診斷ヲ勵行セシムルコト緊要ナリ而シテ蹴傷ハ演習場ニ於ケルヨリモ寧ロ馬匹手入水與等ノ時ニ於テ起ルコト多キヲ

以テ注意セサルヘカラス

初年兵教育ニアタリテモ教官ハ常ニ馬匹調教ノ顧慮ヲ去ルヘカラス而シテ此事タル一ツニ教官ノ技能ニヨルモノニシテ即チ運動ノ配合及號令ノ時期ヲ適切ナラシムルヲ要ス例ヘハ馬體柔軟ヲ失フノ患アルトキハ輪乗或ハ卷乗ヲ行ハシムルカ如キ又歩度緩慢トナリタルトキハ廣地上ニ騎乗セシムル如キ或ハ歩度變換ノ號令ハ成ルヘク其全部班縱蹄跡上ニ在ルトキヲ選フカ如シ

### 第一 調馬索演習

初年兵入隊當初ニ於ケル教育ノ手段ハ各隊各様ナリト雖モ從來ノ實驗ニ徴スルニ先調馬索演習ヲ以テ準備スルヲ適當トスヘシ而シテ是カ利用ヲ左ノ各期ニ分ツヲ可トス

1 最初數日間調馬索ノミヲ實施シ馬上ノ自信ト若干ノ平衡ヲ會得セシメ漸次優秀ナル兵卒ヨリ蹄跡演習ニ移ス

2 蹄跡演習ヲ主トシ演習班ヨリ二、三名宛調馬索ヲ行ハシメ益々馬上ノ自信ト平衡ヲ得セシム

3 特別ナル固癖ヲ有スル兵卒若クハ騎坐ノ甚シク薄弱ナル兵卒ニ限り行ハシム

4 駈歩ノ反動等ヲ習得セシムル爲メ一時之ヲ應用ス

調馬索ノ指導ハ最モ熟練ヲ要スルモノナリ故ニ教官ハ初年兵入隊以前ニ於テ之カ調教ヲ完成シ音聲、鞭ノ合圖ヲ以テ意圖ノ如ク制御シ得ルニ至ラシメサルヘカラス

調馬索馬ハ從順ニシテ體尺小歩調齊整ニシテ反動成ルヘク平靜ナルヲ要ス

此ノ演習ニ於テモ最初先ツ常歩行進ニ馴ラシ次ニ緩徐ナル速歩ニ移ルモノトス而シテ輪線ハ最モ規正ニ行進シ其中心ハ常ニ一定點ニ在ラサルヘカラス是レ輪線ノ不正トナル毎ニ初年兵騎坐ノ重心ヲ移轉スルノ害アレハナリ

### 第二 馬上體操

馬上體操ハ正良ナル騎坐及姿勢ヲ作ルヲ目的トスルモノニシテ各兵卒ニ適スル體操ヲ選ヒテ行ハシムルヲ本旨トス故ニ教育ノ初期其ノ方法ヲ會得セシメ若シクハ馬上ノ自信力ヲ與フル爲メニ同時ニ同一ノ運動ヲ行ハシムルコトアリト雖モ教育ノ進歩ト共ニ各兵卒ノ體格固癖ニ應シ之ニ適應スヘキ體操ヲ行ハシムルヲ要ス

馬上體操ノ主ナル目的及實施上ノ注意左ノ如シ

種類	區分		
	目的	實施	上ノ注意
臂ヲ前ヨリ廻セ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肩ノ凝固ヲ解ク</li> <li>2. 上體ヲ伸展セシム</li> <li>3. 間接ニ拳ノ靜定ニ利アリ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臂ヲ伸ハシ前ヨリ成ルヘク大圓形ヲ畫キ旋回セシメ肩ノ運動ヲ大ニシ同時ニ身體特ニ上體ノ伸展ヲ圖リ運動後ハ充分鞍上ニ騎坐ヲ落付ケシムヘシ之カ爲上體ヲ眞直ニシ且ツ騎坐ヲ前方ニ進出セシメテ實施スヘシ</li> <li>2. 上體ヲ前傾スル兵卒ニハ始メハ停止間ノミ行ハシムヘシ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 右(左)臂ヲ後ニシ腰ヲ前方ニ張リ馬ノ運動毎ニ手ヲ以テ調子ヲ取ル如ク推シ同時ニ胸ヲ充分開キ臂ヲ後方ニシタル方側ノ肩ノミ特ニ後退スヘカラス</li> <li>2. 此ノ運動ハ主トシテ中體及上體一部ノ姿勢ヲ完全ニスル爲メニ用ユルモノナリ</li> </ol>
臂ヲ後ヘ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腰ノ推進ノ要領ヲ會得セシム</li> <li>2. 胸部ヲ擴開セシム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 速歩行進中ノミ行ハシム</li> <li>2. 凝ルコトナク臂ヲ曲クル爲メ肩部ヲ輕ク後方ニ引キ重心ノ位置降下スル如ク行フヘシ</li> <li>3. 此ノ運動ハ如何ナル兵卒ニ應用スルモ可ナリ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最初ノ間ハ體ヲ後方ニ傾クルノ度ハ多ヲ求メス腰ノ反張ニ重ヲ</li> </ol>
臂ヲ曲ケ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 馬上ノ平衡ヲ得セシム</li> <li>2. 腰ノ推進作用ヲ會得セシム</li> <li>1. 腰ノ反張ヲ求ム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動實施ニ當リ騎坐ノ位置ヲ著ク變スヘカラス特ニ膝ノ位置ヲ變セサル程度ニ行ハシムヘシ</li> <li>3. 此ノ運動ヲ行フニハ先ツ充分股ヲ開カシメ深ク騎坐シ股及膝ノ適當ナル位置ヲ定メタル後行ハシムヘシ</li> <li>4. 此ノ運動ハ腰ノ凝固ナルモノ騎坐ノ淺キモノニ用ユルヲ主眼トス</li> </ol>	

體ヲ後ヘ曲ケ	左(右)後ヘ向ケ	股ヲ開ケ
<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 臍股關節ヲ擴開セシム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 體ヲ後ヘノ目的ヲ達成ス</li> <li>2. 腰ヲ左右ニシ得ル柔軟ヲ求ム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 騎坐ノ位置ヲ正シカラシム</li> <li>2. 平衡ヲ得セシム</li> <li>3. 臍股關節ヲ側方ニ擴開スルノ利アリ</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一度腰ヲ反張シタル後左右ニ捻轉スルノ注意特ニ緊要ナリ</li> <li>2. 運動ハ腰部ニ止マリ決シテ腰以下ノ姿勢ヲ變シ或ハ反對側ノ股ヲ上ケ或ハ其附着ヲ害スルカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラス</li> <li>3. 此ノ運動ハ腰ノ凝固ナルモノニ對シ體ヲ後方ニスル運動ト相待ツテ用フルヲ有利トス</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 股ヲ成レヘク側方ニ大ク開カシメ脚及膝ヲ鞍ヨリ遠サケ騎坐三點ノ附着ヲ害スルコトナク行フヲ必要トス</li> <li>2. 脚ヲ著シク上方ニシ腰ヲ後退シテ行フハ反ツテ害アルヲ以テ防止スルヲ要ス</li> <li>3. 此運動ハ如何ナル兵卒ニ適用スルモ可ナリ就中特ニ馬上平衡ヲ得サルモノニ用ユルヲ有利トス其他上體ヲ前傾スルモノ著シク脚ヲ後方ニ退クモノニ用ヒテ可ナリ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 股ヲ成レヘク側方ニ大ク開カシメ脚及膝ヲ鞍ヨリ遠サケ騎坐三點ノ附着ヲ害スルコトナク行フヲ必要トス</li> <li>2. 脚ヲ著シク上方ニシ腰ヲ後退シテ行フハ反ツテ害アルヲ以テ防止スルヲ要ス</li> <li>3. 此運動ハ如何ナル兵卒ニ適用スルモ可ナリ就中特ニ馬上平衡ヲ得サルモノニ用ユルヲ有利トス其他上體ヲ前傾スルモノ著シク脚ヲ後方ニ退クモノニ用ヒテ可ナリ</li> </ol>

股ヲ廻セ	脚ヲ曲ケ	足尖ヲ旋セ
<p>I. 臍股關節ノ運動ヲ寬祐ニシ股ノ附着ヲ良好ナラシム</p>	<p>I. 膝關節ノ柔軟ヲ求ム</p>	<p>I. 足關節ノ柔軟ヲ求メ脚ノ使用及鏡ノ用法ニ便セシム</p>
<p>I. 右(左)股ヲ開キ腰及脚ヲ鞍ヨリ遠サケ股ノ關節ニヨリ大ナル輪形ヲ畫カシメ後股ノ内面ヲ鞍ニ壓著シツ、故ニ復セシムル如クスルヲ緊用トス</p> <p>2. 此ノ運動ハ騎坐淺キモノ股ノ附着良好ナラサルモノ膝ノ位置上方ニ過クルモノニ用ヒテ可ナリ</p>	<p>I. 股ノ附着ヲ良好ニシ上體ヲ前傾スルコトナク又兩脚ハ馬體ニ觸レサル如ク又舊位置ニ復スルニハ腓腸筋ヲ下方ニ張ル如ク行ハシムヘシ</p> <p>2. 此ノ運動ハ膝關節ノ凝固ナルモノニ用ヒ尙股ヲ廻ハス運動ト共ニ騎坐ノ淺キモノ股ノ附着良好ナラサルモノニ適用シテ可ナリ又脚ノ動搖スルモノヲ矯正スルコトヲ得ヘシ</p>	<p>I. 脚ノ位置ヲ變スルコトナク足關節ノミヲ獨立シテ動作セシムルヲ要ス</p> <p>2. 此運動ハ演習場ノ往復等ヲ利用シ特ニ之カ爲メ多クノ時間ヲ費スハ不利ナリ</p>

一般ニ馬上體操ハ教育ノ初期ニノミ行ヒ扶助教育ヲ開始スルヤ之ヲ等閑視セラル、モ兵卒ノ固癖ハ運

動施行中ニ發見スルモノナルヲ以テ此ノ機會ヲ利用シテ矯正スルヲ必要トス故ニ第二期以後ニ於テモ中絶スヘカラス又演習中休憩間ニ於テ各自ニ實施セシメ或ハ連續數回實施セシムルモノアルモ馬上體操ヲシテ眞ニ效驗アラシムル如クスルニハ大ナル努力ヲ要スヘキヲ以テ休憩時間ニ行ハシメ或ハ連續數回ニ亘リ行ハシムルカ如キハ適當ナラス

#### 第四 騎坐及姿勢ノ養成

姿勢特ニ騎坐ハ將來馬術ノ根原ヲ爲スモノニシテ又堅確ナル騎坐モ正シキ姿勢ニヨリ始テ收メ得ルモノナリ故ニ縱令最初ニ於テ若干進歩滯滞ノ狀アルモ先ツ姿勢ヲ整ヘシムルヲ良策トス不正ナル姿勢ヨリ得タル騎坐ハ其矯正困難ニシテ後日却テ進歩ノ遲緩ヲ免レス

- 姿勢矯正ノ順序左ノ如シ
1. 兵卒ヲシテ馬上ノ平衡ヲ得セシメ之ヲシテ不安ノ念ヲサラシメサルヘカラス(此際ニ於テハ素ヨリ如何ナル姿勢ヲ爲スモ可ナリ)
  2. 多少平衡ヲ得ルニ至レハ始メテ騎坐ノ正シキ附着ヲ教ユ(騎坐ノ基礎タル兩坐骨及縫際ニ適當ニ上體ノ重量ヲ負セシムルコト即チ薦部ヲ直立セシムルハ極メテ必要ナルヲ以テ此ノ際ヨリ留意シ

テ教育スルヲ要ス)

3. 脚ノ姿勢(脚ノ方向ハ膝ノ方向ニヨリテ決定スヘキモノニシテ良好ナル方向ヲ求ンカ爲メニハ騎坐ヨリ矯正セサルヘカラス又前後ノ適當ナル位置ハ多ク膝關節ノ柔軟ニヨリテ求ムヘキモノニシテ「脚ヲ曲ケ」ノ運動ハ是ノ目的ニ合ス)

4. 上體ノ姿勢(薦部ヲ直立セシムルコトハ騎坐ノ基礎ナルヲ以テ極メテ必要ナリト雖モ腰ノ上部及胸ヲ過度ニ緊張セシムルトキハ上體ノ凝固ヲ來スヲ以テ腰ヲ輕ク前方ニ張り上體全般ヲ前方ニ伸サシムル如ク教育スルヲ要ス)

5. 臂及拳ノ姿勢(拳ノ靜定ハ決シテ腕關節ノ柔軟ノミヲ以テ得ラルヘキモノニアラス騎坐ヨリ脊推肩肘及手ニ至ル關節ノ柔軟ニ待タサルヘカラス)

右ノ順序ニ基キ初年兵初期ノ教育ニ於テハ緩除ナル速歩ヲ以テシ其教育ノ進歩ニ伴ヒ漸次規定ノ步調ニ移ラシメ益々騎坐ノ堅確ヲ圖ラサルヘカラス然レトモ其程度ハ常ニ兵卒ノ凝固ヲ來タサ、ルヲ標準トスヘキモノトス

騎坐ノ附着良好ナラサルカ或ハ腰ノ伴隨運動要領ヲ誤ルモノハ多ク最初ノ配當馬ノ反撞不正ナルカ或ハ反撞惡キカ又ハ荒キカニ原因スルコト多シ故ニ如斯兵卒ニハ步樣濶大ニシテ反撞大キク且ツ軟和ナ

ル馬ヲ配當スルヲ可トス

兵卒各個ノ體格上ヨリ生スル凝固ハ多種多樣ナリ故ニ先ツ徒歩ノ體操ニ於テ充分之ヲ矯正シ決シテ馬上體操ニノミ依頼スヘキモノニアラス抑モ馬上體操ニ在リテハ其目的身體各部ノ凝固ヲ解キ其發達ヲ期スルニ在リト云フヨリモ寧ロ馬上ニ於テ生スル凝固セル部位ノ柔軟ヲ求メ馬上ニ於ケル確實ナル平衡ト騎坐ニ影響スルコトナク自由ニ諸扶助ヲ操作シ得ルニ至ラシムルモノトス

騎坐ハ常ニ之ヲ緊壓スヘキモノニアラス馬ニ收縮ヲ要求スルカ或ハ障礙飛越武器使用ノ如キ時ニノミ之ヲ緊メ其ノ他ノ場合ニ於テハ常ニ正シキ平衡ニヨリ之ヲ保ツヘキモノトス

### 第五 馬場

馬ハ性來廣キ野外ヲ跋涉スルヲ好ム故ニ小ナル馬場ニ於テ運動スルハ其本性ニ悖ルモノトス之カ爲馬場ハ力メテ大ナルヲ可トスルモ教育上監視ノ爲メニハ小ナルヲ有利トス然レトモ過度ニ小ナル馬場ハ徒ニ回轉ヲ頻繁ナラシメ演習上最モ緊要ナル直線行進ノ距離ヲ小ナラシムルノ害アリ故ニ教官ノ監視ヲ許ス程度ニ於テ力メテ大ナル馬場ヲ設ケ且ツ活潑ナル運動ヲ行ハシムル爲メ屢々廣馬場演習及野外騎乗ヲ行ヒ以テ其ノ調教ヲ完全ニシ軍馬所要ノ性能ヲ發揮セシムルヲ要ス

多數ノ馬場ヲ同一地ニ設置セントセハ互ニ隣馬場ヨリ妨害ヲ受ケサル程度ニ其間隔ヲ保タシメサルヘカラス又馬場ノ位置ハ演習ノ目的ニヨリ多少凸凹アルハ可ナリト雖モ規正ナル運動ヲ行ハシメントセハ成ルヘク平坦地ヲ選ヒ且ツ危険豫防上瓦石等散在セサルヲ要ス各隅角ノ矩形及中央標旗ノ位置ノ如キハ演習前教官必ス之ヲ検査セサルヘカラス是直行進及回轉ノ爲メ標準ヲ與フルモノナルヲ以テ決シテ輕視スヘカラス又馬場ニ用ユル標旗ハ兵卒ノ行進目標タルヲ以テ常ニ適當ノ高サ(乘馬兵卒ノ目ノ高サヲ適當トス)ヲ有セサルヘカラス

## 第六 運動及步度ノ配合

馬ハ一度厩舎外ニ出ツレハ好ンテ奔逸セント欲スルモノナリ故ニ此ノ時機ニ於テ直チニ普通ノ演習ヲ行フ時ハ馬ハ騎手ノ扶助ニ注意ヲ拂フコトナク徒ニ騷擾スルヲ以テ自ラ損傷ヲ招キ或ハ惡癖ヲ生スルニ至リ騎手ハ不知不識ノ間扶助ノ粗暴ヲ來シ未熟ノモノニアリテハ落馬ヲ怖ル、結果益々體ノ凝固ヲ來スニ至ル故ニ厩舎ヲ出レハ少ナクモ十分間ハ常歩ヲ行ヒ續テ馬ノ沈靜スル迄(此ノ程度ハ具體的ニ説明スルコト能ハサルモ略各馬ノ步調齊一トナリ銜受正シク騎手ノ扶助ニ注意スルニ至ルノ時機)速歩ヲ行ヒ其後當日ノ演習ニ移ルヲ要ス

總テ運動ハ簡ヨリ繁ニ移リ前ノ運動ハ後ノ運動ノ準備タラサルヘカラス例ヘハ卷乗ヲ施行セントセハ先輪乘及之カ開閉ヲ行フカ如キ又短縮速歩ヲ行フ爲メニ先ツ速歩ヲ以テ充分馬體ヲ伸展セシメタル後行フカ如キ是ナリ

收縮ヲ要求スル運動ノ後ニハ必ス伸暢步度ヲ行フカ若クハ體ヲ伸展スル姿勢ヲ以テ運動セシムヘシ然ラサレハ却テ馬ヲ凝縮セシムルニ至ルヘシ又長ク連續シテ各種ノ困難ナル運動ヲ行フヘカラス何トナレハ兵卒ハ疲勞且ツ凝縮シ馬ハ彈性ヲ失ヒ其ノ步調ヲ滯滞セシムルニ至レハナリ故ニ屢々休憩ヲ與ヘ又初年兵ノ初期ニ在リテハ下馬休憩セシムルヲ要ス

駈歩若シクハ伸暢速歩ノ如キ大ナル勞力ヲ要スル運動ハ普通演習時間ノ半以後ニ行フヲ例トス然レトモ駈歩ヲ以テ演習ヲ終ルトキハ往々不行儀ナル運動ヲ以テ演習ヲ終ルコト、ナリ爲メニ調教ヲ害スルノ患アルヲ以テ最後ニハ正シキ速歩ヲ稍々長ク實施シ當日ニ於ケル騎手ノ進歩並ヒニ馬ノ調教ヲ檢スル如ク施行スルヲ要ス

初年兵用馬ハ其ノ運動緩慢ニシテ馬ノ諸筋骨弛緩シ姿勢崩レ步調モ亦不確實トナルヲ以テ其ノ技術ノ進歩ト共ニ成ルヘク速ニ舊狀態ニ復セシメサルヘカラス之カ爲メニハ一ニ諸運動ノ配合ニ俟タサルヘカラス即チ縱方向ノ屈撓ハ步度ノ變換ニヨリ横方向ノ屈撓ハ輪線上ノ運動ニ依リ矯正スルノ方針ニ基

キ演習ヲ計畫スルヲ要ス而シテ此等ノ運動ハ兵卒既ニ前進及輪乗ノ扶助ヲ修得シ得ハ直ニ實施シ得ヘキヲ以テ馬匹調教ノ意味ヲ加味シ扶助ヲ教育スルヲ可トス然ルトキハ教官ハ適切ニ扶助ノ過失ヲ發見シ却テ其進歩ヲ速カナラシメ得ルモノナリ

常ニ同一場所ニ於テ同一ノ運動ヲ行ハシムルトキハ馬ヲシテ自カラ其ノ通動ニ馴レシメ兵卒ノ扶助ニ從フコトナク行フニ至ルヘキヲ以テ之ヲ避ケサルヘカラス

尙注意スヘキハ馬術ノ趣味ニ乏シキ兵卒ヲシテ長ク同一運動ノミヲ行ハシムルハ却テ倦怠ヲ來ス慮アルヲ以テ適時ニ各運動ヲ變換シ常ニ兵卒ヲシテ活氣ニ富マシメ進ンテ御術ノ快味ヲ覺エシムルコト緊要ナリ

之ヲ要スルニ運動ノ配合ハ先ツ馬ヲシテ沈靜ニシ次テ行ハントスル運動ノ準備ヲ爲シ人馬ヲ疲勞セシムルコトナク其運動ヲ實施シ馬體ノ伸縮宜シキヲ得最後ニ更ニ當日ノ運動ノ成績ヲ徵スル爲メ齊整ニシテ沈靜ナル速歩及常歩ヲ行フヲ可トス

### 第七 諸運動施行ニ關スル注意

#### 1. 前進停止

前進ニ際シテハ停止中ノ良好ナル衝受ヲ害スルコトナク直ニ前進セシムルコト極メテ必要ナリ又停止ニ當リテモ衝受ノ狀態及四肢ノ整置等ニ關シテハ絶ヘス注意スルヲ要ス

#### 2. 蹄跡行進

馬術教育ハ各個ニ教育スルヲ以テ本旨トス故ニ扶助ノ教育ヲ開始セハ大距離ヲ以テ蹄跡行進ヲ行ヒ扶助ノ用法ヲ綿密ニ矯正スルヲ要ス之ニ反シ過早ニ定距離演習ヲ行フトキハ過失ノ發見容易ナラス教育ヲ粗雑ナラシムルノ弊ニ陷ルモノトス

距離ノ保持ハ各馬歩度ノ齊一ト規正ナル蹄跡行進トニヨリ求メラルヘキモノナリ然ルニ往々「某ハ距離多シ」或ハ「隅角通過ヲ早クセヨ」等ノ注意ヲ與フルモノアルモ其ノ直接原因タル先頭及各騎ノ歩度ニ就イテ注意ヲ與フルモノ尠シ是レ本末ヲ顛倒セルモノトス

蹄跡行進ニ於ケル直行進ハ極メテ緊要ナリトス故ニ教官ハ常ニ馬場ノ内方ニノミ位置スルコトナク屢々隅角附近ニ位置シ縱方向ヨリ之ヲ矯正スルト同時ニ隅角通過ニ於テ馬正シク内方姿勢ヲ採リ通過後ニ於テ馬體ヲ正シクシ前方標旗ニ直對セシムル如ク演練セシムルヲ要ス

#### 3. 速歩ノ伸縮

初年兵用馬ハ一般ニ推進力衰へ歩調澁滯ヲ來スニ至ル故ニ教育ノ進歩ニ從ヒ演習ノ施行法ニ注意シ

調教ノ回復ヲ計ラサルヘカラス之カ爲短縮速歩後ニハ必ス活潑ナル歩度ヲ取ラシムルコト肝要ナリ  
 又伸暢歩度不十分ナルトキハ廣地上ニ騎乗シ若クハ駟歩ヲ行ヒ馬ニ前進ノ嗜好ヲ附與スルヲ要ス又  
 短縮速歩ヲ實施スルニ方リテハ施行時間ヲ短カクシ騎手ヲシテ疲勞セシメサルコトニ注意スヘシ  
 4. 輪乗卷乘及半卷

此運動ハ騎手ヲシテ内外扶助ノ各效驗ヲ知ラシムル爲メ必要ニシテ凝固ナル馬ヲ矯正スル爲メニモ  
 亦利用セラル而シテ此際最モ必要ナル扶助ハ内方脚ノ操作ナリトス

輪乗ニ於テ馬ノ各切點ニ入ラサルカ卷乘ニ於テ其輪形ノ正シカラサルカ或ハ馬ノ外向スルカハ主ト  
 シテ内方脚ノ扶助適正ナラサルノ徵トス正シキ輪乘運動ニアリテハ馬ハ内方ニ屈撓シ外方韁ニ輕ク  
 依倚シ内方肩ハ極メテ輕快ナラサルヘカラス

半卷ノ運動ハ扶助ニ變化多キモノナリ即チ廻轉ヨリ斜線上ノ行進及再ヒ姿勢ヲ變シテ蹄跡内ニ入ル  
 諸扶助一致ノ變化ハ最モ注意シテ教育スルヲ要ス

5. 旋回

前肢旋回ハ馬術上何等價値アル運動ニアラス唯初年兵教育ノ初期ニ於テ内方脚ノ側方推進動作、内  
 方韁ノ操作並外方韁脚ノ支持的動作ヲ會得セシムルニ過キス故ニ之ヲ速步行進中ニ行ハシムル如キ

又教育進歩シタル後屢々施行セシムルカ如キハ共ニ不可ナルヤ言フ俟タス

諸運動施行ノ要領ハ教範ニ明示セラレアルヲ以テ以上ハ特ニ注意スヘキ點ヲ擧ケタルニ過キス教育  
 實施ニ當リテ教範ヲ熟讀含味セハ猶多クノ注意事項ヲ發見スヘシ

第八 各個乘

各個乘ノ必要ト効果トニ就テハ皆人ノ熟知セル所ナリ然ルニ從來之カ實施甚タ稀ナルカ如シ是各個乘  
 ヲ行ハシムルハ教官ノ怠慢ナルカ如ク認メラル、ヲ恐ル、ニ由ルナランモ各個乘ヲシテ眞ニ效果アラ  
 シムル爲ニハ教官ハ號令ノ下ニ教育ヲ實施スルニ比シ一層ノ努力ヲ要スルモノナリトス蓋シ各個乘ハ  
 熱心ナル教示ト精密ナル眼識トヲ以テセサレハ目的ヲ達セサルモノナレハナリ各個乘ニ於テ陷リ易キ  
 害ハ兵卒ヲシテ休憩視セシムルコト是ナリ之カ爲教官ハ兵卒ニ各個乘間行フヘキ動作及研究スヘキ事  
 項ヲ指示シ教官ハ假令某一兵卒ヲ矯正中ト雖モ尙常ニ全般ニ注意スルヲ要ス殊ニ自己ノ附近ニアル兵  
 卒ハ自カラ熱心ニ研究シアルヲ以テ寧ロ遠隔セル兵卒ニ對シ大聲ヲ以テ矯正スル如クシ教官ノ監視内  
 ニアルヲ自覺セシメ怠惰心ヲ誘起スルカ如キコトナキヲ要ス

又各個乘ハ時間ヲ徒費スルカ如キモ其ノ方法ニシテ適當ナルトキハ能ク兵卒ノ自信力ヲ高メ且根底的



ニ各個教育ヲナシ得ルモノニシテ一時多少ノ時間ヲ要スルモ一度充分ナル了解ヲ與フルトキハ確實ナル進歩ト自信力ノ養成ハ之ヲ償フテ餘アルモノナリ

各個乗ノ方法ハ教範ニ明示セラル、所ニシテ第一ノ方法ハ最モ單簡ナルモノ、如ク思考セラル、モ其ノ方法ヲ更ニ詳細ニ研究スルトキハ諸種ノ方法ヲ考案スルコトヲ得ヘシ例ハハ輪乘又ハ字乘ヲ各個ニ命シ地上ニ蹄跡ノ畫カル、迄行ハシムルカ如キ其ノ方法適切ナレハ實施スヘキ兵卒モ亦嗜好心ヲ誘發シ技術ノ進歩モ亦大ナルモノナリ

### 第九 障碍飛越

障碍飛越ニ就イテハ教範ニ詳細ニ記述セラレアルモ猶左ニ若干ノ注意ヲ述ヘントス

障碍飛越ヲ初年兵ニ教育スルニハ充分之ニ習熟シタル馬ヲ用ユルニ係ハラヌ教育中ニ飛越ヲ嫌フニ至ル馬多シ之即チ飛越ニ際シ未熟ナル扶助ヲ以テ馬ノ運動ヲ妨害スルニ原因スルモノトス調教良好ナル馬ニ在リテハ初年兵ヲシテ飛越セシムルカ如キ障碍ノ程度ニ於テハ馬ハ些ノ苦痛モ感スルコトナク喜ンテ飛越スルモノナレハ騎手ハ馬ノ運動ヲ妨害セサルコト特ニ肝要ナリ又障碍飛越ノ教育ハ馬ノ調教ノ良否ニ關スルコト特ニ大ナルヲ以テ豫行演習中ヨリ成ヘク早ク地上ニ置キタル横木ヲ常歩通過ヨリ

初メ後速歩ヲ以テ通過セシメ又漸次高サヲ高メ馬之ヲ飛越セハ助手ヲシテ食物ヲ與ヘ之ヲ愛撫セシムルヲ可トス又大ナル賞ヲ與ヘントセハ飛越後直チニ下馬スルヲ可トス

教範ニ「飛越後馬ノ地ニ著クトキハ上體ヲ前ニ傾クルコトナク稍々後方ニスルヲ要ス」ノ意ヲ誤解シ飛越後「體ヲ後ニ曲ケ」ノ如ク上體ヲ後方ニセシムルモノアリト雖之大ナル誤ト云ハサルヘカラス蓋シ上體ヲ過度ニ後方ニスルトキハ頭頸ノ伸展ニ伴フテ鞭ヲ弛ムルコト不可能ニシテ馬口ニ擊突ヲ與フルニ至ルヘシ故ニ初年兵ノ飛越スヘキ程度ノモノニ在リテハ馬ノ運動ニ一致スルコトヲ主眼トシ上體ノ如キ常ニ水平面ト直角ニ保タシムルヲ以テ適當トス

鞭ヲ放チテ飛越セシムルノ必要ハ既ニ教範ニ明示セラレアルモ實際ニ於テハ未タ勵行セラレサカ如シ是危險ヲ顧慮スルニ基クナランモ實施法適切ナレハ敢テ危險ナルモノニアラスシテ反テ馬ハ自由ニ飛越シ騎手モ亦飛越ノ要領ヲ會得スルコト容易ナルモノトス

初年兵教育ニ當リ過度ニ障碍飛越ヲ勵行シ若シクハ高サ巾等ヲ過度ニ要求スルトキハ馬ノ調教ヲ害シ四肢ノ損傷ヲ來スコト多キヲ以テ特ニ注意セサルヘカラス

### 第十 野外騎乘

馬術教育ハ單ニ馬場運動ノミヲ以テ完成スヘキモノニアラス兵卒野外ニ於テ確實ニ馬ヲ乘御シ得ルニ至リ始メテ御術教育ノ目的ヲ達成シ得タリト云フヘシ

野外騎乗ノ目的ハ教範明ニ示スル所ニシテ計畫及指導宜シキヲ得ンカ馬ヲシテ沈靜ナラシメ用役姿勢ヲ取ルコトニ習熟シ不齊地ノ過失的凝縮ヲ解キ馬ノ能力ヲ益々増進セシムル等其ノ効果蓋シ僅少ナラサルナリ馬ハ野外ノ大氣ニ接スルトキハ前進嗜好ヲ發輝シ快活ナル踏歩ヲ以テ奔馳セントシ自然沈靜ヲ缺クモノ多シ然ルニ馬術ハ馬沈靜シテ始メテ練習スルヲ得ヘク又馬ノ沈靜ハ兵卒ノ精神ヲ安堵セシメ馬ノ調教ヲ向上スル爲極メテ緊要ナルヲ以テ先ツ馬ヲ沈靜ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一、地形平坦ニシテ成ルヘク廣キヲ可トス
- 二、最初ハ急速ナル歩度ヲ避クルヲ要ス
- 三、頻繁ナル歩度ノ變換ヲ避ケ速歩又ハ駈歩時間ヲ稍長クスヘシ
- 四、歩度緩キ馬若クハ急速ナル馬ハ正規ノ歩度ヲトル馬ト適宜組合セ歩度ノ齊一ヲ期スヘシ
- 五、騷擾スル馬ハ沈靜ナル馬ト組合スヘシ
- 六、蹄跡ハ成ルヘク大ナルヲ可トス

野外騎乗開始ノ時期ハ教範ニ明示セラレタル所ナルモ最初ヨリ突然野外ニ於テ演習ヲ行フハ危險ナリ故ニ眞ノ野外騎乗ニ移ル以前ニ於テ之カ準備的運動ヲ行フヲ要ス即兵卒馬上ニ於テ平衡ヲ得ルニ至ラハ先頭兵ニ隨從セシメ營内又ハ練兵場等ヲ逍遙的ニ常歩若クハ緩除ナル速歩ヲ以テ誘導スル等ノ手段ヲ講スルヲ要ス

野外騎乗教育一般ノ順序概ネ左リ如シ

- 一、馬場外各個廣地騎乗
- 二、大馬場ニ於ケル單騎々乗(沈靜ヲ缺ク馬ハ二、三騎併列トス)
- 三、大馬場ニ於ケル二騎併列及平坦地ニ於ケル直行進
- 四、速度演習
- 五、大馬場ニ於ケル三騎併列及不齊地ノ各個通過
- 六、不齊地ニ於ケル單騎直行進
- 七、二騎併列不齊地直行進
- 八、伸暢駈歩

備考

本表ハ單ニ一例ヲ示スニ過キス

片手御法 勸教練ノ操

水勸教練ノ運動

輕速歩

伸暢駢歩

卷乘

駢步中輪乘ノ開閉

斜手前變換

駢步ヲ止停止停ヲ步駢

各個乘

野外騎乘

漸次程度ヲ向上ス

初年兵馬術教育進度ノ一例

備考 本表ハ單一ノ例ヲ示スニ過キス					月次週次			
	法御手片	練教勒大	法用ノ鏡	ス附ヲ車拍 體	練教勒水	索馬調 馬		
	動運ノ練教勒水		解分及列編			進 度		
			メ閉ヲ隔間	習演離距大			進・行跡蹄 (△シセ行属=馬頭先)	
			過通角隅キシ正	習演離距定			常馬牽歩徒	
			歩横		退後		止停進行	
			歩速縮短		歩速暢伸		歩速ノ正規	歩速ルナ除緩
			歩速輕		發出ノ歩駢キシ正		歩駢 (ヒ從=馬頭先)	
			歩駢暢伸		乘輪キシ正		乘輪 (ヒ從=馬頭先)	
			乘卷	步駢縮短	閉開ノ乘輪中步駢		換變ノ乘輪	閉開ノ乘輪 (ヒ從=馬頭先)
			換變前手斜	步駢ヲヨ止停止停ヲヨ步駢			卷半乘卷	テ以テ勢姿方内 進行ル
					回旋肢後		回旋肢前	
	乘個各		乘個各					
	乘騎外野		乘騎外野	乘騎外野	乘騎外野			
	ス上向ヲ度程次漸		(越飛ノ碍障定固)		越飛碍障 (越飛ノ欄竹、木橋 過通木橋)			

單砲射擊教練教育要領

單砲射擊教練教育要領

目次

緒言.....一

第一、射擊教育上ノ着眼.....一

第二、分解教育、部分教育及綜合教育.....四

第三、部分教育.....五

    其一、照準.....五

    其二、信管測合.....四

    其三、彈丸裝填.....一五

第四、綜合教育.....一七

第五、諸種ノ地形及場合ニ於ケル教育.....二〇

第六、實彈射擊トノ連繫.....二四

單砲射擊教練教育要領(目次)

第七、砲車長教育……………二五

結 論……………三〇

# 單砲射擊教練教育要領

## 諸 言

本科兵卒教育中單砲射擊教練ハ最モ困難ナリ故ニ平素之カ研究ヲ重ネ以テ精練ナル兵教ヲ養成シ教育ノ成果ヲ發揚スルコトニ力メサルヘカラス本篇ハ該教育ノ大綱ヲ論述シ以テ初學者ノ參考ニ資セントス

## 第一 射擊教育上ノ着眼

本教練ハ各砲手其操作ヲ異ニシ且極メテ複雑ナルヲ以テ教官能ク根本的ニ課目ノ輕重本末ヲ討究シ以テ主眼ヲ失セサル如ク教育シ火砲ノ最大威力ヲ發揚スルコト緊要ナリ就中左ノ各項ニ着意スルヲ要ス

- 一、火砲ノ精度ヲ良好ニ保持スルコト
- 火砲精度ヲ良好ナラシムルハ射擊ノ成績ヲ佳良ナラシムル爲極メテ緊要ナリ是ヲ以テ將校以下常ニ

材料ニ親炙シ之ヲ尊重愛護セサルヘカラス就中照準具ハ之カ使用ヲ慎重ニシ且之カ點檢ヲ嚴密ナラシムルコト緊要ナリ然ラサレハ砲手ノ自信力ヲ減殺スルノミナラス火砲ノ最大威力ヲ發揚スルコト能ハサルモノトス

二、射擊軍紀ヲ嚴正ナラシムルコト

射擊軍紀ヲ嚴正ナラシムルハ操作ヲ正確ナラシムル爲極メテ緊要ナリ之カ爲常ニ監視ヲ嚴ニシ苟モ一旦修得セシ事項ハ必ス之ヲ實行セシムルヲ要ス

三、重要ナル事項ニ對シ最大ノ力ヲ傾注ルコト

是レ經濟的教育ニシテ操砲教育上精熟ヲ期スル爲極メテ緊要ナリ殊ニ一定ノ教育時間ニ相當ノ成果ヲ要求スル軍隊ニ於テ然リトス

四、自信力ヲ養成スルコト

凡教育ノ要訣ハ善ク教ヘ善ク理解セシメ然ル後嚴ニ之ヲ訓練スルニ在リ蓋此ノ如クシテ初メテ自信力ヲ養成シ沈着シテ操作スルヲ得ヘシ彼ノ半解ノ儘演習ヲ行フカ如キハ教育ノ基礎ヲ薄弱ナラシメ操作ニ方リ狐疑狼狽スルニ至ルモノナリ

五、基礎教育ヲ鞏固ナラシムルコト

本教練ハ複雜ナルノミナラス各砲手各異ノ操作ヲ行フヲ以テ特ニ基礎教育ヲ鞏固ナラシムルニアラサレハ操作ノ圓滑ヲ缺キ一砲手ノ誤ハ該一門ノ射擊ヲ無效ナラシムヘシ故ニ特ニ基礎教育ヲ鞏固完全ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲妄リニ進歩ヲ急カサルヲ要ス

六、練習用具ヲ整備スルコト

練習用具ノ整備ハ教練進歩上至大ノ關係ヲ有スルモノトス蓋之カ整備充分ナラサランカ操作ヲ非實際的ナラシメ軍紀ヲ紊リ實射ニ方リ齟齬百出スルニ至ルモノトス之カ爲主任監督者等ヲ定メ之カ完備ヲ擔任セシムル等ノ手段ヲ講スルヲ要ス

七、教官ノ教育技能ヲ向上スルコト

凡ソ教育者ハ趣味ヲ有セザルヘカラス抑趣味ヲ湧發セシムルニハ該事項ニ精通スルコト緊要ナリ之レカ爲教官ハ操砲及之カ教育法ヲ研究シ自信ヲ有スルヲ要ス而シテ中隊長ハ將校ヲ將校ハ下士ヲ指導シ教育上ノ着眼ヲ養成シ監視眼ヲ向上セシメサルヘカラス

八、教練ヲ行フニ方リ兵卒ヲシテ自奮自勵セシムルコト

兵卒ヲシテ自覺的ニ教練ヲ實施セシムルハ進歩上極メテ緊要ナリ之レカ爲教官ハ教練ノ目的精神ヲ知ラシメ且ツ常ニ達スヘキ希望ヲ定メ兵卒ヲシテ其要求ヲ満足セシムル如ク指導セサルヘカラス



九、教育計畫ヲ周密ナラシムルコト

教官、被教育者ノ人員、材料ノ員數、時間等ニ基キ教育進度、教育課目ノ排列、交代法、部分教育ト綜合教育トノ配合、劣等者ノ教育等ヲ詳細ニ計畫シ以テ死節時ヲ省略シ教育ノ成果ヲ發揚スルコト緊要ナリ

### 第二 分解教育、部分教育、及綜合教育

分解教育トハ一ノ課目ヲ先ツ分解的ニ教授シ個々ノ會得ヲ容易ナラシムルモノニシテ最初ノ教授法ニ採用セラル

部分教育トハ重要ナル事項ヲ部分的ニ教育シ操作ノ精確練熟ヲ圖ルモノニシテ操砲中特ニ練熟ヲ要スル事項ノ教育ニ採用ス

分解教育ト部分教育トハ截然區別シ難キモ概ネ前述ノ如ク解スルヲ以テ蓋至當トスヘシ

部分教育及綜合教育ノ配合ハ兵卒進歩ノ程度ニ應ジ之ヲ適當ニ案排斟酌スルハ本教練ノ練成上極メテ緊要ナリトス而シテ最初部分教育ニヨリ操作ノ精確ヲ圖リ次ニ綜合教育ヲ實施シ後綜合教育上發見シタル缺點及操作未タ良好ナラサル兵卒ニ對シテハ更ニ部分教育ヲ實施シ之カ改善進歩ヲ計ル等極メ

テ密接ナル關係ヲ有セシムルヲ要ス

部分教育ノ實施ニ方リテハ常ニ綜合教育ヲ基礎トシ如何ナル程度迄部分的ニ教育スルヤ又如何ナル事項ニ對シ最モ訓練ヲ要スルヤヲ顧慮シ部分教育ト綜合教育トノ連繫ヲ密接ナラシムルコト緊要ナリ  
部分教育ハ即各個教育ナルヲ以テ個人的ニ教育シ操作ヲ誤ルモノアルトキハ個人的ニ其原因ヲ探究シ懇切ニ指導シ以テ基礎教育ヲ鞏固ナラシムルヲ要ス

### 第三 部分教育

#### 其一 照 準

本邦火砲ノ性能及照準改正ノ結果照準教育就中回轉盤ノ操法、水準器照準ニ熟達セシムルコト緊要ナリ從テ照準用各轉把轉輪ノ使用ニ關シ特ニ注意シテ教育スルコト亦必要ナリ

#### (一) 表尺ノ裝定及改裝

#### 一、着 眼

##### I. 表尺ノ改裝法ニ習熟セシムルコト

最初ノ裝定法ノ如キハ一射擊間ニ通常一回ノ操作ナルモ改裝ハ其用途頗ル多キヲ以テ特ニ注意シ

テ教育シ充分習熟セシムルコト緊要ナリ

2. 已ニ裝定シアル距離ヲ記憶シアルコト
3. 表尺ノ改裝ヲ迅速ナラシムル爲轉輪ノ使用法ニ熟練スルコト
4. 射擊間屢々生スヘキ射距離ノ變換ニ習熟スルコト
5. 表尺改裝ノ基礎タル距離百(二百)米ノ増(減)ニ習熟スルコト(二千米附近)

二、教育順序

1. 距離ノ増加

二百(百)四百、五十、二十五、七十五

2. 距離ノ減少

二百、四百、百、五十、二十五、七十五

(注意) 本教育ノ基礎ハ二千米附近ニ於ケル百(二百)米ノ増減ニ在リ故ニ先ツ兵卒ヲシテ該基準ヲ修得セシムルコト緊要ナリ

(二) 射距離ニ應スル高底照準

一、着 眼

1. 高底照準機轉把ノ旋回方向及其量ハ變換スヘキ距離ニ應スル方向及量ニ一致シ心手期セスシテ行ヒ得ル如ク精熟スルコト

2. 水準器氣泡ノ靜定ニ習熟スルコト

3. 射距離變換ヲ終ルト同時ニ高底照準ヲ完了スルコト

4. 表尺距離二百米ノ増減ニ伴フ轉把ノ旋回ニ習熟スルコト(二千米附近)

二、教育順序

2. 1. 二百米ノ減少 充分熟練セシムルヲ要ス

2. 二百米ノ増加

3. 四百米ノ減少 前記ノ操作熟練シタル後行フ

4. 四百米ノ増加

5. 百米ノ減少 同右

6. 百米ノ増加

7. 五十、二十五、七十五、等ノ改裝……同右

(注意) 1. 二千米附近ニ於ケル二百米ノ改裝ニ應スル轉把ノ用法ハ該教育ノ基礎ナルヲ以テ特ニ

確信ヲ有スル如ク訓練スルヲ要ス

2. 教育ノ初期ニ方リテハ最初二千米附近ニ於テ演練シ後千、三千米附近ニ於テ行フヲ可

(三) 回轉盤ノ裝定

一、着 眼

1. 解脱子ノ攫斂ノ操法ニ習熟スルコト
2. 裝定及讀誤ヲ生セサルコト

二、教育順序

1. 解脱子攫斂ノ起伏
2. 補助分書ノ裝定

十單位、五單位、端數單位ノ順序ニ教育スルヲ可トス

3. 本分書ノ裝定

偶數分書、奇數分書、又零分書附近、十五分書、四十五分書附近等ノ順序ニ教育スルヲ可トス

4. 本分書ト補助分書トノ合同裝定

5. 已ニ分書ヲ裝定シアル場合ノ裝定

(注意) 分書ノ讀ミ誤ヲ生セシメサル爲各種ノ分書ニ於テ訓練シ又各種ノ姿勢ヲ以テ各種ノ方向ヨ

リ讀算スルコトニ慣レシムルヲ可トス

(四) 回轉盤ノ修正

一、着 眼

1. 方向ヲ誤ラサルコト
2. 暗算ヲ用ヒサルコト
3. 本分書ニ在テハ一分書補助分書ニ在リテハ十ツ、節度ヲ有スル如ク逐次ニ修正スルコト

二、教育順序

1. 補助分書

- イ、指針ヲ零位ニ置キ十及十ノ倍數ノ修正
- ロ、指針ヲ五位ニ置キ十及十ノ倍數ノ修正
- ハ、指針ヲ一位ニ置キ十及十ノ倍數ノ修正
- ニ、指針ヲ二、三、四、五、六、七、八、九位ニ置キ十及十ノ倍數ノ修正
- ホ、右ト同要領ニ依リ五ノ修正
- ヘ、右ト同要領ニ依リ一乃至四ノ修正

ト、前各項ノ組合セ

2. 本分書

- イ、補助分書ノ指針ヲ零位ニ置キ一分書及其倍數ノ修正
- ロ、補助分書ノ指針ヲ十位ニ置キ一分書及其倍數ノ修正
- ハ、補助分書ヲ端數位ニ置キ一分書及其倍數ノ修正

3. 本分書ト補助分書トノ合同修正

前項ニ準シ彼此組合セラナシ教育ス

(注意)

- 1. 補助分書修正ノ基礎ハ十單位ノ修正トス故ニ之カ操作ニ充分習熟セシムルコト
- 2. 中隊教練ノ場合ヲ顧慮シ修正ノ號令ヲ下スコト
- 3. 修正ハ最初一回ノ修正ヲ演練シ漸次數回ノ修正ニ熟達セシムルコト
- 4. 熟練スルニ從ヒ修正ノ操作中更ニ修正ノ號令ヲ下シ誤ナカラシムルコト
- 5. 最初左方ニ修正スルコトヲ教育シ後右方ニ修正スルコトヲ教育スルヲ可トス

(五) 射向附與

一、着 眼

(A) 表尺ヲ以テスル方向標準

一、着 眼

1. 操作ノ順序ヲ誤ラサルコト

- イ、四番ノ方向標準
- ロ、二番座筒氣泡ノ修正
- ハ、二番四番ノ合同方向標準
- ニ、二番ノ精密照準

2. 照準線ヲ所望ノ點ニ導ク爲轉把旋回方向ヲ誤ラサルコト

3. 二、四番ノ連繫操作ニ習熟セシムルコト

- イ、二番ノ合圖明瞭ナルコト
- ロ、四番ハ僅カニ架尾ヲ地上ヨリ放シ連續的ニ一方向ヨリ移動シ照準スルコト

二、教育順序

- 1. 回轉盤零位ニアル場合
- 2. 回轉盤ノ裝定ト共ニ行フ場合

單砲射擊教練教育對領

イ、零分畫附近ヨリ左右二分畫五十以內

ロ、表尺補助桿ヲ使用スル左(右)側前方照準ノ場合

ハ、表尺補助桿ヲ使用スル左(右)側方照準ノ場合

ニ、表尺補助桿ヲ使用スル左(右)側後方照準ノ場合

(注意) 四番方向照準ヲナスニ方リ回轉盤零位ニアラサルトキハ二番ノ手號ニ先チ指幅分畫若クハ駐鋤ノ幅或ハ眼鏡ノ方向ニヨリ概略ノ方向照準ヲナスヲ要ス

(B) 表尺補助桿ヲ使用スル照準

着 眼

1. 操作ニ方リ之ニ依托セサルコト

2. 回轉盤ヲ裝定シ又ハ砲尾ヲ上下スル場合等ニ於テ補助桿ヲ防楯ニ衝突セシメサルコト

3. 補助桿ノ要否ヲ速ニ判斷スルコト

(C) 射向變換

一、着 眼

1. 回轉盤修正後照準ヲ遲緩セシメサルコト

2. 二番四番ノ連繫操作ニ精熟セシムルコト

3. 射向變換ノ際架尾ヲ移動スルニ方リ砲車位置ヲ移動セシメサルコト標定點近キ場合ニ於テ特ニ然リ

4. 搖架轉把ヲ以テ射向ヲ換フルトキハ左ノ事項ニ注意ヲ要ス

イ、旋回方向及其量ハ變換スヘキ方向及量ニ相一致スルコト

ロ、方向照準機各部遊隙ノ爲其旋回量ニ不足ヲ生セシメサルコトニ注意シ空轉ヲ消去スルヲ要ス

二、教育順序

1. 小修正(搖架轉把ヲ使用スル範圍)

補助分畫五ノ修正ハ搖架轉把一回ニ相當スルヲ以テ特ニ之カ練習ニカムヘシ

2. 中修正(補助桿ヲ使用セサル範圍)

該修正ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

イ、四番ハ二番ノ回轉盤ノ修正ヲ妨ケサルコト

ロ、四番ハ架尾ノ移動量ニ關スル基準ヲ有スルコト

- ハ、二番ハ方向分書ヲ零ニスルコト
- ニ、方向分書ノ使用ニ方リテハ成ルヘク之ヲ貯存シ置クコト
- 3. 大修正(表尺補助桿ヲ使用スル場合)
  - 大ナル射向變換ニ方リ更ニ標定點ヲ選ヒタルトキハ爾後射向ノ變換ニ際シ標定點ヲ誤ラサルコトニ注意スルヲ要ス

其二 信管測合

一、着 眼

信管廻ヲ彈頭ニ裝シタル際ニ於ケル修正及信管測合ニ關シ特ニ習熟セシムルヲ要ス

二、教育順序

- 1. 信管廻ノ裝定改裝
- 2. 信管廻ヲ信管ニ裝スルコト
- 3. 信管廻ヲ信管ニ裝シタル際ニ於ケル修正
- 4. 信管測合

(注意)

1. 彈藥筒ハ其高サ大ナルヲ以テ上方ヨリ壓迫スル力ヲ大ナラシムルヲ可トス

2. 練習用信管ヲ實彈ト同様ノ堅サヲ有セシムルヲ要ス

其三 彈丸裝填

一、着 眼

各砲手ノ連繫ヲ圓滑ナラシムルニ在リ

二、教育順序

最初木砲等ニヨリ之カ要領ヲ充分修得セシメ然ル後砲車ニ實彈ヲ裝填セシム

彈藥筒使用上ノ注意概ネ左ノ如シ

1. 取扱上ノ注意

- イ、彈藥筒ノ中心軸ノ曲ラサルコト及危險豫防ニ注意スルヲ要ス之カ爲取扱ニ注意シ殊ニ彈藥筒ヲ彈藥匣ヨリ出ス際眞直ニ上方ニ持チ上ケ又成ルヘク兩手ヲ以テ取扱フヲ可トス
- ロ、危害豫防上彈藥筒ヲ置クニハ必ス之ヲ横臥スルヲ可トス又信管測合ニ際シテハ小刀等ヲ袴ノ物入ニ入レ置カサルコトニ注意スルヲ要ス

2. 彈藥筒ノ検査

信管及啄螺ノ緩解セルモノナキヤ

彈ト藥筒トノ結合正シキトキ

彈體特ニ彈帶ニ疵ナキヤ

信管ノ駐釘及錫幅ニ毀損セルモノナキヤ

駐螺ノ頭部突出シアラサルヤ

藥筒外面特ニ莢口部及起線部ニ疵ナキヤ

藥莢爆管ノ藥莢底面ヨリ突出セルモノナキヤ

(注意) 錫幅ヲ脱シタル彈藥筒ヲ數日貯存スルノ必要アルトキハ「バラフィン」紙ノ類ヲ以テ信管

ヲ被ヒ濕氣ノ浸入ヲ豫防スヘシ

3. 裝填上ノ注意

イ、裝填ニ際シテハ最初彈藥筒ノ底部ヲ少シク上ケ彈帶藥室ノ後端ヲ過クル迄ハ徐々ニ前進セシムルヲ要ス

ロ、彈帶藥室ノ後端ヲ過クルヲ確メタルトキハ過度ニ力ヲ加フルコトナク一氣ニ込ムルヲ可トス然ラサレハ彈帶藥室ノ後端ニ衝突シ起線ヲ生シ裝填不可能トナリ或ハ彈藥削片ノ爲閉鎖機ノ開閉ヲ不充分ナラシムルコトアルノミナラス材料保存上有害ナリ

ハ、過度ニ藥室内ニ塗油スルトキハ藥莢燒附キ之カ抽出ヲ困難ナラシムルコトアリ

ニ、藥室内ニ燼煤等ヲ留ムルトキハ裝填ヲ困難ナラシム故ニ時々藥室内ヲ油雜巾ニテ拭掃スルヲ

可トス

3. 其他ニ關スル注意

從來ニ比シ裝藥量多キヲ以テ特ニ砲車位置ノ撰定ニ注意ヲ拂フヲ要ス然ラサレハ砲車ノ安定ヲ害シ射擊精度ヲ不良ナラシム

第四 綜合教育

綜合教育ハ各砲手ノ連繫ニ重キヲ置キ且砲車長以下至嚴ナル軍紀ノ下ニ實施スルコト緊要ナリ而シテ綜合教育實施ニ方リテハ左ノ事項ニ關シ注意ヲ拂フヲ要ス

一、部分教育進歩ノ程度ニ鑑ミ何レノ時機ヨリ綜合教育ヲ開始スヘキヤハ極メテ重要ナル問題ニシテ特ニ注意スルヲ要ス又假令綜合教育ヲ開始スルモ部分教育ヲ廢スルコトナク逐次其伎倆ヲ向上スルコト緊要ナリ即部分教育ト綜合教育トノ配合連絡ヲ適切ナラシメ以テ基礎教育ヲ確實ナラシムルヲ要ス

- 二、綜合教育ヲ初ムルヤ部分教育中何レノ事項カ未熟ナルヤニ關シ速ニ之ヲ觀破シ該部分教育ノ方法ヲ研究シ之カ改善ヲ謀ルト共ニ其熟達ヲ促進シ更ニ綜合教育ヲ實施スル如クスルヲ可トス
- 三、綜合教育中特ニ某事項ニ關シ未熟ナル兵卒アルトキハ更ニ部分教育ニ於テ之カ伎倆ヲ向上シ後綜合教育ヲ行ハシムルヲ可トス
- 四、綜合教育開始ニ方リテハ最初ヨリ全部ノ砲手ヲ附スルコトナク目的ニ應シ必要ナル砲手ヲ配置シ逐次完成スルヲ可トス例ヘハ照準及發射ノミヲ演練セントスルトキハ一番二番四番砲手ヲ附シ又彈丸裝填及發射ヲ演練セントスルトキハ一番二番三番五番砲手ヲ附シ逐次此ノ如クシテ遂ニ完全ナル砲手ヲ以テ協同一致毫無滯滞ナク精確且敏活ニ操作シ得ルニ至ラシム
- 五、綜合教育ノ初期ニ在リテハ目的ニ應シ砲車長ヲ附シ或ハ之ヲ附セスシテ實施スヘシ而シテ苟モ砲車長ヲ附シ教練ヲ實施スルトキハ砲車長ハ自己ノ職務遂行ニ關シ遺憾ナキヲ要ス然ルニ從來助教タリシ者砲車長トシテ動作スルトキハ砲車長ト助教トノ職責ヲ混同シ安リニ砲手ノ操作ニ干涉シ其頭腦ヲ攪亂シ且ツ號令官ノ職權ニ立入ルコトナキヲ保セス特ニ注意ヲ拂フヲ要ス又砲車長ヲ附シ教練ヲ實施スルトキハ砲車長ヲモ教育スルノ着意ヲ有スルコト緊要ナリ是操典及軍隊教育令ノ明示スルナルモ砲手教育ニ急ナル爲砲車長ノ動作ヲ閑却シ易キヲ以テ特ニ注意スヘシ

- 六、砲車長未熟ナルトキハ號令下ルヤ砲手ノ操作ヲ實施セサルニ先チ一々其動作ヲ豫告シ種々注意ヲ與フヲ常トス此ノ如キハ單ニ砲手ノ進歩ヲ妨クルノミナラス砲手ハ何等自信ヲ有セサルニ至ルモノトス然レトモ初メテ某事項ヲ教育スル等極メテ最初ノ時機ニ於テ各砲手ノ動作ヲ豫告スルノ必要アルトキハ號令官ニ於テ之ヲ行フヲ可トス
- 七、綜合教育實施ニ方リテハ號令官ハ各號令ニ應スル砲手操作ノ重點ニ着意シ動作毎ニ豫メ着眼ヲ定メ着々矯正スルコト殊ニ緊要ナリ然ラサレハ多數砲手ノ動作ニ眩惑セシ放漫ナル教育ニ流レ進歩顯著ナラサルモノトス
- 八、最初ニ於ケル綜合教育ニ在リテハ過度ノ要求ヲナサ、ルヲ要ス即射向附與、射角附與發、射準備等一號令毎ニ秩序的ニ教育シ又概ネ部分教育ニ於テ實施セシ順序階梯ニ準シ教育スルヲ可トス
- 九、綜合教育實施ニ方リテハ教官ハ豫メ助教ニ研究事項及要求程度ヲ明示シ且ツ之カ監督ヲ嚴ニシ以テ其目的ヲ達成セシムルヲ要ス然ラサレハ演習間各種ノ場合ヲ生起スルコトアルヲ以テ助教ハ不知不識ノ間研究事項ノ範圍ヲ脱スルコトナキヲ保セス
- 十、兵卒能力ノ程度ニ應シ最初演習事項ノ目的及理由ヲ説明シ置クヲ要ス然ルトキハ之カ理解ヲ容易ナラシムルノ利アリ然レトモ進歩スルニ從ヒ突如的ニ諸種ノ號令ヲ下シ之ニ慣レシムルヲ要ス



綜合教育ハ概ネ前述ノ要領ニ基キ教育シ兵卒進歩スルニ從ヒ缺兵操作、不發ニ對スル所置、各種狀況地形ニ應スル動作等ヲ演練シ以テ中隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ラサルヘカラス

### 第五 諸種ノ地形及場合ニ於ケル教育

已ニ一通綜合操作ヲ行ヒ得ルニ至ララハ周密ナル計畫ノ下ニ諸種ノ地形及各種ノ場合ニ於ケル照準及操砲ニ習熟セシムルコト緊要ナリ之カ爲先ツ部分的ニ地形ノ利用照準點ノ發見標定點ノ選定砲車位置ノ選定等ニ就キ實際的ニ教育シ砲手ヲシテ確信ヲ有セシムルヲ要ス然ラサレハ營庭ニ於ケル良好ナル砲手モ野外ニ於テハ茫然自失爲ス所ヲ知ラサルニ至ルモノトス然レトモ操典ヲ曲解シ好ンテ特殊ノ場合ノミヲ教育スルカ如キハ適當ナラサルモノトス

#### 一、砲車位置ノ選定及設備

砲車位置ノ選定ハ砲車長ノ主要ナル責務ナリト雖砲手モ亦協同動作上一通教育シ置クヲ要ス又車輪位置高低差ノ矯正鋤溝ノ掘開等ニ關シテハ之ニ習熟セシメ其他砂地ニ於ケル駐鋤位置ノ設備大射角設備等ニ關シテハ其要領ヲ修得セシムルヲ要ス

#### 二、放列砲車ノ運動

放列砲車ノ運動ハ極メテ緊要ニシテ砲車長ノ指揮法ニ關スル所大ナリト雖トモ砲手モ亦各種ノ地形ニ於ケル動作ニ習熟シアルコト緊要ナリ之カ爲概ネ左ノ區分ニ從ヒ部分的ニ教育スルヲ可トス

1. 長距離ノ運動
2. 緩傾斜地ノ登降
3. 急傾斜地ノ登降
4. 階段地ノ登降
5. 小波狀地ノ運動
6. 疎林内ノ運動
7. 繫馬索等ヲ利用スル傾斜地ノ登降
8. 柔軟地ノ運動
9. 架尾車ノ使用
10. 多數ノ砲手ヲ以テスル砲車ノ運動

#### 三、地形地物ノ利用及注意

平坦地ニ在リテハ操典規定ノ如ク動作スヘキモ傾斜地ニ放列ヲ布置セシ場合等ニ在リテハ彈藥車後

車ハ之ヲ最大傾斜線ニ直交スル如ク配置シ射向附與及射向變換ニ方リテハ砲車ノ後退セサルコトニ注意スルヲ要ス又砲手掩護ノ爲適當ナル地物砲車附近ニ存在スルトキハ砲車長ハ適宜指示ヲ與ヘ之カ利用ニ注意スルヲ要ス

四、照準點及目標ノ發見

成ルヘク生地ニ於テ各種ノ照準點ヲ指示シ又實際ニ近キ目標ヲ設置シ之カ發見及照準ノ動作ヲ演練スルヲ要ス該演習ハ指幅分畫ニ連繫シ二番及四番砲手ノ爲極メテ重要ナル演習ナルヲ以テ特ニ屢々演練スルコト緊要ナリ

五、標定點ノ選定

標定點ノ選定ハ二番砲手ノ獨斷ヲ要スル極メテ重要ナル事項ナリトス之カ爲各種ノ地形ニ於テ演習ヲ實施シ之カ選定ニ關シ充分習熟セシメ且自信ヲ有セシムルコト緊要ナリ

六、標桿ノ植立

地形ヲ顧慮シ敵ニ發見セラレサル如ク且迅速ニ植立シ得ル如ク熟練セシムルヲ要ス

七、砲兵掩體ノ利用

各種掩體ノ利用ヲ教育シ且掩體ヲ利用シツ、射擊スル方法ヲ教育スルヲ要ス

八、狀況ヲ加味スル單教砲練

狀況ヲ與ヘ遮蔽障地ヨリ暴露障地ニ前進シ射擊スル動作實兵ヲ以テスル騎兵ノ襲撃ニ對スル射擊戰死者ヲ生セシ場合ノ所置等ヲ實施シ以テ沈着確實ニ操作シ得ル如ク演練ス

九、大角度射擊ニ於ケル動作

該演習ニ屢々之ヲ實施スル必要ナカルヘキモ大角度射擊ニ於ケル砲車長及二番ノ照準動作彈丸裝填及砲身復坐ノ援助等ニ關スル動作ヲ教育シ置クヲ要ス

十、夜間射擊ノ動作

夜間射擊ニ於テ特ニ注意スヘキハ砲車長ノ携帶燈使用ヲ適切ナラシムルト危害ノ豫防ニ注意スルヲ以テ最モ緊要ナリトス

射擊間砲車長携帶燈ノ使用ヲ適切ニシ以テ部下ノ監視ヲ確實ナラシムルニハ二番砲手ト五番砲手トノ中間ニ位置シ號令ニ應シ適時照準具及信管廻ヲ照明スルヲ可トス此際火光直接砲手ノ眼ニ入ラサルコト及敵ニ對シ火光ヲ認メラレサル如ク注意スルヲ要ス又危害ノ豫防ニ關シテハ嚴ニ發射ヲ監視シ放列ノ前方ニ砲手ノ存在シアラサルコト及砲側ノ砲手ニ危害ヲ及ハサルコトニ注意スルヲ要ス

### 第六 實彈射擊トノ連繫

平素ノ教練ニ於テ常ニ實射ノ願慮ヲ以テ教育ヲ實施スルコト極メテ緊要ナリ該着意充分ナラサルトキハ假令單砲教練ノ成績良好ナルカ如キモ實射ニ際シ豫期ノ成果ヲ舉クルコト能ハサルモノトス之カ爲空包等ヲ有利ニ使用シ單砲教練ヲ成ルヘク實射ニ近カラシメ且實彈射擊ノ當初周密ナル計畫ヲ立テ特ニ平素ノ單砲教練ト實射トノ差異アル點ニ着意シ教育スルコト緊要ナリ就中左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

- 一、一番砲手閉鎖機ヲ開ク時機及要領ヲ實際的ナラシムルコト
- 二、發射後各砲手殊ニ二番砲手發射ノ音響ト振動トニ心ヲ奪ハレ照準具ノ點檢及照準其他ヲ遲延セシメサルコト
- 三、實彈ヲ使用シ得ル時ハ錫帽ノ除キ方ヲ教育スルコト
- 四、實彈ト略同一ノ堅サヲ有スル信管ヲ以テ信管測合ヲ演練スルコト
- 五、木砲等ニヨリ彈丸裝填ヲ實際的ナラシムルコト
- 六、後座尺ノ用法及後座長ノ讀算ニ習熟セシムルコト

- 七、常ニ砲車位置ノ選定ニ注意ヲ拂フコト
- 八、土質及架尾位置ヲ願慮シ砲手ニ外ヘヲ命スルコト
- 九、危害ノ豫防ニ關スルコト
- 十、射擊間時々閉鎖機ヲ檢査シ且藥室内ヲ油雜巾ニテ拭掃スルコト

### 第七 砲車長教育

優秀ナル砲車長ハ同時ニ良好ナル教官タルト共ニ優秀ナル教官ハ良好ナル砲車長タル素地ヲ有スルモノトス故ニ兩々相俟テ之カ教育ノ完成ヲ計ルハ雷ニ砲車長ノ職務ヲ完全ニ遂行セシメ得ルノミナラス兵卒ノ伎倆ヲ向上促進スル爲極メテ緊要ナリトス

砲車長ノ職務ハ單砲教練ト中隊教練トニヨリ多少其趣ヲ異ニスヘキモ基礎教育ハ單砲教練ニ存スルヲ以テ之カ教育ヲ慎重ニシ中隊教練ニ在リテハ單砲教練トノ差異ヲ明確ニ實施セシムルヲ以テ足レリトセン

砲車長教育上特ニ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

#### 一、監視眼ノ養成

I. 大體上ノ監視

- 砲車ノ状態、照準具ノ千位數ノ誤等大局ニ關スル監視
- 誤リ易キ操作ノ監視
- 誤リ易キ時機ニ於ケル監視
- 操作中ニ於ケル監視
- 操作ノ順序手ノ動キ方等ニ基ク監視
- 操作ノ結果ニ關スル監視
- 材料ニ關スル監視
- 危害ノ豫防ニ關スル監視等
- 砲車長ノ報告事項
- 照準點ノ指示
- 號令官トノ視目ノ連繫
- 材料殊ニ照準具ノ機能ニ精通スルコト
- 眼鏡ノ使用

七、最底表尺ノ計リ方、後坐尺ノ讀ミ方、象限儀ノ合セ方等砲車長ノ當然實施スヘキ事項

八、砲車位置ノ撰定

九、不發ニ對スル所置射擊間材料ニ對スル注意等(三八式野砲取扱法參照)

砲車長教育實施ノ方法ハ教育者ノ伎倆及諸種ノ狀況ニ依リ其趣ヲ異ニラヘキヤ勿論ナルモ一般教育ノ實施ニ伴ヒ併セテ施行シ專ラ實地ノ練習ニ依リ其效果ヲ期スルヲ本旨トシ特ニ時間ヲ設ケ教育スルコトヲ副トスヘキハ軍隊教育令ノ示ス所ニシテ各教練ニ於テ常ニ其伎倆ヲ増進スルコトニ着意シ指導誘掖スルコト緊要ナリ今教育要領及着眼ノ一例ヲ示セハ右ノ如シ

一、監視眼ノ養成

監視眼ノ養成ハ砲車長教育ノ主要ナル事項ナリトス之カ爲常ニ其向上發達ヲ期セサルヘカラス然レトモ之極メテ至難ノ事ニシテ漫然之カ必要ヲ説クモ蓋得ル所少カルヘシ故ニ左ノ如ク之ヲ區分シ其伎倆ヲ向上スルヲ可トセン

I. 部分的監視眼ノ養成

砲手操作ノ部分的動作ニ精通シ各動作ノ重點ニ着意スルノ眼識ヲ養成スルニ在リ之カ爲部分教育ノ際助教助手トシテ監視眼養成ニ力メ以テ蘊奧ニ達セシムルヲ要ス

2. 綜合的監視眼ノ養成

綜合操作ニ於ケル各種砲手ノ動作ヲ監視スルノ要領ハ前述部分の監視ノ方法ト自ラ異ル點ナカルヘカラス是レ一號令ニ基ク砲手ノ動作ハ各異ナルヘキヲ以テ之カ爲某號令ニ對シテハ何レノ砲手ヲ如何ニ監視スヘキヤノ着眼ヲ教育シ監視上ノ精力ヲ經濟的ニ且適確ナラシムル如クセシムルヲ要ス

綜合的監視眼養成ノ方法ハ勿論一般教育ト共ニ向上セシメ得ヘキモ又時々幹部ノミヲ以テ特別教育ヲ行ヒ一部ヲ以テ砲車長以下ノ演習員トシ他ノモノハ之ヲ見學セシメ砲手ニハ豫メ誤ヲ生スヘキ事項ヲ内示シ砲車長及見學者ヲシテ砲手ノ誤謬ヲ速ニ發見セシメ其ヲ教育増進スル等ノ方法ヲ採用スルヲ可トセン

二、初歩ノ砲車長ニ對スル教育及教育者ノ特ニ重要視スル事項ヲ徹底セシムル爲ノ教育  
初歩ノ砲車長ニ對スル教育及教育者ノ特ニ重要視スル事項ヲ徹底セシムル爲ノ教育ニ在リテモ一般教育ト共ニ實効シ得ヘシ然レトモ之等ノ教育ハ諸種ノ關係上成ルヘク機會ヲ設ケ先ツ特別ニ教育ヲ行ヒ然ル後一般教育ニ於テ之カ練成ヲ計ルヲ可トス

三、諸種ノ狀況ニ應スル教育

豫メ各種ノ狀況ニ應スル問題ヲ構成シ適時之ニ應シ所置シ得ヘキ伎倆ヲ養成スルヲ要ス常ニ平凡ナル演習ヲ實施スルトキハ砲車長ノ注意心ヲ閑却セシムルニ至ルモノトス之カ爲豫メ號令官タル下士ニ問題ヲ與ヘ號令ヲ作爲セシメ要スレハ之ヲ修正シ該下士ヲシテ號令官タラシムルトキハ砲車長教育ヲ適確ナラシムルノミナラス操典ノ研究ヲ周密ナラシメ砲手ノ教育ヲモ深厚ナラシムルノ利益ヲ併セ收得シ得ヘシ例ヘハ附表ノ如シ然レトモ漸次進歩スルニ從ヒ直チニ多クノ問題ヲ含有スル號令ヲ下シ得ルノ域ニ達セシムルヲ要ス

四、實際的ナラシムル如ク教育ス

發射ニ際シ砲手ヲ車輪外ニ出サシムルヤ否ヤニ關シ土質ヲ觀破シ或ハ砲口前ノ地形地物ニヨリ射撃ヲ妨害セラル、コトナキヤ否ヤ等ニ關シ常ニ實際的ナラシムル如ク教育スルコト緊要ナリ

五、部下掌握ニ關スル教育

部下ヲ掌握シ自己ノ意圖ノ如ク部下ノ砲手ヲ使用スルコト極メテ緊要ナリ之カ爲屢々放列砲車ノ運動等ヲ實施シ部下掌握ノ要領ニ熟達セシムルヲ要ス

七、中隊教練ニ於ケル砲車長ノ教育

中隊教練ニ於テハ單砲教練トノ差異ヲ明確ニ教育スルヲ要ス(次篇參照)

結論

凡ソ教育ノ方法手段ハ固ヨリ一定スヘキモノニアラス聯隊ノ歴史兵卒ノ素質幹部ノ教育等ニヨリ千差萬別ナルハ勿論ナルモ教育者ハ先ツ操典ノ趣旨ニ鑑ミ其要求ノ程度教育ノ手段方法ヲ研究シ以テ一定ノ主義着眼ヲ定メ熱誠之ニ從事セサルヘカラス又基礎教育ニ重キヲ置キ確實ヲ主トシ漸次進歩スルニ從ヒ速度ヲ要求スト緊要ナリ而シテ綜合教育ヲ實施スルニ至ラハ特ニ監視ヲ嚴ナラシムルヲ要ス本編ハ主トシテ初年兵ニ對スル教育要領ヲ論述セルモ歐洲戰爭ノ狀況ニ鑑ミ將來短期教育及動員後ノ復習教育ニ對シ更ニ研究スルノ必要大ナルモノアルヘシ彼ノ補充兵教育勤務演習教育ハ絶好ノ機會ナルヲ以テカ之研究ヲ怠ラサルコト亦緊要ナルヘシ

單砲射擊教練計畫例

回次	陣地	號	令	着	眼
I	淺 キ 遮 蔽	2.780左〜照點……分畫書ク 高角質1°.3倍2下ク2400一發 15右〜信1下ク2800一發 5左〜信2高メ260二發 3.740右〜高角7ヒケ信下ク3 2200一發 20左〜左〜掃射三發 右〜掃射二發 方向舊〜 原點分畫取レ 撃方ヤメ		1. 補助桿ヲ用ヒ前方照準點ニヨル射向附與及標定點ノ選定(130, 137) 2. 方向及距離ノ修正(132, 139) 3. 大分畫ノ射向變換, 137)高底角ノ修正(130) 4. 掃射(144) 5. 方向舊〜(140) 6. 原點分畫取レ(141) 7. 撃方ヤメノ動作(147)	

III 浅キ 遮蔽	方角61.40照點……其方向ニ對シ最低表尺測レ 目ハ左ヘ斜行ナル歩兵30右ヘ高角風3°12借2下ケ2800 一發 30左ヘ高角8ヒケ3300一發 30左ヘ高角4増セ3000, 20左ヘ一發 20左ヘ借一ツ下ケ左三回二發 (制轉機破損)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最低表尺ノ測定(134)</li> <li>2. 高低角ノ修正(135)</li> <li>3. 斜行目標ニ對スル射擊 描架轉把ノ使用及連續發射(137, 140)</li> <li>4. 砲手外ヘノ動作</li> <li>5.</li> </ol>
IV 浅キ 遮蔽	方角27.40, 50右ヘ照點……分蓋カケ高角測レ 高角……借3高メ3400一發 30左ヘ二發(一發發射シ將ニ次ノ一發ヲ巖填セントスル トキ下ノ號令ヲ下ス) 擊マテ 借2高メ2300近ク百三距離二發 原點分蓋取レ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分蓋ノ記載及高低角ノ測定(137)</li> <li>2. 後座尺測定ノ要領</li> <li>3. 射擊中止(146)</li> <li>4. 散布(143)</li> </ol>
V 浅キ 遮蔽	方角59.20, 60左ヘ照點……分蓋カケ 高角正4°2借4下ケ2800一發 20左ヘ借2下ケ2400一發(不發) 40右ヘ2500遠ク50三距離右ヘ掃射三發 方向舊ヘ (砲車右輪破損)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不發ノ時ノ所置(138)</li> <li>2. 散布及掃射(144)彈藥ノ補充</li> <li>3. 材料破損ノ所置</li> </ol>

VI 深キ 遮蔽	方角47.740照點左側方…… 2.730右ヘ高角正0°8最低表尺測レ 10左ヘ借3下ケ3200一發 1.780左ヘ1800(最低表尺以下ノ距離)一發 1000借1800一發 借1700一發	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 側方照點ニヨル射向附與及標桿植立(130)</li> <li>2. 大ナル射向變換(139)</li> <li>3. 最低表尺ノ測定(134)</li> <li>4. 最低表尺以下ノ距離ノ號令アリタルトキノ 砲車長ノ動作</li> <li>5. 最低表尺以下ノ射擊(135)</li> </ol>
VII 深キ 遮蔽	方角14.790, 20左ヘ照點右側方……甲乙號標桿植立 幾何距離迄射擊シ得ル準備 20右ヘ着信6400一發 7000一發 3.750右ヘ5200一發	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 射擊前甲乙兩標桿ヲ砲車前ニ植立セシム</li> <li>2. 大射角射擊設備及射擊(131, 132)</li> <li>3. 大射角ノ彈丸裝填 集眼鏡ノ使用 大分蓋ノ射向變換</li> </ol>
VIII 深キ 遮蔽	方向45.720, 3右ヘ照點左後方……分蓋カケ 20右ヘ借4下ケ3200一發 20左ヘ3000一發 擊マテ射擊間工事ヲナセ (工事半ニ次ノ號令ヲ下シ射擊間工事ヲ繼續セシム) 擊方始メ1.720右ヘ借2下ケ2400一發 10左ヘ2600一發	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 照點左後方ニアル場合ノ標準</li> <li>2. 發射前ノ射向變換</li> <li>3. 發射後ノ射向變換</li> <li>4. 射擊間ノ工事</li> <li>5. 射擊間砲手ノ任務配當</li> </ol>

IX 深 キ 遮 蔽	<p>16.700照點右測方……分畫カケ 1.720右へ信4下ケ3600一發 3.760左へ高角正1.02信下ケ2, 2400一發 信3高メ一發分畫カケ (砲車眼鏡破損)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 照點右側方後ニ在ル場合ノ射向附與</li> <li>2. 大ナル射角變換及標桿補立(139)</li> <li>3. 原點分畫ノ記載(141)</li> <li>4. 材料破損ノ所置</li> </ol>
X 深 キ 遮 蔽	<p>1.750右へ照點前方雲ノ右端分畫カケ 30左へ高角正0.7信3下ケ260一發 5右へ2300一發(二番動作ノ中途ニ戦死ヲ命ス) 信3高メ2800一發(五番動作ノ中途ニ戦死ヲ命ス) 3左へ2700一發(一番ニ番四番戦死ヲ命ス) 信2高メ4發 (前進準備)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雲ヲ照準點下ナル射向附與</li> <li>2. 缺兵ノ時ノ砲車長ノ所置</li> <li>3. 缺兵ニ對スル砲車長ノ所置</li> <li>4. 缺兵ニ於ケル連續時</li> <li>5. 前進準備ノ動作</li> </ol>
XI 遮 蔽 ヨ リ 暴 露	<p>方角61.786, 15左へ照點……分畫カケ 80左へ高角負0.3信2下ケ3100一發 高角4へセ信5高メ3200一發 暴露陣地ニ前へ車方角0.790高角正0.4照準點…… 信修正0.1600一發 信2下ケ1700一發</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高低角及信管ノ修正</li> <li>2. 暴露陣地進出ノ動作</li> <li>3. 激動後ノ射撃操作</li> </ol>

VII 遮 蔽 ヨ リ 暴 露	<p>方角46.730照點左側方…… 1.740右 高角正1.013信3下ケ2400一發 表尺暴露陣地ニ前へ車目標前方ノ散兵 1800一發 5左へ二發 表尺右前方ヲ右へ横行スル歩兵信下ケ2, 2200一發 30右へ200一發 2100二發</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暴露陣地進出ノ動作</li> <li>2. 集合照準ヨリ表尺照準</li> <li>3. 表尺照準中ノ目標變換(145)</li> <li>4. 動目標照準</li> </ol>
XIII 暴 露	<p>表尺水器方角2.730照點…… 高角正0.06着信2800一發 3.00一發 2.740右へ曳信信3高メ2800遠ケ100四距離一發</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表尺水器ヲ以テスル照準(145)</li> <li>2. 信管ノ度換</li> <li>3. 散布(143)</li> </ol>
XIV 暴 露	<p>方角62.750照點……分畫カケ 1.740左へ高角負0.8信3下ケ3450一發 (水準機破損) 信4高メ3200一發 表尺左側方ノ散兵信下ケ2, 1400一發 信1高メ三發(二發發射シタルトキ次ノ號令ヲ下ス) 信2高メ二發</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 材料破損ニ對スル所置</li> <li>2. 表尺照準(145)</li> </ol>



XV	暴 露	2.740'左 $\sim$ 30'左 $\sim$ 照點…… 高角正 $0^{\circ}14'$ 倍下 $4, 2300$ 一發 表尺零距離目 $\rightarrow$ 左前方ヨリ前進シ來ル歩兵三發
		1. 零距離射撃(133)

射撃間小隊長及砲車長ノ職務

# 射擊間小隊長及砲車長ノ職務

## 目次

第一篇 射擊間ニ於ケル小隊長ノ職務

第一、要旨	一
第二、小隊長ノ位置	二
第三、號令及報告	三
第四、射擊陣地ノ設備	四
第五、目標ノ理解	五
第六、部下操作ノ監視	七
第七、照準點ノ指示	九
第八、射擊順序及發射速度	一〇
第九、分火	一二

第十、中隊長補佐……………一三

第十一、人員材料ノ補充……………一四

第二篇 射撃問ニ於ケル砲車長ノ職務

第一、要旨……………一五

第二、砲車位置ノ設備……………一六

第三、砲車長ノ動作……………一八

    其一、單砲教練……………一八

    其二、中隊教練……………二五

第四、部下操作ノ監視……………三三

    其一、要領……………三三

    其二、射向附與……………三六

    其三、射角附與及發射準備……………三七

    其四、發射……………三九

    其五、射向變換……………三九

其六、散布……………四一

其七、掃射……………四二

其八、表尺照準……………四二

其九、射撃及準備……………四二

第五、材料ノ監視……………四三

第六、人員材料ノ補充……………四九

附表 各豫備品ノ名稱所在員數表……………五一

## 射撃間小隊長及砲車長ノ職務

### 第一篇 射撃間ニ於ケル小隊長ノ職務

#### 第一 要 旨

小隊長ハ射撃間中隊長ヲ補佐スルト同時ニ部下ノ操作ヲ監視シ中隊長ノ意圖ヲ確實ニ實施セシムルヲ以テ主要ナル任務トス(操二七〇)之カ爲左ノ諸件ニ注意スルヲ要ス

1、嚴肅ナル射撃軍紀ヲ維持シ號令ノ復唱發射速度ノ保持並適切ナル號令及ヒ處置ニヨリ中隊長ノ下セル命令又ハ號令ヲ確實ニ實施セシム

2、狀況及地形ヲ顧慮シ要スレハ砲車及前車ノ位置照準ノ方法ヲ指示シ以テ迅速ニ其小隊ノ射撃準備ヲ完了セシム

3、適當ナル自己ノ位置ヲ選定シ又克ク目標ヲ了解シ小隊長分火ニ任スルカ又ハ表尺照準ヲ行フトキハ其小隊ノ射向修正ニ任シ(操二七〇)中隊長ノ射撃効用ヲ増加スルノミナラス中隊一部ノ射撃指揮ヲ命セラル、モ直ニ之ニ應シ得ルノ準備ヲナシアルヲ要ス

- 4、成ルヘク敵狀及目標附近ノ地形ヲ監視シ目標ノ變化又ハ新ニ現出シタル目標ヲ適時中隊長ニ報告シ之ヲ補佐ス
- 5、小隊長ハ耳目ヲ活動シ中小隊長砲車長間ノ連條ヲ確實ナラシムルヲ要ス
- 6、彈藥及人馬材料ノ補充ニ注意シ必要ナル報告ヲ中隊長ニ呈シ以テ射撃ヲ間斷ナク持續シ得セシムルコトニ注意ス
- 7、敵火ニ對スル掩護ノ爲地形ヲ利用シ又土工作業ヲ適當ニ實行セシム

### 第二 小隊長ノ位置

小隊長ハ小隊ノ指揮ニ最モ便ナル處ニ位置スルヲ以テ本則トスヘキハ操典ノ明示スル所ニシテ(操一九五)小隊長位置ノ選定如何ハ射撃ニ大ナル關係ヲ有スルモノトス之カ爲小隊ノ指揮ニ最モ便ナルハ勿論中隊長及隣接小隊及部下砲車トノ視目及號令ノ連繫小隊射彈觀測ノ便否等ニ顧慮スルヲ要ス其他中隊長ノ位置放列ト離隔セル時及天候地形ノ關係ニ依リ適當ナル位置ヲ選定スルコトニ注意スヘシ又中隊一部ノ射撃指揮ヲ命セラル、コトヲ慮リ豫メ適當ナル位置ヲ選定シ置クヲ要ス

### 第三 號令及報告

- 一、射撃ニ關スル中隊長ノ號令ハ各小隊長之ヲ復唱ス此ノ復唱ハ中隊長ニ近キ小隊長ヨリ逐次ニ行フ但シ中隊長ニ近キ小隊或ハ其砲車ニ關スル號令ハ其小隊長ノミ復唱ス(操二二〇)而シテ復唱ハ良ク中隊長ノ號令ヲ理解シテ行フコト必要ナリ又發唱時機及節度ニ顧慮スルヲ要ス殊ニ天候地形ノ關係等ニヨリ徹底充分ナラサル如キ狀況ニ於テハ一増之カ注意ヲ蓰蕘スルコト緊要ナリ中隊長ニ近キ小隊長ハ他ノ小隊長ニ中隊長ニ遠キ小隊長ハ中隊長ニ面シテ復唱スルヲ可トス
- 二、小隊長ノ復唱ハ中隊長ノ號令ト衝突混交セサルコト緊要ナリ之カ爲中隊長ノ號令ノ句切ニ注意シ若シ復唱間更ニ中隊長ノ號令アルトキハ一時復唱ヲ中止スルヲ可トス
- 三、指令發射及尋常射ニアリテハ小隊長ハ右(左)翼砲車ノ準備成ルヤ直ニ發射セシメ爾後所命ノ發射速度ニ從ヒ左(右)翼砲車ノ發射終レハ其小隊長ハ擊終リト唱フ擊畢ノ報告ハ時機ヲ失スルトキハ價値ナキヲ以テ發射後直チニ行フコト緊要ナリ未タ所命ノ彈數ヲ發射シ終ラサルニ先チ信管距離變換ノ號令アリタル後始メテ之レニ應スル彈丸ヲ發射シタル時ハ其砲車長ハ小隊長ニ小隊長ハ中隊長ニ「新信管」ト報告ス此報告ノ後舊信管ノ彈丸ヲ發射シタル時ハ「舊信管」ト報告ス(操二二三)

四、級梯射撃ノ時「何千何百右(左)ヨリ級梯何百」ノ號令ニテ小隊長ハ各砲車ノ取ルヘキ距離ヲ號令ス(操二二九)

五、砲車ニ異ナル距離ヲ取リアルトキ各砲車ノ距離ヲ一齊ニ増減スル爲「何百遠(近)ク」ノ號令アルトキハ各砲車ノ取ルヘキ距離ヲ號令ス(操二三〇)

六、級梯量ヲ以テ射向開閉ノ號令アルトキ小隊長ハ各砲車ニ應スル修正量ヲ號令ス(操二三一)

七、以上各場合ニアリテハ小隊長ハ成ルヘク速ニ砲車ニ號令スルヲ要ス之カ爲先ツ發射スヘキ順次ノ砲車ヨリ號令スル如ク注意スルヲ可トス場合ニヨリ復唱ニ先チ砲車ニ號令スルヲ可トスルコトアリ

#### 第四 射撃陣地ノ設備

一、放列位置ニ就カシムル以前ニ前車ヲ離脱シタル砲車ノ運動ヲ必要トスルトキハ小隊長ハ能ク部下ヲ督勵シ以テ該運動ヲ迅速ナラシメサル可ラス狀況ニヨリ彈藥車ノ砲手ヲシテ協力セシメ又ハ小隊ノ砲手ヲ一砲車ニ集ムルヲ要スルコトアリ

二、小隊長ハ砲車長ト共ニ砲車ノ適當ナル位置及必要ナル砲車位置ノ設備ニ關シ注意セサル可カラス此際特ニ左ノ諸點ニ着意スルコト肝要ナリ(砲車位置ノ詳細ニ關シテハ砲車長ノ部ニ詳述ス)

一、比隣砲車トノ關係良好ナルコト

二、兩車輪ノ位置平等且兩車輪下ノ土質等シキコト

三、駐鋤ノ爲堅固ナル支點ヲ有スルコト

四、砲車ノ前方ニ射撃ヲ妨害スヘキ地物ナキコト

三、小隊長ハ中隊長ノ希望スル遮蔽ノ程度ニ應シ其砲車ヲ配置セサル可ラス之カ爲最底表尺及地形特ニ之ヲ要スルトキハ射界ヲモ中隊長ニ報告スルヲ可トス又砲車位置ハ僅少ナル移動ニヨリ射界ヲ良好ナラシメ得ルコト多キニ注意スヘシ

四、中隊長ト離隔セルトキハ右小隊長ハ其基準射向ヲ報告スルヲ可トス

#### 第五 目標ノ理解及眼鏡ノ使用

一、射撃問中隊長ハ小隊長ヲシテ常ニ一般ノ狀況ニ通曉シ中隊ノ任務ヲ了解セシムルヲ緊要ナリ之カ爲小隊長ノ位置ヨリ直接ニ目標附近ノ地形ヲ望見シ得サル如キ場合ニ於テハ成ルヘク射撃準備間敵情或ハ射撃スヘキ區域ニ關シ特ニ詳細ナル指示ヲ與ヘ尙射撃間ト雖モ適時之ヲ補足スルヲ要ス若狀況之ヲ許サル場合ニ於テモ中隊直後ノ任務基點原點等ハ必ラス之ヲ小隊長ニ示シ置クヲ要ス(操

一、四) 小隊長狀況ニ通曉シ中隊ノ任務ヲ了解スルハ其職務遂行上及戰鬪ノ經過ニ應シ獨立指揮ヲ執ル場合等ニ於テ最モ必要ナリトス故ニ小隊長ハ假令中隊長ノ指示ナキモ敵狀地形ノ觀察並ニ射彈ノ觀測ニ努ムルヲ要ス是小隊長分火ノ際火力ノ分配ヲ適當ニシ又彈著ノ景況射彈ノ効力ヲ報告シ以テ中隊長ノ觀測ヲ補ヒ其他敵砲兵ノ現出又陣地撤去或ハ散兵ノ前進退却動搖等ヲ發見シ以テ中隊長ノ射撃指揮ヲ容易ナラシムル所以ナリ

二、敵況偵察及射彈觀測ノ爲眼鏡ノ使用ニ關シ左ノ諸件ニ注意スヘシ

1、偵察

敵狀地形ニ關スル判斷ノ結果ニ基キ緊要ナル地點ニ着眼シ徵候ノ發見ニ努メ一度徵候ヲ認ムルヤ其附近ヲ凝視シ以テ目標ヲ發見シ或ハ其狀態ヲ明ニスヘシ眼鏡ハ一地點ヲ長ク注意シテ始メテ其効力ヲ現ハシ得ルモノニシテ眼鏡ヲ以テ或ル地點ヨリ或地點ニ至ル間ヲ動カシツ、使用スルモ其効少キモノトス

2、射彈ノ觀測

目標距離小ナルカ或ハ最初ノ射彈方向疑シキ處アルカ射彈目標ニ接近セサル間等ニアリテハ眼鏡ヲ用ヒスシテ觀測スルヲ有利トス(射八一)

眼鏡使用ニ方リテハ己レノ位置ヲ固定シ兩足ハ上體ノ姿勢如何ニ關セス常ニ一定方向ニ保持シ上體ヲ自然ノ體勢ニ復スルトキ目標方向ニ向フ如クシ又目標不明ナルトキハ其附近ニ於テ肉眼ヲ以テ直チニ確認シ得ヘキ假標ヲ撰ヒ方向ノ基準ヲ定メ一度眼鏡ヲ眼ニ接スレハ直ニ視界内ニ目標存在スル如ク基準ヲ定メ置ヲ可トス

眼鏡使用ノ時間ハ安リニ長キニ過ク可ラス之カ爲射彈觀測ノ場合ニ在リテハ其ノ經過時間ヲ顧慮シテ使用スルヲ可トス

風向ニヨリ爆煙移動スルトキ及谷地ノ射撃等ニハ稍長ク觀測スルヲ有利トスルコトアリ

3、眼鏡使用ノ際動搖セサル如クスルヲ要ス之カ爲風速大ナル時若クハ激動後等ニ在リテハ地物ニ依托スルカ若クハ堅確ナル姿勢ヲ執ルヲ要ス

第六 部下操作ノ監視

部下操作ヲ監視シ以テ射撃準備及射撃ヲ迅速確實ナラシムルハ小隊長職務上極メテ重要ナリ殊ニ深キ遮蔽陣地ニ於テ然リトス然レトモ其監視要領ハ砲車長ノ監視法トハ自ラ差異アリ之カ爲先ツ各職責ヲ研究シ遺憾ナキヲ要ス細部ニ關スル要領概ネ左ノ如シ

- 1、小隊長ハ部下操作ニ關シ之ヲ監視スヘキヤ勿論ナリト雖部下砲車ノ射向ヲ掌握シ所命ノ射距離及信管修正分書ヲ以テ射撃セシムヘキコトニ關シテハ絕對ノ責任ヲ有ス之カ爲射撃諸元中特ニ射距離及信管修正分書ハ常ニ確實ニ記憶シアルヲ要ス
- 2、射向掌握ハ小隊長ノ主要ナル責務ナリトス之カ爲殊ニ射向附與大ナル射向變換等ニ方リテハ必ス之ヲ點換スルヲ要ス之カ爲各砲車ノ射向ヲ確認シ置クコト必要ナリ射向點換ノ方法ハ通常砲車ノ後方ヨリ點換スルヲ可トス
- 3、射角ニ關スル監視ハ表尺抽出ノ度及砲身傾斜ノ度ニヨリ概ネ之ヲ監視スルヲ得ヘク又信管修正分書ハ砲車長ノ報告ヲ確實ニ聞知シ通常兩砲車同一ナルヘキニ着意スヘシ
- 4、中隊長ノ號令複雑ニシテ誤解ヲ生シ易キ場合ニ在リテハ特ニ監視ヲ嚴ナラシメ又發射前ノ砲車及誤謬ヲ生シ易キ狀況ニ在ル砲車ニ對シテハ特ニ注意ヲ拂フコト緊要ナリ
- 5、以上ノ外砲車動作ノ要點及彈著點破裂高ノ景況ニ依リ其良否ヲ監視シ尙餘裕アルトキハ要スレ

ハ自ラ點檢ヲ行ヒ或ハ砲車長ニ必要ナル事項ヲ試問シ其正否ヲ確ムルヲ可トス然レトモ砲車ノ動作ヲ屢々點檢スルハ監視上ノ大綱ヲ失シ且操作ヲ妨害スルノミナラス砲車ノ自信力ヲ減殺シ獨立ノ精神ヲ消磨セシムヲ以テ妄リニ行ハサルヲ要ス

### 第七 照準點ノ指示

#### 一、集合照準

明瞭ナル照準點ヲ指示セラル、時ハ小隊長ハ之ヲ復唱シ各砲車誤解ナキヤ否ヤヲ點檢スルヲ要ス若シ砲車長ニシテ理解充分ナラサルトキハ地物ノ媒介若クハ直接架尾ヲ執リ其授受ヲ確實ナラシムヘシ又小隊長ニシテ照準點ニ疑念ヲ有スルトキハ速ニ中隊長若クハ隣接小隊長ニツ之ヲ確ムルヲ要ス

#### 二、表尺照準

概ネ前項ノ要領ニ準スヘキモ照準點明瞭ナラサルトキハ小隊長自ラ照準棍ヲ執リ部下砲車ニ方向ヲ付與シ成ルヘク言辭ヲ使用セサルヲ可トス尙左ノ件ニ注意スヘシ

- 1、中隊長ノ指示スル照準點ヲ發見スルニハ小隊長ハ先ツ眼鏡ヲ使用スルコトナク先ツ概略ノ位置ヲ確認シタル後之ヲ探究シ要スレハ眼鏡ヲ使用スヘシ



2、小隊長架尾ニヨリ照準點ヲ指示シタル後砲手更ニ大ナル架尾ノ移動ヲナスカ如キ時ハ砲車長以下尙照準點ヲ確實ニ理解シアラサルノ證ナリ此ノ如キ場合ニ在リテハ速ニ之ヲ矯正シ要スレハ小隊長自ラ鏡眼ニヨリ第一回ノ照準ヲ行ヒ以テ充分理解セシムルヲ要ス

(注意) 照準點指示者ヲシテ砲車ニ方向ヲ與フル場合ニ在リテハ左ノ注意ヲ拂フヲ要ス

特ニ指示者ヲシテ照準點ヲ指示スル場合ハ照準點明瞭ナラサル時ナルヲ以テ中隊長ハ自ラ砲隊鏡ヲ以テ照準シ之ヲ示スカ或ハ標抗地物ノ媒介ニヨリ明瞭ニ指示スルヲ要ス地物ノ媒介ニヨリ指示スル場合ニ在リテハ先ツ顯著ナル地物ニヨリ大體ノ關係ヲ示シ後細部ニ亘リ明示スルヲ要ス指揮者之ヲ理解スルトキハ其附近ノ地物ヲ媒介トシ其位置ヲ確認シ且ツ之ヲ注視シツ、位置ヲ移動シ見失ハサルコトニ注意スルヲ要ス而シテ該指示者ハ通常小隊毎ニ一門宛指示スルヲ可トス此際成ルヘク言辭ヲ使用スルコトナリ照準棍等ニヨリ自ラ照準スルヲ可トス小隊長及他ノ砲車長ハ速ニ其ノ傍ニ至リ照準點ヲ受領スヘシ指示者已ニ照準點ノ指示ヲ終ルトキハ歸路各砲車ノ射向ヲ點檢シ其正否ヲ確ムルヲ可トス

## 第八 射撃順序及發射速度

中隊長ノ射撃指揮ヲ圓滑ナラシメ且ツ砲車長以下ヲシテ沈着確實ナル射撃ヲ行ハシメンカ爲ニハ發射順序及發射速度ヲ良好ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲小隊長ハ射撃ノ方法ニ通曉シ中隊長ノ意圖ヲ知シ又發射速度ノ基準ヲ熟知シアルヲ要ス

發射順序及發射速度ヲ良好ナラシメンカ爲左ノ件ニ注意スヘシ

- 1、陣地ニ就キ射撃準備完了セルトキハ速ニ中隊長ニ報告ス
- 2、尋常射ニ於ケル發射間隔ハ每發射間ハ普通ノ場合ニ於ケル呼吸ヲ三回行フカ如クスルトキハ約ネ十秒ヲ間スルヲ得ヘシ然レトモ熟練ノ結果感覺ニヨリ一定ノ標準ヲ得ルヲ要ス又二順以上尋常射ヲ行フハ各繼目ニ於ケル發射速度ヲ圓滑ナラシムルコトニ注意スヘシ
- 3、發射ノ號令ハ成ルヘク短調ニシテ砲車番號ノ明瞭ナルヲ要ス故ニ第何ヲ明瞭ニ發唱シ撃テテ第何ニ續ケテ唱フルヲ可トス
- 4、發射ノ時機ヲ遲滯セシメサルヲ要ス之カ爲發射順序ノ砲車長ニ注意シ該砲車長ト小隊長トノ連繫極メテ密ナルヲ必要トス
- 5、發射スヘキ順序ニ於ケル砲車未タ發射準備ヲ終ラサルトキハ直ニ其小隊内ノ次ノ砲車ニ發射ヲ命スルカ或ハ發射スヘキ順序ニ於ケル次ノ小隊長ニ之ヲ通報シ且速ニ中隊長ニ報告ス而シテ通報

ヲ受タル小隊長ハ發射順次ニ於ケル其小隊ノ砲車ヲシテ發射セシム(操二二三)  
故障砲車ヲシテ故障恢復後發射セシムヘキヤ或ハ發射セシメサルヤハ狀況ニヨルヘキモ翼次射ニ  
アリテハ成ルヘク其順ノ終リニ發射セシムルヲ可トス又報告ノ時期ヲ適切ナラシムルコト緊要ナ  
リ不發彈ヲ生スルトキ單砲教練ノ規定ニ基キ數回拉繩ヲ發唱引クヘキヤ否ヤニ關シテハ發射法及  
發射速度ニ顧慮シ適宜所置スルヲ可トセン  
6、損害ヲ被リ或ハ材料故障等ノ爲一砲車ヲ缺クニ方リ射撃ヲ澁滯セシメサルコトニ注意スヘシ

### 第九 分火

一、集合照準ニ於テモ小隊長ノ位置ヨリ目標ヲ認識シ得ルトキハ中隊長ノ射撃指揮ヲ單簡ナラシメン  
カ爲屢々小隊長ヲシテ分火セシムルコトアリ殊ニ中隊長位置放列ヨリ離隔セル時若クハ一密位曳火  
射撃若クハ破壊射撃ヲ行フ場合ニ於テ然リトス

#### 二、分火準備

小隊長分火ヲ適切ナランカ爲豫メ目標ノ景況ヲ確認シ小隊ノ分火點ヲ了解シ置クヲ要ス就中火光砲  
兵等ニ在リテハ地物ノ媒介ニヨリ其地點ヲ確認シ置クコト緊要ナリ

散兵等連續セル廣キ一連ノ目標ハ分火點ノ決定砲兵目標等ノ如ク容易ナラス故ニ掌ヲ下ニシ指ヲ伸  
シ目標全正面ヲ指ニテ夾ミ自己小隊砲車ノ相對スル部分ヲ決定シ分火點ヲ定ムルヲ可トス又一砲車  
ノ射撃正面大ナルトキハ搖架轉把ノ旋回若クハ照準點ノ變更等適時指示ヲ與フルヲ要ス又場合ニヨ  
リ交叉分火ヲ行フヲ適當トスルコトアリ

表尺照準ニ於テハ要スレハ小隊長ハ分火以前ニ分火點ヲ砲車長ニ指示シ置クヲ可トス

三、方向角ニヨリ分火點ニ小隊ノ射向ヲ導クトキ躲避量ヲ確實ニ觀測シ得タル時修正スヘキ量ハ第一  
回第回第三回等ナルニ從ヒ通常觀測セル量ノ全量二分ノ一三分ノ一ナルヲ良トス但シ砲車ノ安定不  
良其他ノ爲毎發不定躲避ヲ生スルカ若シクハ躲避量大ニシテ觀測確實ナラサルトキハ前述ノ要領ニ  
據ル能ハサルニ注意スヘシ

### 第十 中隊長補佐

小隊長ハ常ニ中隊長ノ號令ニ注意シ又成ルヘク射撃ノ觀測ニ力メ以テ中隊長ヲ補佐スルヲ要ス殊ニ中  
隊長遠隔セル場合ニ於テ然リトス又時機ヲ見計ヒ中隊長直後ノ任務基點原點等射撃上必要ナル事項ヲ承  
知スルコトニ努力スルコト緊要ナリ

## 第十一 人員材料ノ補充

日露戰爭ノ實驗ニ徴スルニ軍隊ノ強弱ハ主トシテ幹部就中將校勇敢ノ程度ニ比例ス之カ爲將校ハ常ニ精神修養ニカメ砲兵ノ特性ニ鑑ミ其精華ヲ發揚スルノ覺悟ヲ有スルコト緊要ナリ（陣中要務令及操典綱領）

一、中隊ハ總テノ方法手段ヲ盡シ其戰鬪ヲ繼續スルヲ緊要トス故ニ幹部ハ如何ナル場合ニ於テモ補充及修理ニ就キ機ヲ誤ラス速ニ必要ナル處置ヲナシ常ニ中隊ノ人員材料ヲ完備スルコトニ勉メサルヘカラス（操二九五）

二、戰鬪間死傷ヲ生シ補充ヲ待ツノ違ナキニ方リ尙射撃ノ澁滯ヲ防カンカ爲砲手缺クルトキハ砲車長ハ他ノ砲手ヲシテ之ヲ兼ネシムルカ或ハ自ラ之ヲ補ヒ砲車長缺クルトキハ小隊長ハ一砲手ヲ指示シテ之ニ代ハラシメ小隊長缺クルトキハ其小隊内故參ノ砲車長之ニ代リ一時之レヲ補缺スヘキモノトス（操二九六）此際小隊長ハ兩砲車損害ノ程度ニ鑑ミ砲手ヲ平均シ遂ニ最後ノ一人ニ至ルモ尙射撃ヲ繼續セシムルヲ要ス又假令負傷スルモ苟モ戰鬪ニ堪エ得ル者ハ奮テ戰鬪ニ從事シ斃レテ後止ムノ覺悟ヲ有セシムルヲ要ス之カ爲平時ノ演習ニ在リテモ單ニ負傷ト稱シ之ヲ後退セシメ缺兵ノ演習ヲ行

フカ如キハ大ニ戒メサルヘカラス

三、缺兵及材料ノ損傷ヲ生スルトキハ小隊長ハ要スレハ獨斷補充ヲ行ヒ適宜ノ時機ニ於テ中隊長ニ報告スルヲ可トス

四、敵ノ側射斜射ヲ受クル時ハ狀況ニヨリ放列ニアル彈藥車後車ノ位置ヲ變シ其掩護ヲ利用スルヲ可トス

五、小隊長ハ常ニ中隊ノ志氣ヲ鼓勵スルコトニカムヘシ之カ爲志氣ヲ阻喪スヘキ損害ハ成ルヘク中隊全段ニ示サ、ル如ク密ニ中隊長ニ報告スルヲ可トス

六、材料ノ損傷ニ際シ機ヲ失セス之カ補充交換ニ任スル爲幹部ハ材料豫備品ノ所在ヲ熟知シアルヲ要ス材料豫備品ノ主要ナルモノ附表ノ如シ

## 第二編 射撃間ニ於ケル砲車長ノ職務

### 第一 要旨

射撃間ニ於ケル砲車長ノ職務ハ射撃ノ各時機ニ於テ異ルヘキモ適當ニ砲車位置ヲ選定シ材料各部ノ機能ニ注意シ常ニ部下操作ヲ監視シ必要ナル號令指示ヲ與ヘ報告ニ遺漏ナキヲ期シ且視目ノ連繫ニ着意

シ以テ其砲車ノ戦闘力ヲ遺憾ヲ發揮スルコトニカメサルヘカラス

### 第二 砲車位置ノ選定及設備

一、砲車位置殊ニ架尾位置不良ナルトキハ砲車ハ其位置固定セス從テ每發射向ヲ移動シ中隊長ノ射撃指揮ヲ困難ナラシムヘキヲ以テ特ニ注意ヲ拂フヲ要ス即左ノ如シ

I、兩車輪ノ位置高低差ナキコト

高低差アルトキハ射向ハ低キ車輪ノ方ニ偏ス而シテ其差小ナルトキハ表尺坐筒ノ氣泡ニヨリ修正シ得ヘキモ時機ヲ得ハ車輪下ヲ掘開シテ之ヲ修正スルヲ可トス

側方ニ傾斜セル土地ニアリテハ其高部ヲ削リテ平床ニ設ケ若クハ高キ車輪下ヲ掘下シ兩車輪位置ヲ平等ナラシムヘシ又車輪下ノ掘開ヲ行フニ方リテハ架尾ヲ移動スル際更ニ掘下スルノ必要ナキ如ク射界ニ應シ適當ナル幅員ヲ與フヘシ

2、兩車輪下ノ土質等シキコト

土質異ルトキハ兩車輪中柔軟ナル土質ノ方ノ車輪ハ漸次沈下シ再ヒ兩車輪ノ高低ヲ生スルニ至ル

3、架尾位置ハ充分ナル抗力ヲ有スルコト

土質柔軟ナルカ後方降傾斜ヲナスハ適當ナラス後方ニ少シク昇傾斜ヲナスカ若クハ適度ナル抵抗カヲ有スル草株等存在スルヲ可トス

4、駐鋤ノ受クル抗力左右平等ナルコト

側方ニ傾斜セル土地若クハ駐鋤ノ受クル抗力左右平等ナラサル地物等ニ架尾ヲ托スルトキハ駐鋤ハ其全部ヲ以テ後坐ニ抵抗スルコト能ハス若其度甚シキニ至レハ砲車ハ駐鋤ノ一側ヲ軸トシ抵抗少キ側方ニ旋回セントスル傾向ヲ生スルニ至ル

5、駐鋤吻入ノ爲溝ヲ掘開スルトキハ溝狀及其深サニ注意シ駐鋤ノ後部全面カ溝壁上ニ密着スル如クスルト必要ナリ溝ハ半徑二米三十深サ十珊ニシテ射界ニ應シ適當ナル幅員ヲ與ヘ且發射ノ際砲架ノ下面土地ニ衝突セサル如ク注意スルヲ要ス

(注意) 以上ハ主トシテ單砲ニ關スル事項ヲ研究セルモ中隊ニ在リテハ單ニ自己砲車位置ノ良好ナルノミナラス中隊ニ於ケル他砲車ノ關係ニ注意シ決定セサルヘカラス

二、防楯並彈藥車後車ノ下方ニハ速ニ積土スルカ或ハ填實セル土囊ヲ置キ以テ此部ヨリスル敵彈ノ危害ヲ減少スルコト緊要ナリ

三、砲車位置ノ土質柔軟ナルトキハ束藁、束柴若クハ其他適宜ノ材料ヲ駐鋤下ニ置キ砲車ノ安定ヲ計

- ルコト緊要ナリ又要スレハ車輪下ニ厚板木桿若クハ束柴等ヲ首線ト直角ニ敷クヲ可トス
- 四、土質鬆粗ニシテ乾燥シタル土地ニ於テハ發射毎ニ砂塵ヲ揚ケ敵ノ認識ヲ受ケ易キコトアリ此ノ如キ場合ニハ露水セシ布或ハ蓆等ヲ以テ砲車近傍ノ土ヲ覆フカ或ハ水ヲ散布シ或ハ土囊若クハ糾草ヲ配置スヘシ
- 五、發射ノ際射彈前方ノ地物ニ妨ケラレ危害ヲ生セサルコトニ注意スルヲ要ス之カ爲要スルハ射界ノ清掃ヲ行フヘシ

### 第三 砲車長ノ動作

#### 其一 單砲教練

##### 一、放列砲車ノ運動

- 1、砲車經路ノ偵察ヲ行フコト
- 2、砲車長ハ砲車ノ指揮ニ重キヲ置キ砲車ノ方向ヲ變換スルニハ架尾何步右(左)ノ號令ヲ下シ其量ヲ適切ナラシムヘシ
- 3、地形ニ應シ或ハ一車輪宛扛上セシムルカ或ハ速度ノ緩急ヲ命シ慣性ヲ利用スルヲ可トス

- 4、砲口ヲ土地又ハ樹木等ニ衝突セシメサルヲ要ス土砂腔内入ル時ハ腔發ノ原因トナルコトアリ
- 5、大ナル距離ヲ移動スル場合ニアリテハ架尾ヲ昇カシムルヲ可トス又彈藥運搬時機ニ後レサル如ク注意スルコト緊要ナリ
- 6、降傾斜地ノ「後エ車」ニ在リテハ危害ノ豫防ニ注意ヲ拂フヲ要ス

##### 二、射向附與

- 1、照準點ヲ誤ラシメサルコトニ注意シ且射向ヲ點檢スルヲ要ス之レカ爲砲手ヲ妨害スルコトナク白線眼鏡軸等ノ方向ヲ利用スルヲ可トス
- 2、二番砲手ノ選定セル標定點ニ注意シ若シ適當ナル標定點ナキトキハ標桿ヲ立テシムヘシ(操一三〇)之カ爲要スレハ豫メ標桿ヲ準備セシムルヲ可トス又乙號標準ヲモ豫メ植立セシムルトキハ其間隔ヲ約ネ十步ナラシムルヲ可トス
- 3、標桿及携帶燈ハ地形ヲ利用シ敵ノ認識ヲ困難ナラシムルコト緊要ナリ
- 夜間ニアリテハ標定點トシテ通常携帶燈ヲ砲口前約ネ五十步ニ置カシムヘシ(操一三〇)
- 側方後ヲ照準スル際殊ニ反規法ニ於テ補助桿防楯ノ爲ニ支ヘラレ照準ヲ妨ケラル、コト屢ナリスノ如キ時ハ一時表尺ヲ上下シテ照準スルヲ可トス又時トシテ表尺補助桿ヲ脱スルトキハ容易ニ照

準シ得ルコトアリ

三、零距離射撃

速ニ其準備ヲ整ヘシムルヲ主眼トス殊ニ射撃スヘキ目標ニ對シ速ニ砲口ヲ向ハシムル事ニ就テハ砲車長ノ大ナル努力ヲ要ス之カ爲要スレハ直ニ自ラ照準棍ヲ取り方向ヲ附與スルヲ可トス爾後砲車長ハ通常立チテ砲手ヲ指揮スルヲ可トス之レ目標ハ通常動目標ナルト早晚敵兵放列線ニ突入シ來ルヘキヲ顧慮シ適時之ニ應シ得ル爲ナリ

四、最低表尺ノ測定(操一二四)

砲車長自ラ測定シ最低表尺「何千何百高低角正(負)何度幾ツ」ト報告スヘシ  
高低角零ノ場合ニ於テモ之ヲ報告スルヲ要ス

(注意) 前項ノ場合ニ於テ最低表尺ハ某方向ニ對シ測定ヲ命セラル、ヲ以テ其方向ニ射向ヲ向ケ測定スルヲ要ス又回轉盤分畫ヲ取りアルトキハ一旦零トナシタル後測定スヘシ

五、最高表尺ノ測定

操典制式トシテ規定ナキモ之カ測定ノ必要ナルコトアリ即所命方向ヲ照準シタル後搖架轉把ノ使用ニ差支ナキ程度ニ砲尾ヲ下ケ然ル後高低水準器ノ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導ク如ク表尺ヲ抽出シ坐筒

上縁ニ一致スル距離ヲ讀ミ現在取リアル高低角ト共ニ報告ス

(注意) 最高表尺ヲ測定スルニ當リテハ駐鋤ヲ地中ニ吻入セシムルカ或ハ一時駐鋤ヲ上ケ測定スルヲ可トス

六、高低角ノ測定(操一二七)

通常砲車長自ラ測定シ正負何度幾何ト報告スヘシ

高低角五度以上ナルトキハ表尺ヲ任意ノ距離ニ裝定シ照準ヲナシタル後高低水準機ノ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導ク爲表尺ヲ上下シテ得タル角度ト最初裝定セル距離ニ應スル角度トノ差ヲ求ムヘシ

七、信管距離變換ノ際ニ於ケル報告(操一二五)

砲車長ハ修正ノ結果ヲ報告ス此報告ハ成ルヘク早キヲ可トスヘキモ小隊長號令ヲ復唱シ又ハ下シツ、アル時ハ終ルヲ待テ直ニ報告スルヲ要ス

未タ所命ノ彈數ヲ發射シ終ラサルニ先チ信管距離變換ノ號令アルトキハ爾後發射スヘキ彈數ヲ砲手ニ命スルヲ可トス之レ新ニ稱呼ヲ唱フル爲測合スヘキ彈數ニ誤リヲ生セサラシメンカ爲ナリ

八、象限儀ノ裝定

六千五百米以上ノ距離ニアリテハ射角附與ノ爲ニ象限儀ヲ使用ス此際之カ裝定ハ砲車長自ラ行ヒニ

番ヲシテ之ニヨリ高低照準ヲ行ハシム象限儀裝定ノ方法左ノ如シ

象限儀ノ垂直鈹ニハ六千五百米乃至八千五百米ノ射距離及之ニ應スル象限儀測方分書並偏流分書ヲ刻ス但偏流分書ハ定偏ニ應スル偏流ト射角二十度ニ於テ表尺ノ傾斜ヨリ生スル偏流トノ差ヲ示スモノトス

垂直鈹ノ分書ヲ應用シテ砲身ニ射角ヲ附與スルニハ射距離ニ應スル本分書ヲ角度鈹上ノ分書トシ副分書ヲ遊標上ノ分書トシ兩分書ヲ相對向スル如ク氣泡管ヲ定メ其角度ヲ砲身ニ與フレハ可ナリ

象限儀ヲ某角度ニ裝定シ或ハ象限儀ノ角度ヲ讀算スルニハ遊標ニアル矢標ニ依リ角度鈹上ノ本分書ヲ次テ遊標ノ副分書ニ依リ十六分數ヲ測定スヘシ(三八式野砲取扱法參照)

九、發射

特ニ左ノ各項ニ注意スヘシ

- 1 砲車長ハ二番ノ照準ヲ完了シ良シト唱フルヲ認メ直ニ「撃テ」ノ號令ヲ下スヲ要ス二番ノ照準完了ヨリ彈丸ノ砲口ヲ離ル、迄ノ時間ハ間髪ヲ容レサル底ノ着意ヲ緊要ナリトス
- 2 發射ニ際シ砲手ヲ一時車輪外ニ出サシムルヲ要スルトキハ豫メ「外エ」ノ注意ヲ下シ置クヘシ而シテ撃テノ號令ハ砲手確實ニ車輪外ニ出タル時ニ下スヘシ此間多クノ時間ヲ徒費セサルヲ要ス

- 3 不發アリタル場合ハ少許ノ時間ヲ隔テ再三撃テノ號令ヲ下シ尙發火セサルトキハ概ネ十五秒ノ後徐ロニ閉鎖機ヲ開キ抽筒子ニヨリ僅カニ彈藥筒ヲ抽出セシメ後手ヲ以テ之ヲ受ケ砲車長ハ彈藥筒及閉鎖機ヲ點檢シ其原因彈藥筒ニ在ルトキハ之ヲ標示シテ完全ナルモノト確實ニ區別セシメ若閉鎖機ニ在ル時ハ直ニ所要ノ所置ヲ爲スヘシ

(注意)

十五秒時ノ算定ハ時計ヲ有スルトキハ確實ナルモ然ラサルトキハ普通ノ場合ニ於ケル呼吸ヲ約四五回行フヲ以テ標準トナスヲ可トス

- 4 後坐量及發射ノ際ニ於ケル材料ノ景況ニ注意スヘシ
- 5 未タ所命ノ彈數ヲ發射シ終ラサルニ先チ新ニ發射ノ號令アルトキハ直ニ此號令ニヨリテ操作シ所命ノ彈數ニ誤リヲ生セサル事ニ注意スヘシ
- 6 彈藥筒ハ抽出容易ナルヲ以テ裝填及信管ニ關シ誤リヲ發見セハ直ニ之ヲ抽出シ所要ノ修正ヲナスヘシ

十、原點分書ノ記載(操一四一)

「分書書ケ」ノ號令アリタルトキハ砲車長ハ現在取リアル回轉盤分書及之ニ應スル標定點ヲ自ラ記載ス而シテ之カ記載ニ方リテハ其形態ノ大要ヲ描書シ且照準セル點ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス又該標定

點ハ他ノ砲手ニ指示シ置クヲ可トス

十一、集合照準ニ於テ目標ノ運動方向ヲ指示サレタル場合ハ砲尾ヲ目標ノ運動方向ト同方測ニ移動シ方向分畫ヲ準備セシムルヲ可トス

十二、散布

砲車長ハ適時發射スヘキ射距離及發射ノ號令ヲ下ス(操一四三)散布ニ於テハ射距離ト信管距離ト一致セサル彈丸ヲ發射セサルヲ緊要トス之カ爲砲車長ハ特ニ二番及五番若クハ四番ノ協同動作ニ注意シ自己ノ號令ニヨリ操作セシムルヲ要ス散布ニ於テハ砲車長ハ直ニ開始表尺ヨリ「何千何百何發」ト號令スヘシ而シテ第二ノ距離ハ第一距離ニテ所命ノ彈數ヲ發射シ終リタル直後即チ距離變換ノ時機毎ニ下スヲ可トス之レ砲車長ノ指揮容易ナルノミナラス砲手ノ操作亦秩序正シク實施セララルヘキヲ以テナリ第三距離以下亦之ニ準ス即砲手ハ第二距離以下ハ砲車長ノ號令ニヨリ操作ヲ始ムルヲ主義トスヘシ

十三、散布ト同時ニ行フ掃射

砲車長ノ下スヘキ號令ハ前條散布ト同様ナリ但シ掃射ニ關スル事項ハ砲手ヲ行ハシメ砲車長號令セサルヲ主義トス然レトモ狀況ニヨリ掃射ニ關スル號令ヲモ下スヲ可トスルコトアルヘシ

十四、表尺照準

1 表尺照準中分畫ヲ以テスル大ナル射向變換ヲ行フトキ二番カ標定點ヲ取ルカ如キハ誤リニシテ最初ノ照準點ヲ照準スルヲ要ス  
2 動目標ヲ照準スル時ハ方向分畫ニ關シニ四番ノ連係ニ注意スヘシ目標運動スルトキハ方向照準ノ初メニ當リ其方向ト同側ニ砲尾ヲ移動セシメ豫メ方向分畫ヲ準備シ置クヲ可トス

其二 中隊教練

一、射撃準備

1 反規法ノ際ニ於ケル砲車長ノ動作(操二一〇)

イ 基準砲車長ノ動作

「第何基準反規法」ノ號令ニテ基準砲車長若シ照準點ヲ示サレタルトキハ二番ヲシテ之ニ對シ射向ヲ附與セシメ然ラサルトキハ現在射向ノ儘ニテ之ヲ換フル事ナク回轉盤ヲ旋回シ他砲車ノ眼鏡ノ上ニ立テラレタル標桿等ヲ照準セシム之カ爲基準砲車一翼砲車ナルトキハ已ニ近キモノヨリ遂次反對翼ニ中間砲車ナルトキハ先砲數多キ側ヨリ行フヲ可トス而シテ二番砲手ハ遂次各砲車ヲ照準シ照準終ル毎ニ「第何良」シト唱フルヤ基準砲車長ハ分畫ヲ讀算シ通常其附近ニ集合セ



ル他ノ砲車長ニ「何分書幾何」ト傳へ其復唱ニヨリ誤リナキヲ確ムヘシ而シテ二番ハ砲車長ノ此通告ヲ聞クヤ直ニ次ノ砲車ヲ照準ス此際二番及砲車長ハ分書ノ測定並ニ讀算ヲ相互妨害セサル如ク注意スヘシ

基準砲車長ハ分書ノ測定終ラハ直ニ豫メ準備セル標準ヲ眼鏡上ニ垂直ニ立テシム此ノ際砲車長ハ標準ヲ垂直ナラシムルコトニ注意スヘシ

ロ 基準砲車以外ノ砲車長ノ動作

基準砲車ノ傍ニ集合スル以前ニ己ノ砲車ニ就キ左ノ件準備スヘシ

基準砲車ノ射向ト略平行セシムルコト之カ爲基準砲車ノ反對側ニ出テ己ノ砲車ノ防楯ヲ基準砲車ノモノト略平行セシメ眼鏡ヲ基準砲車ノ方向ニ向ハシム

標準ヲ眼鏡上ニ立テシム

次テ各砲車長ハ基準砲車ノ後方ニ砲車番號ノ順序ニ防楯及彈藥車ノ掩護ヲ受クル如ク集合シ手簿ニ3150ト記入シ計算ノ準備ヲナシ先ツ二番ノ唱フル「第何良シ」ニヨリ砲車番號ヲ知得シ基準砲車長ノ讀算セル分書ヲ復唱シ之ヲ手簿ニ記載シ其位置ニテ計算シタル後己ノ砲車ニ返リ算定セル分書ヲ以テ基準砲車ヲ反視セシム(場合ニヨリ砲車長ハ必スシモ一地ニ集合スルヲ要セス)

(注意) 砲隊鏡ヲ使用シ三十一分書五十二テ照準點ヲ照準セルトキハ各砲車ノ視視分書ヲ受領

シ其儘ノ分書ニテ砲隊鏡ヲ反視セハ可ナリ

ハ 反規法實施上ノ注意

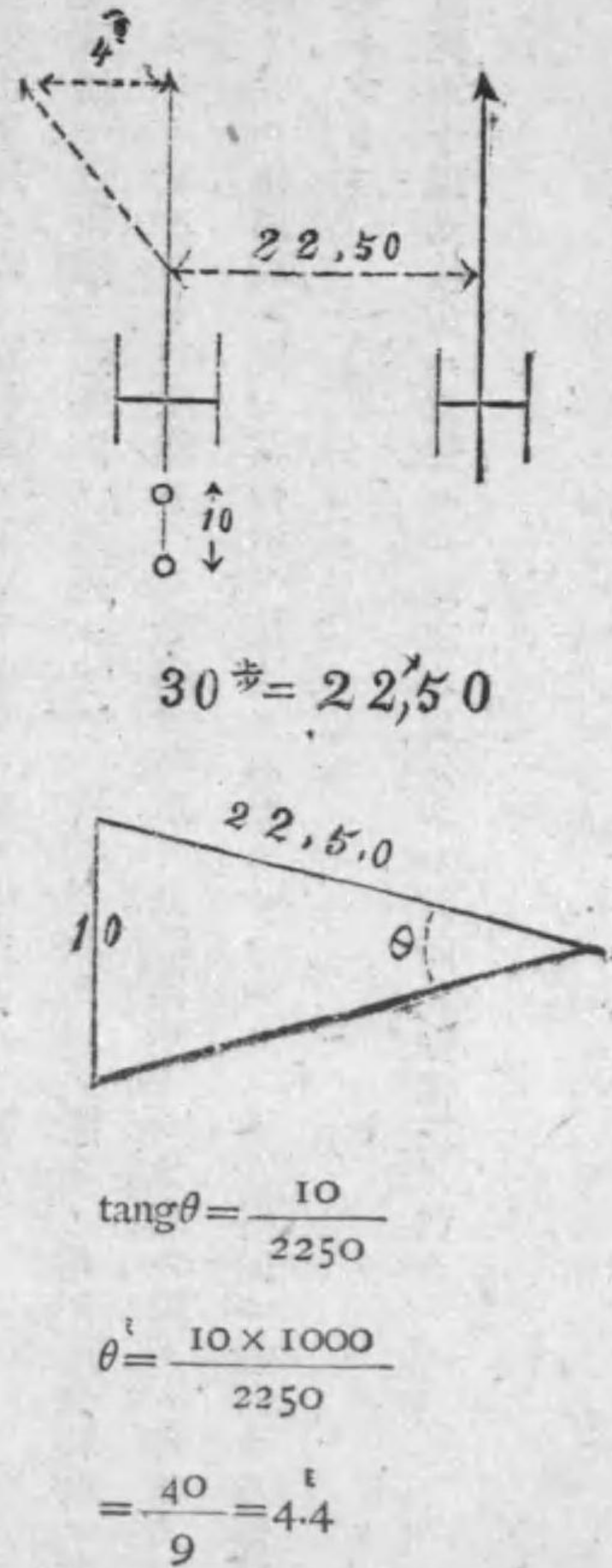
反規法實施中射向變換ノ號令アリタルトキハ各砲車共反規法ヲ終リタル後射向ヲ變換スルヲ要ス

反規法ノ際補助桿防楯ニ支ヘラレ照準ヲ妨ケラル、コト屢ナリ此ノ如キ場合ニ在リテハ單砲教練ノ部ニ於テ述ヘタル方法ニ依リ操作スルコト緊要ナリ

反規法實施ノ際ハ水準器ノ氣泡ヲ中央ニ導キ操作スルヲ要ス

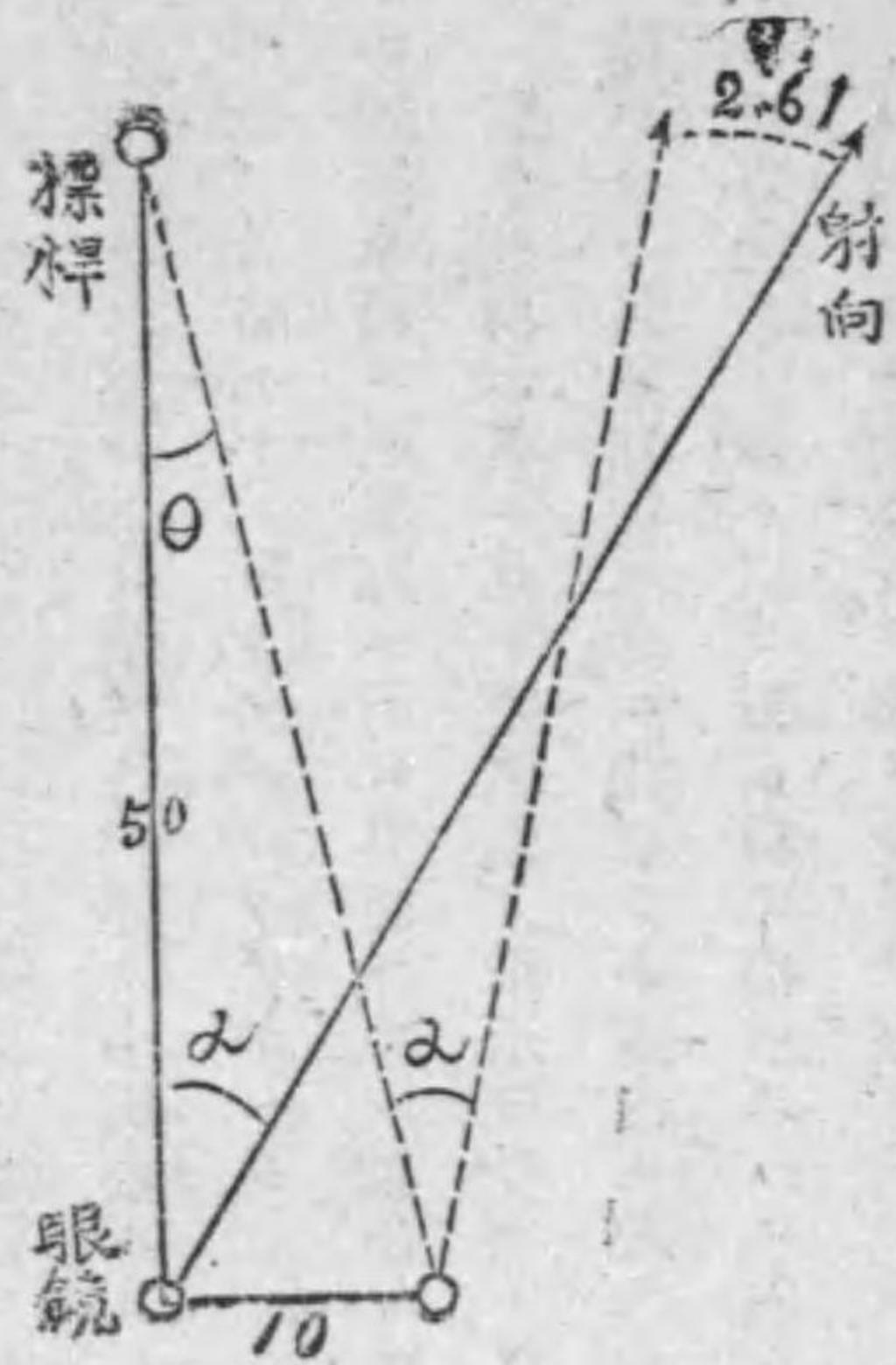
反視法ハ近距離ニ照準點ヲ撰定シタルト同様ナルヲ以テ照準ノ爲架尾位移動ニ際シ砲車位置ヲ移動セシメサルコトニ注意スヘシ今第一砲車ヲ基準砲車トシテ之ニ隣レル砲車カ基準砲車ノ照準ヲ終リタル後反視ニ際シ其位置ヲ後方ニ移動セルコトニヨリテ射向ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ研究セントス

隣砲車十珊米後方ニ移動セル時之カ爲生スル射向ノ變化左ノ如シ



同一景況ニ於テ第三及第四ノ射向ノ變化ハ 1000 即 1000 及 1000 ナリ

二、前方ニ標定點ヲ撰定シ其距離近キトキハ砲車ノ側方移動ヲ生セサル事ニ注意スヘシ今砲車カ前方 50 歩ノ標桿ニ射向ヲ標定シタル後側方十珊米砲車ヲ移動シタル爲生スル射向ノ變化左ノ如シ



$$50^{\circ} = 37.750$$

$$\theta^i = \frac{10 \times 1000}{3750} = 2.61$$

(注意) 標定點近キ時ハ砲車ノ移動僅カニ十珊米ナルモ射向ノ變化比較的大ナルコト以上ノ如クナルヲ以テ破壊射撃ノ如ク精密ナル射撃ヲ行フニ方リテハ砲車位置ノ良否カ射撃効力上影響スル所如何ニ大ナルカヲ知ルヲ得ヘシ

三、射撃問架尾位置不良トナリタル爲砲車位置ヲ移動スル際現射向ノ保留法  
射撃問止ムヲ得ス砲車位置ヲ移動セサルヘカラサル時射向ノ混亂ヲ豫防スル爲左ノ方法ニ依リ動作スルヲ要ス

- I 砲車ヲ前後ニ移動スル場合ニ在リテハ現射向ニ近ク且ツ成ルヘク遠距離ニアル任意ノ地物ヲ假ノ標定點トシ射向ヲ換フルコトナク回轉盤ヲ旋ラシテ假標定點ニ對スル分書ヲ求メ然ル後砲車ヲ前後ニ移動シ該分書ヲ以テ假標定點ヲ照準シ後更ニ適當ナル標定點ヲ選定スヘシ
- 2 砲車ヲ左右ニ移動スル場合ニ在リテハ射向ヲ換フルコトナク現在砲車位置ト新砲車位置トヲ連ヌル線ニ近ク且成ルヘク遠キ地物ヲ假ノ標定點トシ之ヲ照準シ之ニ對スル分書ヲ求メ然ル後砲車ヲ左右ニ移動シ更ニ該分書ニテ假標定點ヲ照準シ射向ヲ標定シタル後適當ナル標點ヲ選定スヘシ
- 3 若シ標定點ヲ記載シアルトキ砲車ノ移動ヲ要スルトキハ時機ヲ捕ヘ他ノ砲車ニヨリ反點法ニヨルヲ可トス然レトモ情況急ヲ要スル場合ニアリテ前項ノ要領ニヨリ動作シ原點分書ヲ保留スヘキ手段ヲ省略セサル可ラサルコトアルヘシ

#### 四、中隊長單簡ニ照準點ヲ示ス事能ハサル場合ニ於ケル砲車長ノ注意(操二二二)

- I 照準點指示者ニヨリ照準點ノ指示ヲ受クル場合  
砲車長ハ照準點指示者ニ注意シ小隊内ニ於テ指示者ノ來ルヘキ方向ノ砲車ノ傍ニ至リ指示者ノ示スル方向ヲ了知シ以テ指示者ノ指示スヘキ砲車數ヲ減スルヲ可トス
- 2 狀況ニヨリ砲車長ヲ集メテ照準點ヲ示サル、場合

砲車長ハ指示セラレタル照準點ヲ確實ニ了解シ歸途之ヲ注視シツ、己レノ砲車ニ至ルカ又ハ目標兩側ニ接近セル二個ノ地物ヲ選定シ此地物ノ夾又ニヨリ照準點ヲ確認スルヲ可トス然ラサレハ往々照準點ノ誤謬ヲ生スルニ至ル

#### 五、射撃操作

- I 中隊ノ一部ニテ射撃シアル際他砲車ノ準備上特ニ注意スヘキ事項(操二二二)  
着發信管ヲ以テスル射撃ニアリテハ三番ハ一彈藥筒ヲ取ル  
曳火信管ヲ以テスル射撃ニアリテハ五番ハ一彈藥筒ヲ取り信管廻ヲ信管ニ箆裝ス
- 2 小隊發射ニ際シ他小隊ノ砲車長ハ發射中ナル小隊ノ發射速度ヲ記憶シアルヲ要ス然ラサレハ中隊ニ移リタル際發射速度ノ誤リヲ來スコトアリ
- 3 翼次射ニ於ケル砲車長ノ注意(操二二三、二二五)  
イ 砲車長ハ準備ナレハ小隊長ヲ注視シツ、手ヲ舉ケ要スレハ「第何良シ」ト唱ヘ之ヲ報告ス  
發射準備ノ報告ハ迅速ニシテ且確實ナルヲ要ス而シテ此報告ハ手ヲ舉ケ視目ニ依ル連繫ヲ主トスヘキモ視目ニ依ルコト能ハサル時例ヘハ夜間若クハ小隊長他ニ動作セル時ハ「第何良シ」ナル呼號ニ依ルモノトス

ロ 迅速射ニアリテハ發射速度ハ約ネ二秒時毎トス  
 二秒時ノ胸算ハ拉繩ヲ引タル後足ニテ調子ヲ取り速歩行進ノ速度ニテ四歩目ヲ陷ムトキ發火ス  
 ル如ク號令スルカ若クハ隣砲車ノ閉鎖機ヲ開キタル音ニヨリ直チニ發射セシムル如クスルヲ可  
 トス然レトモ砲車長ハ此ノ如キ補助手段ニヨルコトナク期セスシテ二秒時毎ニ順次發射ノ令ヲ  
 下シ得ル如ク習熟スルコト必要ナリ又二順以上迅速射ヲ行フ時ハ各繼目ニ於ケル發射速度ヲ圓  
 滑ナラシムルコトニ注意スヘシ

八 發射スヘキ順次ニ於ケル砲車未タ發射準備終ラサルトキ若クハ故障ヲ生シタル時ハ速ニ其旨  
 ヲ小隊長ニ報告シ發射ノ時機ニ關シ指示ヲ受クヘシ

ニ 未タ所命彈數ヲ發射シ終ラサルニ先チ信管距離變換ノ號令アリタル後始メテ之ニ應スル彈丸  
 ヲ發射シタル時ハ其砲車長ハ小隊長ニ「新信管」ト報告ス此報告後舊信管ノ彈丸ヲ發射シタルト  
 キハ「舊信管」ト報告ス但此報告ハ翼次射ニ限ルモノトス

四 大ナル方向角ノ級梯ヲ號令セラレタルトキハ次ヲ掃射ヲ命セラル、コト屢々ナルヲ以テ砲車  
 長ハ要スレハ方向分書ヲ中央ニ準備セシムルヲ可トス

五 破壊射撃ヲ行フニ方リ指揮官ヨリ射彈觀測ノ結果ヲ防楯ニ記載スヘク命セラル、トキハ射距

離並ニ之ニ應スル射彈遠近ノ關係ヲ一目明瞭ニ記載スル如クスヘシ

6 射撃信號ニヨリ射撃施行ノ際砲車長ノ注意(教八七)

砲車長信號ヲ讀ミ得ルトキハ之ヲ砲手ニ傳達シ直ニ操作セシメ小隊長ノ復唱ニヨリ砲手ハ其操作  
 ヲ點檢スルヲ可トスヘキモ部下ノ監視ヲ怠ラサルコト緊要ナリ

7 砲車長ハ常ニ中隊長ノ號令ニ注意シ中隊長ノ號令ニヨリ直チニ動作セシムヘキモノト小隊長ノ  
 號令ニヨリ動作セシムヘキモノト砲車長自ラ號令スヘキモノトヲ判然區別シ自己ノ號令ニヨリ動  
 作セシムヘキモノハ直チニ號令ヲ下シ遲延セシメサルヲ要ス

#### 第四 部下操作ノ監視

##### 第一 要領

砲車長ノ部下監視要領概ネ左ノ如シ  
 操作上ノ要點及兵卒ノ誤リ易キ點ニ着意シ其操作間ニ於テ之ヲ發見シ適時之ヲ修正スルヲ主眼トス然  
 レトモ若操作間ニ於テ之ヲ發見シ得サルトキハ其結果ヲ點檢シ速ニ誤リヲ發見セサルヘカラス即チ操  
 作間ノ監督ヲ主義トシ操作後ノ點檢ヲ以テ之ヲ補フ如クセハ可ナラン

砲車長ハ監視上常ニ射撃諸元ヲ凡テ記憶シアルヲ要ス然レトモ何等手段ヲ講スルコトナク射距離回轉盤分書信管修正分書高低角等ヲ凡テ記憶スルハ殆ント不可能ナルヲ以テ諸元中一部若クハ大分ヲ適宜手簿ニ記載シ置クヲ可トセン然レトモ之カ記載ノ時機ニ關シ特ニ注意ヲ拂フニアラサレハ緊要ナル部下ノ指揮及監視ヲ中絶スルコトナキヲ保セス

砲車長部下ノ監視ヲ適切ナラシムルニハ克ク各砲手ノ動作ニ通曉シアルコト緊要ナリ之カ爲先ツ操典ヲ研究シ聊モ疑義ヲ存スヘカラス自己ノ研究不充分ニシテ部下ノ監視ヲ適切ナラシメントスルカ如キハ木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ今監視上ノ要點ヲ列舉セハ概ネ左ノ如シ

1 操作上ノ要點ニ就テ

操作上ノ重點ニ着意シ監視スルヲ緊要トス例ヘハ左ノ如シ

イ 射向附與ニ於テハ回轉盤分書ノ裝定及照準點ヲ誤ラシメサルコト

ロ 射角附與及發射準備ニ關シテハ表尺及信管廻ノ裝定ヲ誤ラシメサルコト

ハ 射向變換ニ於テ其量及方向ヲ誤ラス且ツ變換後ノ照準ヲ忘レシメサルコト等

2 誤リ易キ點ニ就テ

イ 操作ノ始メニ注意スルコト即チ號令ニ應スル第一回操作ハ通常之ヲ誤リ若クハ不精密ノ操作ヲ

ナスコトアリ例ヘハ射撃準備又ハ大ナル射向變換ノ時機或ハ信管幾何高メ下ケ何千何百何發ノ號令アルトキ諸元ヲ誤ルコト多ク或ハ操作粗漏ナルコト多シ殊ニ放列布置ト同時ニ號令ノ下リタル場合ニ於テ然リトス

ロ 操作ノ難易ヲ顧慮シ一號令ノ下ニ操作スル各砲手中最モ困難ナル操作ヲナス砲手ニ對シ特ニ注意スルコト

例ヘハ「五十左ヘ一發」ノ號令アル時ハ二番

「信管五ツ下ツテ三千一發」ノ號令アル時ハ四、五番

「四十右ヘ級梯十關ケ二千五百一發」ノ號令アル時ハ二番ニ注意スルカ如シ

ハ 號令中射撃諸元ニ大ナル變換アル場合ニ注意スルコト例ヘハ三千附近ノ射撃ヲ爲ス場合ニ於テ二番或ハ五番カ距離ヲ千米誤リ又ハ連續同方向ノ信管修正ヲ令セラレツ、アルトキ反對方向ノ修正號令ニテ修正ノ方向ヲ誤ル等はナリ

ニ 號令ノ誤リ易キモノニ注意スルコト

例ヘハ二千ト千、一分書ト二分書、三ツ「右ヘ」ト「五ツ右ヘ」或ハ「一ツト五ツ」等

ホ 號令複雑ナル場合ニ注意スルコト

例へハ號令ヲ誤リ下シタル際信管修正又ハ方向修正ヲ二度令セラレタル場合等  
以下射撃ノ各時期ニ就テ部下監視ノ要領ヲ詳述スヘシ

其二 射向附與

砲車長ハ照準具ノ裝定及照準ヲ監視ス(操一二〇)

1 照準具裝定上ノ監視

イ 方向角ヲ令セラレタル時回轉盤ヲ旋回セル方向並ニ指標ト本分書トノ關係位置正シキヤ否ヤヲ監視ス

ロ 方向角ノ修正ヲ令セラレタル時補助分書ノ轉輪及分書環ヲ移動スル方向及節ヲ立テ、旋回スル回数ヲ監視ス

右ノ如クスルモ監視困難ナルトキ又ハ誤リ易キ號令ノ下リタル時若クハ號令ノ徹底困難ナリト思惟スル時ハ直ニ點檢スルヲ可トス

2 照準ノ監視

イ 單ニ照準點ヲ示サレタル時ハ砲身方向正シク照準點ニ對シアルヤ否ヤヲ檢スヘシ

ロ 方向角ヲ令セラレタル時ハ射向ト照準點トノ間ニ所命ノ分書ヲ有スルヤ否ヤヲ檢スヘシ

ハ 方向角ノ修正ヲ令セラレタル時ハ射向カ標準點ニ對シ所命ノ方向ニアリテ且ツ修正スヘキ量ニ應スル點ニ對シアルヤ否ヤヲ見ルヘシ

射向カ所望方向ニアラサルトキハ照準點ノ誤解ナルカ或ハ分書裝定ノ誤ナルカヲ點檢スヘシ又照準點ノ點檢ハ照準操作中眼鏡ノ方向ニヨリテ行フヲ可トス

3 標定點ノ性能適當ナルヤ

標定點ハ二番砲手最モ獨斷活用ヲ要スル事項ニシテ其良否ハ著シク射撃精度及速度ニ關係スルモノナルヲ以テ之カ監視ヲ忽諸ニ附セサルヲ要ス又射向變換ノ際未タ之ヲ要セサルニ係ラス屢々標定點ヲ變更スルカ如キハ雷ニ動作ヲ複雑ナラシムルノミナラス射撃速度ヲ遲緩スヘキヲ以テ注意スヘシ

其三 射角附與及發射準備

砲車長ハ照準具信管廻ノ裝定及照準ヲ監視ス(操一二二)

1 表尺及信管廻ノ裝定並ニ改裝ノ監視

イ 表尺及信管廻裝定ノ監視

屢々千米ノ誤ヲ生スルコトアリ之カ爲表尺ニアリテハ座筒上ニ抽出セル表尺ノ高サニヨリ信管廻ニ在リテハ挿飯螺ト握把又ハ圓孔トノ關係位置ニヨリ檢スヘシ

ロ 表尺及信管廻改装ノ監視

表尺ニ在リテハ現在ノ距離ニ關シ變換スヘキ距離ノ差及増減スヘキ方向ニヨリ蝸狀螺桿ノ轉輪及高低照準機轉把ヲ旋回スヘキ方向及回数ニ依リ檢スヘシ

信管廻ニ在リテハ變換スヘキ距離及増減スヘキ方向ニヨリ插飯螺ノ移動方向及握把或ハ圓孔トノ關係位置ニ依ルヘシ

ハ 信管距離變換ノ監視(操二三五)

現在取リアル修正分書ニ關シ信管廻ノ體ヲ旋回スヘキ方向及量ニヨルヘシ此際砲手ヲシテ修正ノ結果ヲ砲車長ニ報告セシムルモ亦一法ナラン

然ルトキハ砲車長ハ所命ノ修正量ヲ修正シテ得タル量ト砲手ノ報告セル量ト一致スルヤ否ヤヲ確ムルコト緊要ナリ

2 小ナル高低角修正ノ監視

高低水準器ノ轉輪ヲ旋回スル方向及量ニヨル外二番ノ報告ニヨリ確ムヘシ

此際二番ノ高低照準ヲ遲緩シ若クハ忘却セサルコトニ注意スルヲ要ス

3 照準ノ監視

照準ノ良否ハ二番砲手ノ責任ニシテ照準ニ關スル技術上ノ能力ハ砲車長必スシモ優秀ナラス故ニ砲車長ハ照準點ニ誤解ナキヤ表尺ノ裝定及改装ニ誤ナキヤ照準上遺漏ナキヤ否ヤ等ニ關シ着意シ監視スルコト緊要ナリ

其四 發射

射撃間破裂高ノ著シク不規ナルコトヲ認メタルトキハ砲車長ハ砲手ノ操作上次ノ件ヲ點檢シ其誤リノ有無ヲ確ムヘシ即チ左ノ如シ

イ 表尺距離

ニ 高低照準

ロ 高低水準器ノ分書

ホ 信管ノ測合

ハ 信管廻ノ距離及修正分書

ヘ 照 準

其五 射向變換

一、回轉盤ヲ以テスル時ノ監視(操一三九)

1 小變換ノ場合(架尾ヲ移動セサル範圍)

イ 修正量ヲ反對ニセサルヤ及修正後ノ照準ヲ忘レサルヤニ注意スヘシ方向及量ハ二番ノ操作間ニ於テ補助分書ノ轉輪及搖架轉把ヲ旋回スル方向ト節ヲ立テ、旋回スル回数ニヨリ監視ス

射撃間小隊長及砲車長ノ職務

ヘシ

ロ 補助分畫轉輪ノ空轉ニヨル誤差ヲ消去スル爲左ニ旋シ止ムルノ規定ニ注意スヘシ

ハ 照準ニ方リテハ一番ノ報告ニヨルノ外所命ノ修正方向及量ニ應シ指幅等ヲ利用シ何レニ射向カ向クヘキヤヲ定メ之ニヨリ修正後ノ射向ヲ點檢スヘシ

ニ 駐鋤固定前ニ在リテハ方向分畫貯存ノ主旨ニ基キ成ルヘク架尾ヲ動シテ照準セシムルヲ可トス

2 中變換ノ場合(補助桿ヲ使用セス單ニ架尾ヲ移切スル範圍)

イ 操作間ニ於ル監視ハ先ツ二番砲手修正ノ操作ヲ前項ノ要領(但シ本分畫ハ一分畫宛)ニヨリ監視シ次ニ四番ノ架尾ヲ移動スル方向及量ニ注意シ然ル後二番及四番ノ合同操作ニ於テ兩者略一致スルヤ否ヤニ注意スヘシ二番ノ修正量正シク四番砲手架尾ノ移動適當ナレハ二番四番ノ合同操作ハ圓滑ニ實施セラル、モノトス此圓滑ヲ缺クハ何レカ誤リアルニ基因スルモノナルヲ以テ注意シテ點檢スルヲ可トス

ロ 方向分畫ヲ零ニ復スルヤ否ヤ

ハ 架尾移動ニ際シ砲車位置ヲ移動セシメサル事ニ特ニ注意スヘシ之カ爲傾斜地ニ在リテハ砲車

ノ施回點ヲ車軸ノ中央ニアラシムル如ク反對方向ヨリ互ニ車輪ヲ保持セシムルヲ可トス

3 大變換ノ場合(補助桿ヲ使用スル範圍)

イ 修正量及標定點ヲ誤ラシメサルヲ緊要トス

ロ 射向變換ニ方リ更ニ他ノ標定點ヲ選定シタル時ハ爾後射向ノ變換ニ際シ標定點ノ選定適當ニシテ此標定點ト前ノ標定トヲ誤ラサルコトニ注意スルヲ要ス

二、搖架轉把ヲ以テスル時ノ監視(操一四〇)

1 旋回方向及量

方向ハ砲口若クハ砲尾ノ移動スル方向ニヨリ監視シ量ハ節ヲ立テ旋回スル回数ニヨルヘシ

2 搖架轉把ノ空轉ヲ除去シアルヤ否ヤ

3 「方向舊ヘ」ノ令アル迄ハ方向照準ヲ行フコトナシ從テ坐筒氣泡モ亦點檢スル必要ナキモノトス

其六 散布

射距離ト信管距離ト一致セサル彈丸ヲ發射セシメサルヲ緊要トス

1 信管ヲ測合スル毎ニ「一、二、」ト唱フルハ散布ニ於テ其効用最モ大ナリ故ニ五番又ハ四番ノ呼唱ト



二番砲手縦表尺ノ改装トニ關シ特ニ監視スルコト緊要ナリ

2 「近ク何百」ヲ「遠ク何百」ト誤ルコトアリ

3 以上ノ外射角附與、發射準備及發射ノ部ニ述ヘタルト同要領ニヨリ監視スヘシ

其七 掃射

- I 射角附與、發射準備、發射及搖架轉把ヲ以テスル射向變換ノ要領ニヨリ監視スヘシ但シ一旦掃射ヲ終リタル後「方向舊ヘ」ヲ行フトコトナクシテ更ニ掃射ヲ行フトキハ現在ノ射向ニテ先ツ一發々射セル後射向ヲ變換スヘキコトニ注意スルヲ要ス殊ニ同方向ニ連續掃射ヲ行ハントスルトキニ於テ然リトス又反對方向ニ掃射ヲ行フトキハ搖架轉把ノ空轉ヲ確實ニ除去スルコトニ注意スヘシ
- 2 散布ト同時ニ掃射ヲ行フトキハ次ノ距離ニ移リタルトキ掃射ヲ行フヘキ方向ヲ誤ラサルヤ否ヤヲ監視スヘシ

其八 表尺照準

目標ヲ誤ラシメサルト及照準スヘキ點ニ注意シ又已ニ回轉盤分畫ヲ取リアルトキハ一旦之ヲ零ニ復スルヤ否ヤヲ監視スヘシ

其九 射擊準備

反點法ノ際ニ於ケル砲車長監視ノ要領

基準砲車長ハ二番カ遂次各砲車ヲ照準スル操作ヲ監視シ尙分畫續算ニ當リ他ノ三門ノ砲車ノ關係位置ニヨリ分畫ノ増減スヘキ關係ヲ胸算シテ二番カ他砲車ノ標桿ヲ誤リ照準シアラサルヤヲ點檢スヘシ又分畫測定ニ方リテモ二番カ補助分畫ノ轉輪ヲ左ニ施シツ、止ムル事肝要ナリ又反規法ハ近距離ニ照準點ヲ選定シタルト同様ナルヲ以テ特ニ砲車位置ヲ移動セシメス砲手ノ操作ヲ精確ナラシムル

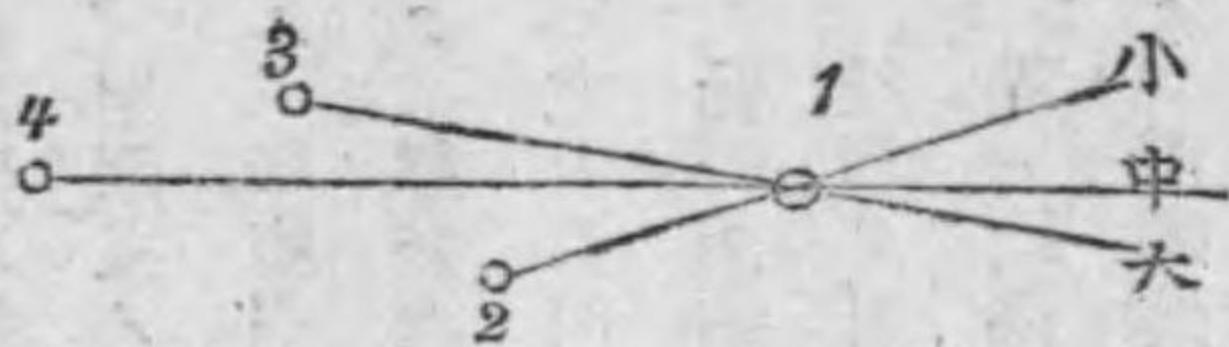
コトニ注意スヘシ

今第一砲車ヲ基準砲車トシ反規法ヲ行フ際砲車位置ノ前後ニヨリ分畫ノ増減スヘキ關係ヲ圖示セハ左ノ如シ

上圖ノ如キ場合ニ在リテハ第二ハ最小第三ハ最大第四ハ中間分畫ナリ

第五 材料ノ監視

幹部ハ自ラ能ク兵器ノ性能及使用ニ精通シ兵卒ヲシテ各其分擔スル職務ニ應シ之カ點檢及取扱ニ細心注意セシメ以テ火砲ノ威力ヲ發揚スルニ遺憾ナキヲ期スヘシ(操  
五二)



射撃問砲車長ハ閉鎖機駐退機及後坐尺其他材料ノ各部ニ注意ス(操一三二)

一、閉鎖機ノ點檢

1 槓桿引鐵杠子安全栓等ノ作用圓滑確實ナリヤ

2 擊發機ノ機能確實ナリヤ

之カ爲閉鎖機ヲ充分ニ開キ杠子ヲ壓シ引鐵ヲ牽引シテ點檢スヘシ

此際閉鎖機ヲ充分開カスシテ引鐵ヲ引ク時ハ擊莖尖端ヲ以テ抽筒子ニ打痕ヲ生セシムル事アリ

拉繩ヲ引カサルトキハ擊莖尖端ハ鎖栓前面ノ後方零密五ノ處ニ在リ而シテ發射ノ際擊莖ノ前出シ

得ル距離ハ三密五ナリ故ニ鎖栓前面ニ出ツル長サハ三密ナリトス

3 頭螺熔融痕又ハ凹陷ヲ存セサルヤ擊莖進出孔擴大シアラサルヤ

4 擊莖室塞底ニ龜裂ヲ生シアラサルヤ

5 擊莖尖端ニ龜裂ヲ生セサルヤ擊莖發條ニ變長又ハ變形ナキヤ

二、駐退機ノ點檢

射撃問ニ於テハ主トシテ砲身ノ後復坐ノ状態ニ注意スルヲ要ス而シテ砲身ノ後坐及復坐共ニ整齊ナルハ駐退機ノ機能良好ナルヲ證スルモノナリ而シテ其景況良好ナラサルトキハ速ニ分解シ點檢スル

ヲ要ス

1 後坐復坐共ニ急激ニシテ殊ニ復坐ノ際砲身ヲ搖架ニ擊突スルカ如キハ概ネ次ノ原因ニヨル

イ 活塞及節制頭導子ノ磨滅量大ナルトキ(漏孔面積過大)

ロ 液量ノ不足

2 復坐量ノ不足ナルハ概ネ次ノ原因ニヨル

イ 發條ノ折損又ハ衰弱セル爲

發條折損ノ場合ニハ尙砲身ノ進退運動間搖架中ニ轆轤聲ヲ聞キ手力ヲ以テ容易ニ復坐ヲ全カラシ

メ得ルヲ普通トス

ロ 仰角大ナル爲

射角二十度ニ及ヘハ若干復坐ノ不足ヲ生スルコトアルモ機能上特ニ顧慮ヲ要セス此際復坐ノ不

足ハ手力ヲ以テ之ヲ助クルヲ可トス

ハ 液ノ膨脹又ハ氣化體張力ノ爲

連續數多ノ射撃ヲナス時ニ生起ス斯ノ如キ時ハ注液孔ヨリ一時少量ノ氣體又ハ液體ヲ排出スル

ヲ良トス

ニ 活塞節制頭ト駐退管トノ摩擦

此場合ニハ復坐ノ際響音ヲ發シ砲身中途ニテ停止スルニ至ル故ニ直ニ射撃ヲ中止シテ駐退機ヲ分解シ點檢スルヲ要ス

ホ 搖架準飯ノ塗油不足セル爲

此現象ハ特ニ射撃ノ初期ニ於テ復坐ノ滯滯遲緩ニヨリテ知ルコトヲ得此ノ如キ場合ニ在リテハ直ニ注油スルヲ要ス又要スレハ分解シテ準飯及準溝部ノ手入ヲナスヘシ

3 後坐量ノ過大ナルハ次ノ原因ニヨル

イ 各部ノ磨滅ニヨリ後坐漏孔ノ過大トナリタル爲

ロ 液比重ノ過小ナル爲

ハ 液量不足ナル爲

ニ 緊塞具緊縮不足ノ爲

ホ 緊塞具不良ノ爲

ヘ 多少ノ増大ハ敢テ意トスルニ足ラサルモ後坐長一米三〇以上ニ達スル時ハ後坐ノ際活塞ヲ壓定鑲ニ衝突セシムルノ恐アルヲ以テ此ノ如キモノハ射撃ヲ中止シ分解點檢ヲ要ス

4 駐退液ノ漏出スルコトアルハ次ノ原因ニヨル

イ 緊塞革及革鑲ノ損廢セル爲

ロ 壓塞螺ノ緊定不十分ナル爲

ハ 駐液孔塞螺ノ緊定不十分ナル爲

ニ 駐退管其他ニ地金疵アル爲

三、後坐尺ニ就テ

I 後坐尺發條ノ作用適度ナリヤ

指頭ヲ以テ徐々ニ進退セシメ得ルヲ程度トス後坐尺發條ノ力弱キ時ハ砲身後坐ノ隋力ニヨリ過大ノ後坐長ヲ示スコトアリ

2 後坐尺ノ準備

發射前ニハ後坐尺ハ概ネ其半長ヲ進出セシメ置クヲ可トス是レ第一發ハ通常砲身ノ完全ナル後坐ヲ提起セス駐鋤吻入ノ爲砲車其者カ若干後坐スレハナリ故ニ第二發ノ後坐長ヲ點檢シ第一發ハ參考ニ供スルヲ可トス

3 發條ノ力弱キモノニアリモモ豫想スル我坐長ヨリ少量減セル位置ニ後座尺ヲ準備スルトキハ尙

射撃問小隊長及砲車長ノ職務

使用スルコトヲ得ヘシ

4 後坐尺ノ讀ミ方

後坐尺ハ其前端ト導溝ニ刻セル刻線トニヨリ後坐長ヲ測定スルモノトス  
適度ナル後坐長ハ一米二十五トス

若後坐尺ノ前端ニテ後坐長ヲ測定シ能ハサル時ハ後端ニテ測定シ是ヨリ後坐尺ノ長サ十六糧ヲ減  
スヘシ

四、其他左記ノ各部ニ注意シ検査並ニ手入ヲ勵行スル事必要ナリ

- 1 不發火ノ際ハ其原因爆管ニアルヤ又擊發機ニアルヤヲ検査シ若後者ニ疑アル時ハ速ニ分解シテ  
點檢シ擊莖室擊莖發條ヲ拭淨塗油シ所要部品ヲ交換スヘシ藥筒爆管ニ正シキ擊莖尖頭ノ折痕ヲ認  
メタルトキハ不發ノ原因ハ爆管ニ存在シ之ニ反シ爆管ニアル擊莖尖頭ノ打痕淺キカ一方ニ偏倚ス  
ルカ或ハ其痕跡ヲ認メサルトキハ不發ノ原因ハ閉鎖機ニアルコトヲ推定スヘシ
- 2 火藥瓦斯漏逸ノ際ハ直ニ擊發機能ヲ點檢シ要スレハ分解シ左ノ各部ニ注意シテ検査スヘシ
  - イ 閉鎖機鎖栓前面ヲ點檢シ汚染ヲ拭淨スルコト
  - ロ 頭螺ノ擊莖進出孔擴大セサルヤ

ハ 頭螺ニ熔融痕生セサルヤ

ニ 擊莖尖端變形セサルヤ

ホ 擊莖發條變長又ハ變曲セサルヤ

ヘ 擊莖室塞底毀損セサルヤ

3 腔發ノ際ハ直ニ之ヲ報告シ腔内ニ疵痕ヲ生セサルカラ點シ異狀ナキヲ認メタル後ニアラサレハ  
發射スヘカラス

腔發ハ着シク砲口直前ニ白煙ヲ飛揚スルト砲聲多少異ナルヲ以テ直チニ發見シ得ヘシ

4 塗油ノ缺乏若クハ藥室抽筒子前面閉鎖機及閉鎖機室ニ塵埃燼渣導帶ノ小片並ニ駐釘等附着セル  
爲彈丸裝填及閉鎖機開閉ニ滯滞ヲ生スルコトアリ之カ爲時々之ヲ検査シ射撃間屢拭掃塗油スルヲ  
可トス

5 彈藥筒ニ土砂塵埃等附着シアラサルヤ彈軸藥筒軸ニ一致シアルヤ又彈帶ニ打痕殊ニ縦痕ナキヤ  
否ヤヲ檢スヘシ

第六 人員材料ノ補充

砲車長ハ常ニ精神ヲ緊張シ平素ノ慈母ハ戰場ノ嚴父ト化シ以テ部下ノ志氣ヲ振起スルヲ要ス已ニ戰鬥ニ從事シ能ハサル死傷者ヲ生スルトキハ必要ナル裝具ヲ脱セシメ一時他ノ砲手ニ任務ヲ課シ全力ヲ盡シテ射撃ヲ繼續セサルヘカラス又材料ノ損傷ニ對シテハ其修理作業ハ先ツ需用ヲ充タシ得ルヲ度トシ射撃ヲ中繼セサルコト緊要ナリ材料ノ損傷生シタルトキ適時適當ナル所置ヲ行ハンカ爲メニハ砲車長ハ豫メ射撃間砲車ノ取扱及豫備品ノ位置用途ヲ熟知セサルヘカラス(附表参照)

砲車長ハ人員材料ニ損傷ヲ生セル時之カ報告ヲ何レノ時機ニ行フヘキカハ狀況ニヨリ異ルヘキモ常ニ志氣ヲ阻喪セサルコトニ注意スヘシ

1 射撃間ノ應急所置ノ概要左ノ如シ

表尺破損シタル場合ニ於テハ直チニ豫備表尺ヲ使用スルヲ可トス若象限儀ヲ以テ高低照準ヲ行フトキハ表尺ニテ照準シアル隣砲車ヨリ射角及高低角ヲ受領シ之ヲ象限儀ニ與ヘテ照準ス但方向照準ハ方向尖標等ニヨリ附與スヘシ

2 車輪破損セルトキハ一時彈藥車ノ車輪ヲ砲車ニ流用スヘシ

龜裂シタル車輻ハ其部分ヲ索條ニテ纏絡シ又折損シタル時ハ適宜副木ヲ添ヘ縛著スヘシ

3 駐退機故障等ノ爲之カ加修ニ時間ヲ要スルトキハ一時砲車ヲ後退シ修繕スルヲ可トスヘキモ此ノ

如キ場合ハ必ス小隊長ノ認可ヲ受クルヲ要ス

附表 各豫備品ノ名稱所在員數表

第一 閉鎖機豫備品

豫備拉繩一(砲架匣收入)

閉鎖機豫備品匣(砲車小箱收入)ノ收入品左ノ如シ

擊 莖	二	擊莖發條	三
頭 螺	一	杠子發條	三
引鐵發條	三	逆 鈎	一
釣 脫子	一	擊莖室塞底	一

第二 駐退機豫備品

所	在	品	目	員	數
中箱	中油罐	駐退機液			一 盞九〇〇
		護謨彈褥駐螺			二

射撃間小隊長及砲車長ノ職務

射擊同小隊長及砲車長ノ職務

前車品備豫												
匣品備豫第二												
(中)囊布					(大)囊布							
伸縮螺安全駐螺	壓塞螺安全發條駐螺	活塞桿化螺安全駐螺	駐退管安全駐螺	逸出孔辨發條	注油壺	同軸	逸出孔辨	活塞桿化螺	壓塞螺安定發條	壓定環	護謨環	注液孔塞螺
四	四	四	三	一〇	二	二	四	二	二	二	二	三

五三

射擊同小隊長及砲車長ノ職務

砲車前車												
箱小												
匣品備豫機退駐										閉鎖機匣		
護謨彈褥	活塞桿化螺安全駐螺	伸縮螺安全駐螺	壓塞螺安全發條駐螺	駐退管底螺安全駐螺	逸出孔辨發條	革環	緊塞革	同坐革	注液孔塞螺	護謨環	割栓(各部ノモノ合計)	注油壺
一	一	一	一	一	一	二	一	四	一	一	一三	一

五二

抽筒子	砲車及彈藥車前車中箱	抽筒子	各一
表尺座筒用氣泡管	砲車前車中箱眼鏡匣中	表尺座筒用氣泡管, 室共	一
爆管匣	彈藥車前車	豫備爆管鑰	一
四〇式藥莢爆管螺鑰	中箱	四〇式藥莢爆管螺鑰	一
車輪	豫備品車後車	車輪	二
轆桿		轆桿	一
		計	二

第三 其他ノ豫備品

象限儀	豫備品車前車	象限儀	二
信管廻	彈藥車前車中箱	信管廻	一
表尺	彈藥車前車中箱	表尺	一
眼鏡室	眼鏡室	眼鏡室	一
眼鏡(匣共)	眼鏡(匣共)	眼鏡(匣共)	一
表尺B號	表尺B號	表尺B號	一
員數		員數	

豫備品車後車	復坐發條	各六
	左旋轉	
	右旋轉	
	駐退機液	九盞一〇〇
	格納用鑛油	七盞〇〇〇
第四豫備品箱	復坐發條坐鈹	一二
護讓彈褥駐螺		六

中隊射擊教練教育要領

第一章	緒言	一
第二章	射擊教育之重要性	一
第三章	射擊教育之實施方針	一
第四章	射擊教育之實施程序	一
第五章	射擊教育之實施方法	一
第六章	射擊教育之實施要領	一
第七章	射擊教育之實施要領	一
第八章	射擊教育之實施要領	一
第九章	射擊教育之實施要領	一
第十章	射擊教育之實施要領	一



# 中隊射擊教練教育要領

## 目次

第一 要則	一
第二 準備教育	四
第三 射擊準備	五
第四 射向操縱	六
第五 射擊操作	七
第六 結論	八

## 中隊射擊教練教育要領

### 第一要則

一、中隊教練ノ目的ハ中隊長ヲ核心トシ中隊ノ團結ヲ鞏固ニシ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ其意圖ノ如ク戰鬪ヲ實行シ得セシムルニ在リ(操一四八)該目的ヲ達成セシムルニハ精神教育及內務教育ト相俟テ中隊全員ノ精神ヲ緊張セシメ常ニ中隊長ノ號令命令ニ着意セシムルコト緊要ナリ

二、中隊ハ中隊長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ確實ナル連繫及ヒ嚴格ナル射擊軍紀ニ依リ恰モ一機關ノ運轉スル如ク整齊圓滑ニ操作シ適時火炮最大ノ威力ヲ發揚シ得ルニ至ルヲ要ス(操二〇二)  
射擊軍紀トハ如何ナル場合ヲ問ハス射擊間號令及命令ヲ確實ニ實行シ射擊ニ關スル諸法則ヲ嚴守スルヲ謂フ(操二〇二)

以上ノ目的ヲ達成セシムルニハ先ツ基礎教練タル單砲教練ノ教育ヲ周到ナラシメ各種ノ場合ニ於テ精確敏活ニ操作シ得ルニ至ラシムルコト緊要ナリ單砲教練未タ確實ナラスシテ中隊教練ヲ實施シ單

砲教練ノ缺點ハ中隊教練ノ實施中併セテ之ヲ矯正セントスルカ如キハ全々該趣旨ニ合セサルモノトス

射擊軍紀ヲ嚴肅ナラシムルハ本教練ニ於ケル重要ナル目的ナリトス故ニ幹部ハ深ク茲ニ留意シ且ツ監視ヲ嚴密ナラシメ單砲教練ニ於テ修得セル事項ハ整齊確實ニ實施セシムルコト緊要ナリ然ルニ中隊射擊教練ニ在リテハ通常多クノ砲數ヲ以テ教練ヲ行フヲ以テ兵卒ノ心理狀態ニ變化ヲ來シ不知不識ノ間不正確ナル操作ヲ行フニ至ルヘキヲ以テ特ニ最初ノ時機ニ於テ注意ヲ周密ナラシメ爾後時々其精神ヲ緊張セシムル如キ手段ヲ講スルヲ要ス

又射擊軍紀ヲ嚴守セシムルニハ指揮官ハ號令ノ發唱ニ注意シ號令ノ取消ヲ行ハサルヲ要ス之カ爲不正ノ號令ハ直ニ之ヲ實行セシメ更ニ新號令ヲ以テ其ノ過誤ヲ改正スルヲ可トス

三、狀況ニ適應シ速ニ射擊準備ヲ敷ヘ確實ニ中隊ノ射向ヲ手裡ニ掌握スルハ射擊成效ノ第一着ナリ(操二〇四)之カ爲各種ノ狀況地形ニ於テ屢々射擊準備ヲ演練シ該目的ノ達成ヲ期スルコト緊要ナリ四、中隊ハ如何ナル方向ニ現ハレタル目標ニ對シテモ適時其全部若クハ一部ヲシテ放列正面ヲ變換セシメ之ニ對向シ機ヲ失セス射擊シ得ルコトニ熟練スルヲ要ス(操二〇二)之カ爲屢々放列正面ノ變換ヲ演練シ又突然某小隊ニ任務ヲ課シ或ハ放列正面ヲ變換スヘキ目標ニ對シ射擊號令ヲ下部下ノ獨

斷專行ノ能力ヲ發達セシムルヲ要ス

五、中隊ノ動作ハ特ニ規定スルモノ、外中隊長ノ號令ニテ直チニ之ヲ始ム(操二一九)

六、以上ノ趣旨ニ鑑ミ中隊ノ練成ヲ目的トスル本教練ニ在テハ特ニ左ノ各項ニ注意シ教育スルヲ要ス

1. 射擊軍紀ノ嚴守

2. 單砲教ト中隊教練トノ差異

兵卒動作ニ於ケル單砲教練ト中隊教練トノ差異ハ射擊號令ノ種類ニヨリ號令者ヲ異ニスルニ在リ之カ爲特ニ茲ニ留意シテ教育スルヲ要ス

3. 小隊長及砲車長ノ教育

七、中隊射擊教練ヲ實施スルニ當リ漫然實施ニ着手スルコトナク其ノ目的ニヨリ概ネ左ノ如ク區分シ重點ヲ確立スルヲ要ス

1. 中隊長教育

2. 小隊長以下幹部教育

3. 兵卒教育

以上ノ區分ハ常ニ必スシモ其必要ヲ認メサルモ何レノ點ニ重キヲ置クヘキヤハ豫メ之ヲ策定シ之ニ

適應スル如ク準備計畫スルヲ要ス本研究ニ於テハ主トシテ第二第三項ニ關シ説述セントス  
八、前條第二第三項ノ教育ヲ精練スル爲先ツ左ノ各項ニヨリ演練シ然ル後之ヲ綜合シ以テ其完成ヲ期スルヲ可トス又假令此等ノ事項ヲ連續シテ實施スル場合ニ在リテモ時々該區分ニヨリ監視シ要スレハ點換ヲ行フヲ可トス

1. 射擊準備

2. 射向操縱

3. 射擊操作

九、以上ノ如キ着意ヲ以テ本教練ヲ實施スルトキハ假令射擊演習ヲ實施セサルモ克ク兵卒實力ノ内容ヲ知悉スルヲ得ルノミナラス其缺點ヲ容易ニ觀破シ適時之ヲ矯正スルヲ得ヘシ

### 第二 準備教育

一、最初ヨリ多數ノ砲車ヲ以テ本教練ヲ實施スルモ細部ニ關スル徹底充分ナラサルヲ以テ先ツ一門ヲ以テ中隊内ノ某砲車タルコトヲ想定シ單砲教練ト中隊教練トノ差異ニ關シ演練シ後漸次砲數ヲ増加シ遂ニ中隊ヲ以テ實施スル如クスルヲ有利トス(操一四九)

二、兵卒ニ對スル最初ノ教育ニ在リテハ砲車長ハ優秀ナル者ヲ以テ之ニ任シ順序正シク實施シ得ル如クスルヲ有利ナリトス此際砲車長教育ヲ併セ行フ時ハ兵卒ノ頭腦ヲ錯亂シ效果大ナラサルモノトス  
三、初メテ中隊教練ニ於ケル砲車長ノ動作ヲ教育スル場合ニ於テハ全ク兵卒教育ト區分シ幹部教育ノ目的ヲ以テ先ツ一門ヲ以テ各種ノ場合ニ於ケル砲車長ノ動作ヲ教育シ然ル後一般教育ト併セ實施シ其伎倆ヲ向上スルヲ可トス未タ砲車長トシテ教育セサルモノヲ兵卒ノ爲初メテ行フ中隊射擊教練ノ砲車長トシ使用スルトキハ適時其缺點ヲ指摘シ教育スルコト困難ナルヲ以テ職務ノ實行嚴正ヲ缺キ何等確信ヲ有スルコトナク妄リニ兵卒ノ動作ニ干渉シ兵卒教育上大ナル惡影響ヲ及ホスニ至ルモノトス

### 第三 射擊準備

一、射擊準備ヲ迅速正確ナラシムルハ極メテ緊要ナリトス然ルニ單ニ射擊操作ノ前ニ於テ漫然各種ノ射擊準備ヲ實施スルニ止ムルトキハ之カ練成確實ナラサルノミナラス其進歩顯着ナラサルモノトス之カ爲先ツ左ノ區分ニヨリ各種ノ地形狀況ニ於テ某時間ハ連續之ヲ實施シ其要領ニ精通セシメ且時計ヲ利用シテ操作ノ迅速ヲ計リ又射擊準備完了後射向ヲ點檢シテ正確ヲ期シ漸次進歩スルニ至リ射